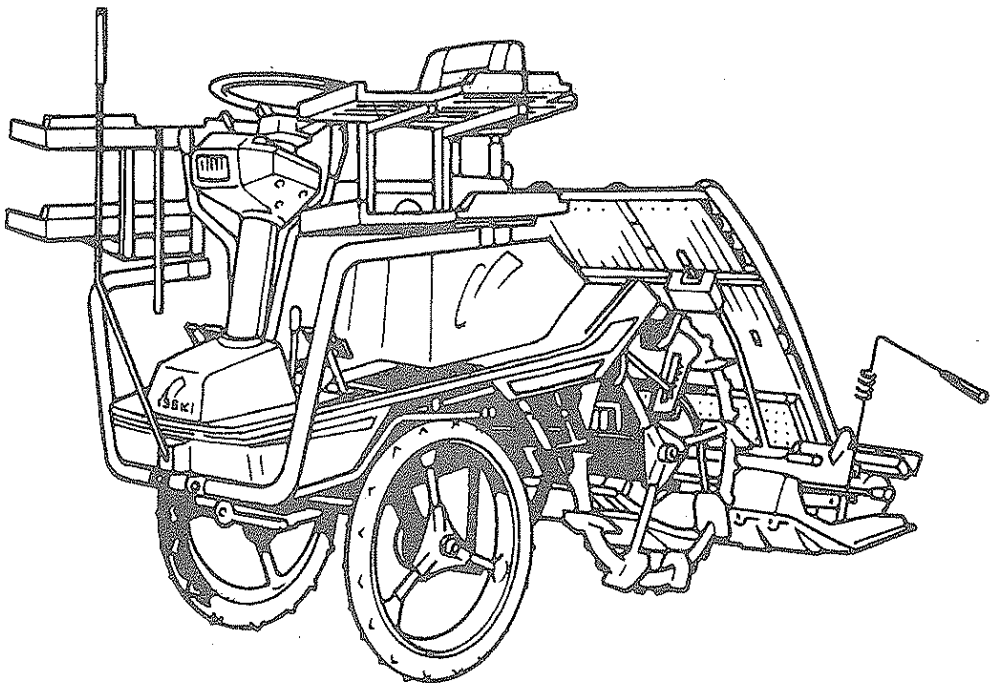
井セ半田植機

取扱説明書

SANAE

LOVELY mini

PM 50
40



ご使用前に必ずお読みください。

井関農機株式会社

田植機重要安全ポイント

1. ほ場まで移動するときは、
   トラックなどに載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、
   火気厳禁します。
   エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、
   主クラッチペダルを「切」主変速レバーを「中立」で行います。
   周囲の安全を確認してから行います。

4. 田植作業以外のときは、
   左右のブレーキペダルを連結します。

5. トラックへ積み降ろしするときは、
   強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。
   スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。
   上り、下りの途中で主クラッチ・ブレーキペダルは踏みません。

6. ほ場へ出入りするときは、
   スピードを落としあぜに直角に走行します。
   上り、下りの途中で主クラッチ・ブレーキペダルは踏みません。

7. 田植機や作業機を点検整備するときは、
   必ず安全な場所で、エンジンを止め、油圧ロックをします。

8. 補助者と共同作業を行うときは、
   合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

- この度は、ヰセキ田植機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- この説明書は、田植機を使用する際に是非、守っていただき安全作業に関する基礎的事項、田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転、調整、整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 田植機を初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本田植機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。
- 取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しておりますよく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

●この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記してあります。お買いあげいただいた田植機の型式・区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

装置内容＼型式記号		PM50D		PM40HD						PM40D						PM40	
		CW	CFW	C	CF	CN18	CU	CUF	CB	CW	CFW	CAW	CN18W	CUW	CUFW	CW	CSW
エンジン	FG 200G															○	○
	FG 230G	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
始動	リコイルスタータ式															○	○
	セルモーター式	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
パワーステアリング							○	○						○	○		
ロングホイールベース		○	○	○	○	○	○	○	○								
前輪	車輪径 ø550									○	○	○	○	○	○	○	○
	車輪径 ø600	○	○	○	○	○	○	○	○								
後輪	ゴムラグ車輪 ø700									○	○	○	○	○	○	○	○
	太リムラグ車輪 ø750	○	○	○	○	○	○	○	○								
補助苗枠		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
オートマーカ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
条間 33cm												○					
ヰセキポット 18条						○							○				
大株仕様									○								
施肥機			○		○			○			○				○		

目　次

安全のポイント ---- 1
非特殊自動車としての取扱い ---- 1
安全な作業をするために ---- 1
電装関係を取扱うときは ---- 10
安全表示ラベルについて ---- 12
保証とサービスについて ---- 13
各部の名称とはたらき ---- 14
各部の名称 ---- 14
計器およびスイッチのはたらき ---- 16
レバー、ペダル、シート関係の取扱い ---- 20
作業前の点検 ---- 27
給油、注油箇所の点検と補給 ---- 27
運転のしかた ---- 32
エンジンの始動と停止のしかた ---- 32
発進、停止、駐車のしかた ---- 35
移動、運搬のしかた ---- 36
ほ場への出入のしかた ---- 40
植付作業のしかた ---- 41
ほ場と苗の準備 ---- 41
植付作業前の準備 ---- 42
植付株数の決めかた ---- 42
株間切替レバー ---- 43
株間副変速レバー ---- 43
横送り量の調整のしかた ---- 44
植付深さの調節のしかた ---- 45
苗取り量の調整のしかた ---- 46
苗送り量の調節のしかた ---- 47
油圧感度調節のしかた ---- 48
抵抗棒の調整のしかた ---- 49
植付作業の手順 ---- 51
枕地のとりかた ---- 53
旋回のしかた ---- 53

オートマーカの使いかた ---- 54
苗の補給のしかた ---- 55
植えじまいのしかた ---- 56
残り苗の取り出し ---- 58
安全クラッチが作動したとき ---- 58

点検整備 ---- 61

定期的な点検整備 ---- 61
点検、給油、調整一覧表 ---- 61
エンジンオイルの交換 ---- 63
エアークリーナエレメント洗浄 ---- 63
点火プラグの清掃 ---- 64
燃料フィルターの清掃 ---- 64
油圧サクションフィルタの清掃 ---- 65
リヤミッションオイルの給油 ---- 65
ブレーキペダルの点検と調整 ---- 66
主クラッチペダルの点検と調整 ---- 66
バッテリの点検と取扱い ---- 67
バッテリ液の点検 ---- 67
バッテリの取扱い ---- 67
ヒューズの交換 ---- 68
ランプの交換 ---- 68
分離針の点検交換 ---- 69
長期格納時の手入 ---- 70
長期格納 ---- 70

不調時の処理 ---- 71

農作業を安全に行うために ---- 75

サービス資料 ---- 78
主要諸元 ---- 78
機能装備一覧 ---- 79
標準付属品 ---- 80
主な消耗部品一覧表 ---- 82
注文部品一覧表 ---- 84

索引 ---- 85

安全のポイント

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

非特殊自動車としての取扱い

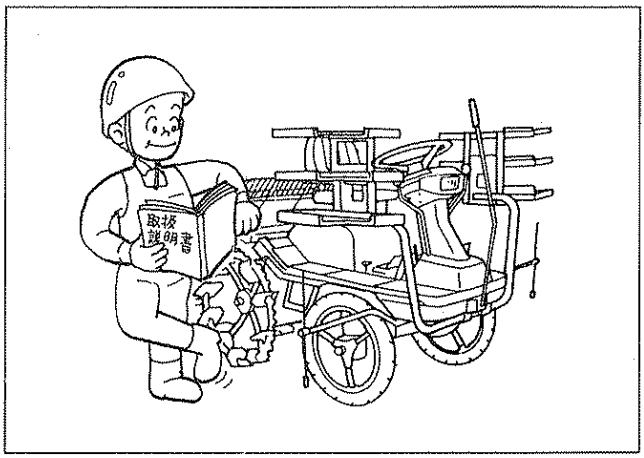
⚠

この田植機は、小型特殊自動車(農耕作業用自動車)として、道路走行車両の型式認定を受けておりません。従って、一般道路を走行することは、違法行為になります。移動する場合は、トラックなどに載せて運搬してください。

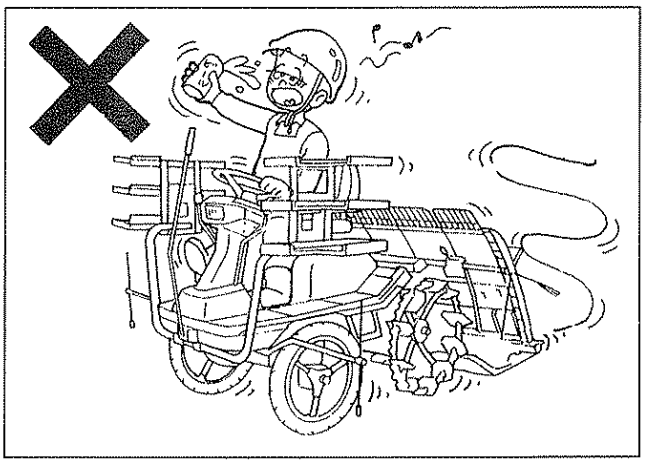
安全な作業をするために

■運転者の条件

(1) この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。

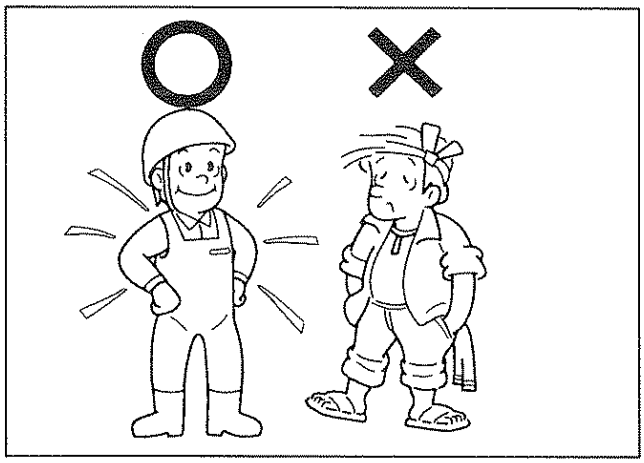


(2) 飲酒時や過労ぎみの時、作業をしてはいけません。このようなとき作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業するときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。



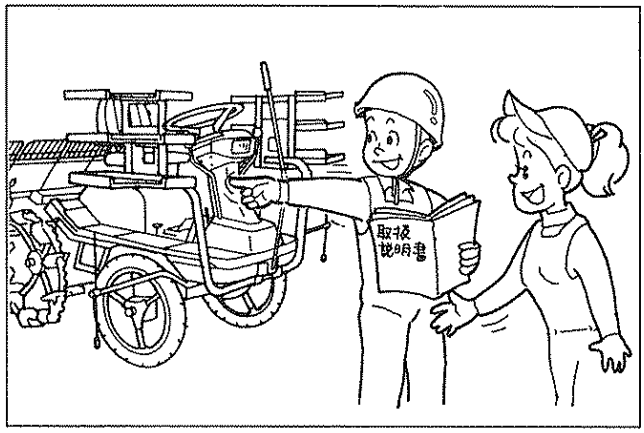
(3) 服装は作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

(4) 妊娠している人、18才未満の人は運転をしないでください。



■人に機械を貸すときは

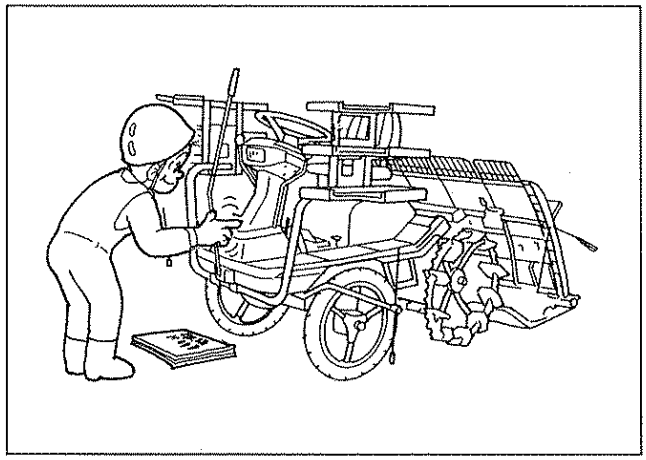
機械を貸すときは、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



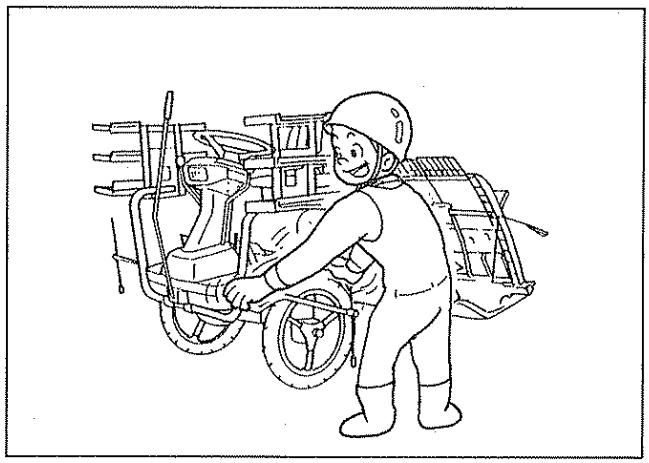
■作業を開始する前に

(1) 無理のないゆとりある作業計画をたてましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

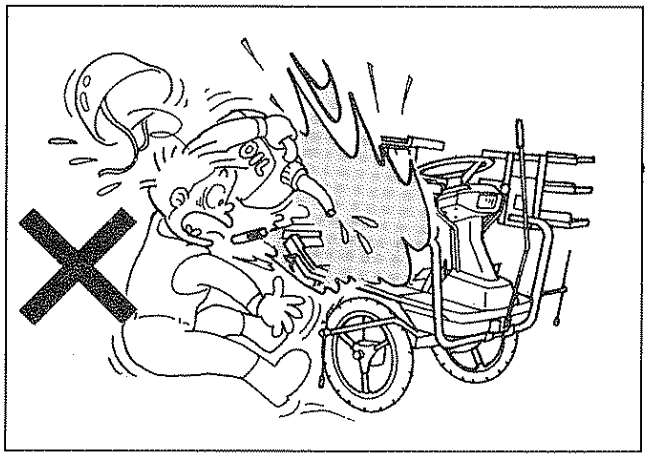
(2) 作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行なってください。特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



(3) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたままエンジンをかけたり、作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。

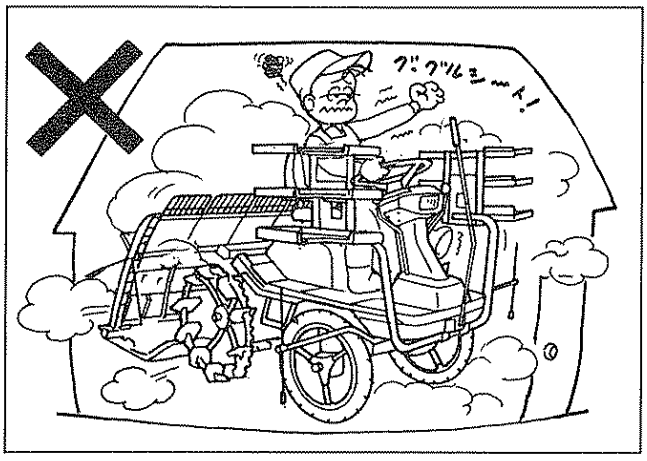


(4) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



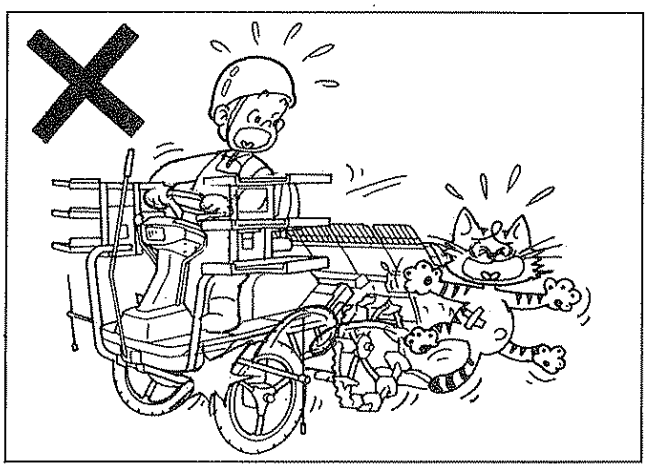
■エンジンの始動と発進

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

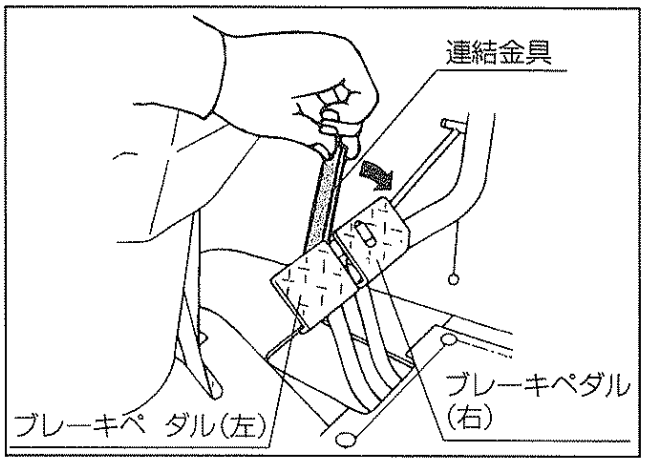


(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、主クラッチペダル・主変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。

(3) 発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■走行するときは



(1) この田植機は、自動車としての認定を受けていません。従って、公道を乗用走行することは違法行為になります。ほ場などへの移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。

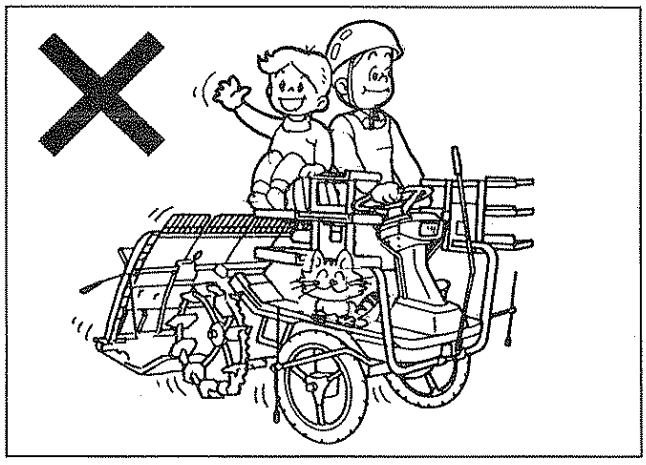
(2) ステアリングやクラッチは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や、転倒事故につながり大変危険です。

(3) 田植作業以外の時は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。連結を忘れると、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こします。

(4) ブレーキペダルを踏むときは、先ずアクセルレバーでエンジン回転を低速にしてから、主クラッチペダルと同時に踏み込んでください。ブレーキがきかなく衝突、転倒、転落事故を引き起こします。

(5) 田植作業以外の時は、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。解除してないと転落事故を引き起こします。

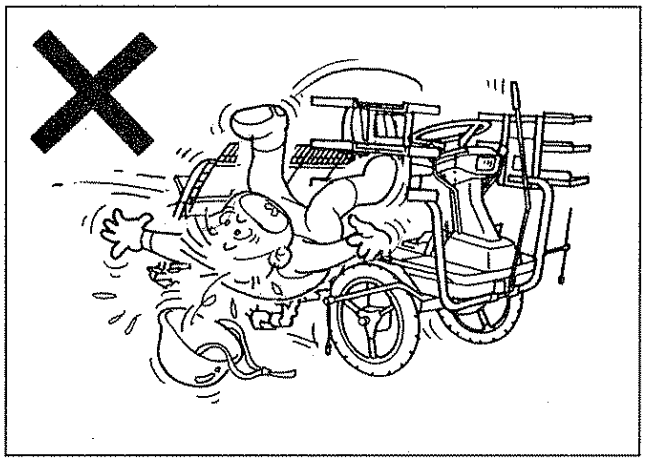
(6) 田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。人が転落したりして大変危険です。



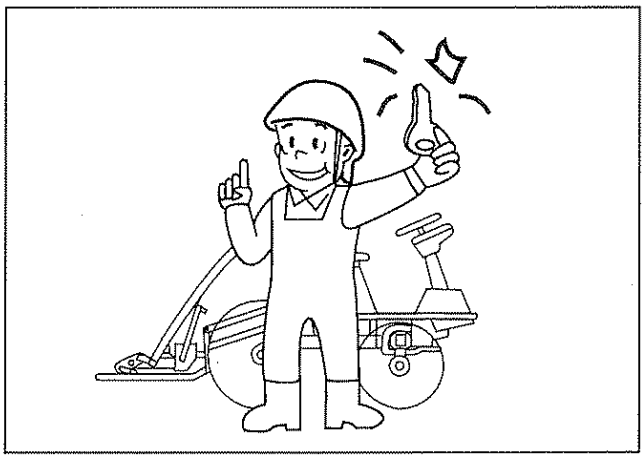
(7) 高速で急旋回しないでください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。

(8) 凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転は、しないでください。地面状況に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

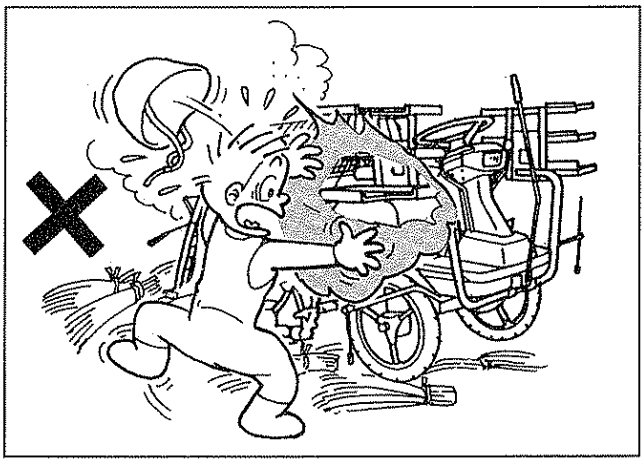
(9) 坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。また坂道を上るときは、低速でゆっくると、下がるときは、エンジンブレーキをかけ、決して主クラッチペダルを踏み込んだり、変速レバーを中立状態にしないでください。足ブレーキの多用は、ブレーキをいためるとともに、スリップや転倒の原因になり大変危険です。ブレーキペダルも踏み込まないようにしてください。



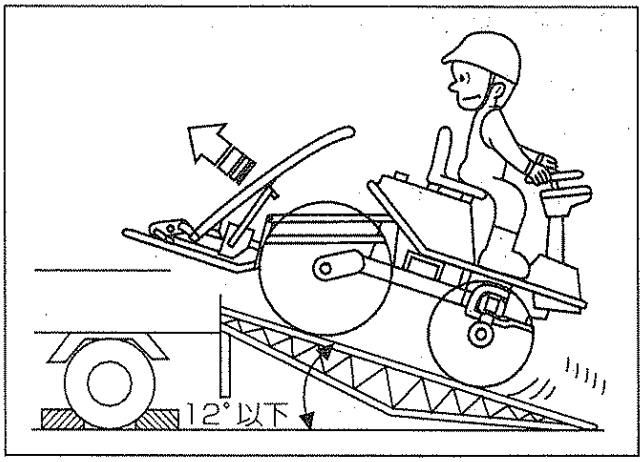
(10) 田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、止めるところは、広い地面の硬い場所を選んでください。田植機が、自然に動きだしたりして大変危険です。



(11) 田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になる恐れがあります。



■トラックへの積み・降ろし



(1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「１速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。これを怠ると、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行ってください。また、機械の直前や直後には、絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。

〈アユミ板の条件〉

- 長さ 車の荷台の高さの４.8倍以上
- 幅 30cm以上
- 数量 2枚
- 強度 1枚の強度が500kg以上
- すべり止めのあるもの

(4) 積み込み・積み降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。
また、主クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしてはいけません。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。

(5) 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

(6) トラック等で運搬するときは必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

■作業中は

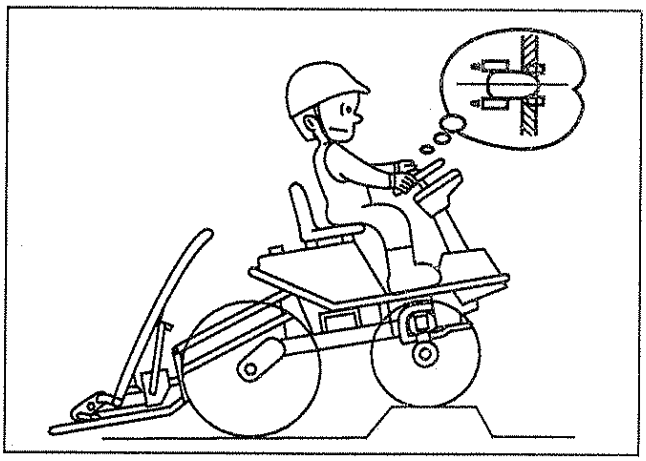
(1) 作業中は、作業者以外の人を機械に近づけてはいけません。機械自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

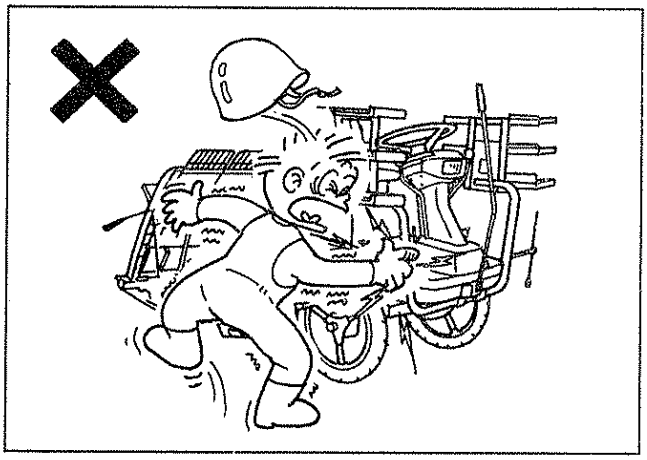
(2) 作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

(4) あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。
使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。

(5) 運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリ端子などの通電部など危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

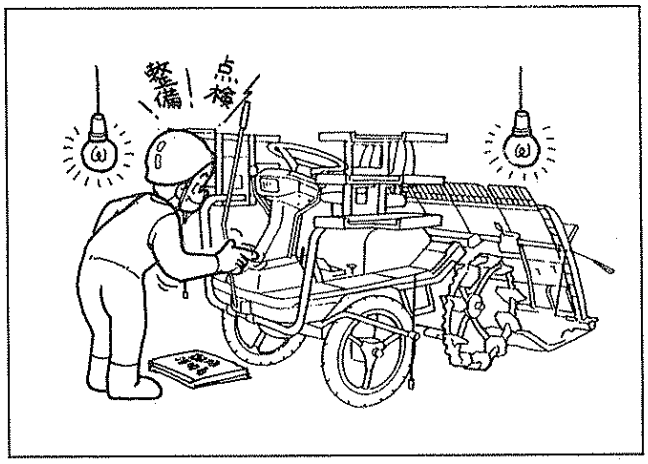




■夜間作業の禁止について

この田植機は、ライトを装着していますが、夜間作業は危険なので作業は早めに切り上げてください。暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

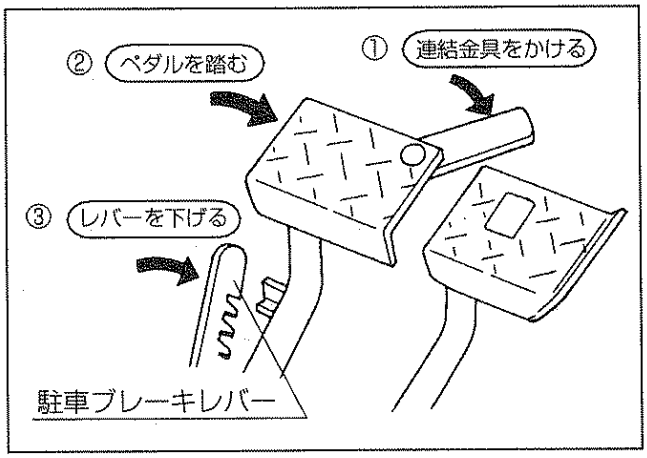
■点検・整備



(1) 取扱説明書に従って定期点検を実施してください。これは、機械を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行える第一歩です。

(2) 点検・整備をするときは、明るく平たんな場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか植付部の油圧を油圧感度調節レバーを「植付部固定」位置で固定してから行なってください。怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。

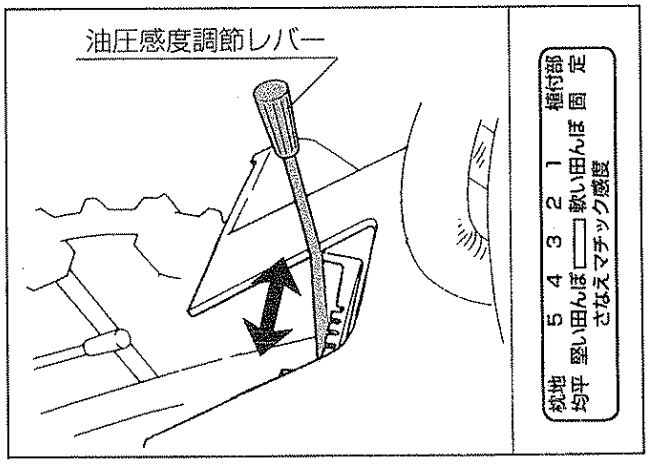


(4) 点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良により思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

(5) エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行なってください。怠ると、やけどなどの原因になります。

(6) 点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こす恐れがあります。

(7) 指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。故障や、事故の原因になり大変危険です。



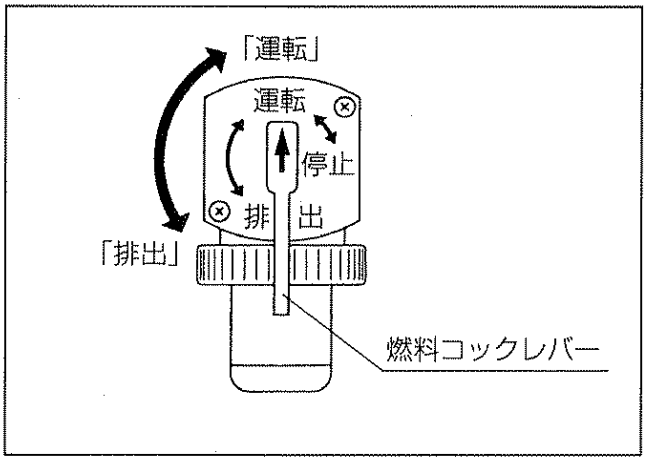
(8) 点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。

■格納・保管時は

(1) 燃料は必ず抜き取ってください。怠ると、火災の原因になり大変危険です。
燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。

(2) 作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(3) 長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因になり大変危険です。



電装関係を取扱うときは

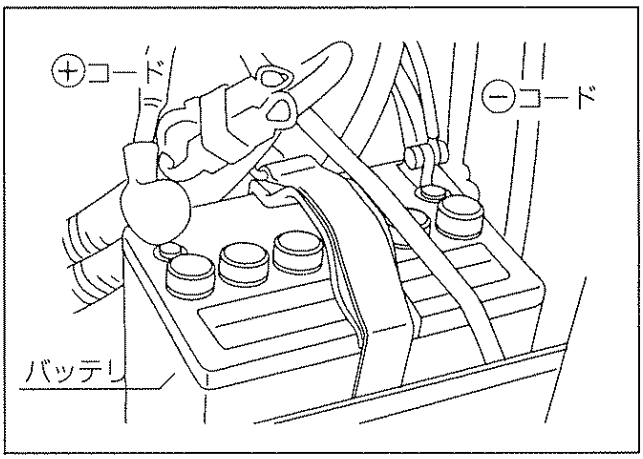
■電気配線点検時の注意事項

(1) 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして大変危険です。

(2) 接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリの㊀コードを外して行なってください。これを怠ると、火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート(短絡)・漏電の原因となり火災事故のなる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

(4) バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取り除いてください。これを怠ると火災の原因となります。



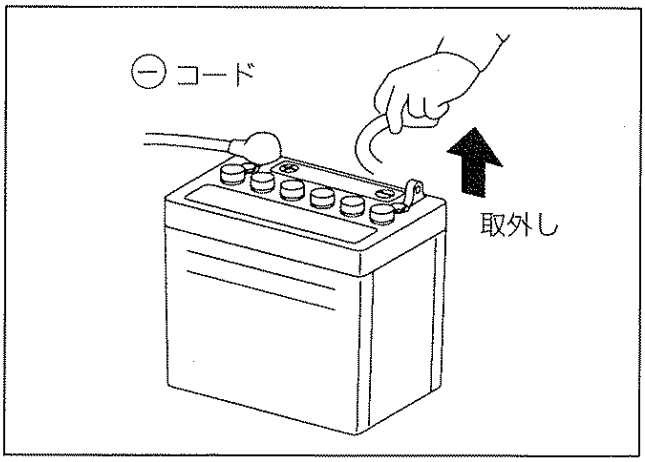
■バッテリ取扱い時の注意事項

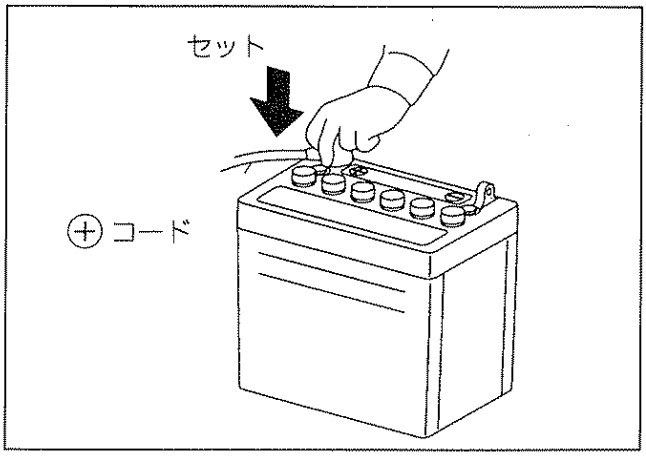
(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液(電解液)は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(4) バッテリコード(端子)を取外すときは、㊀のコードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、㊉コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。





■ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1) バッテリの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

(2) ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

安全表示ラベルについて

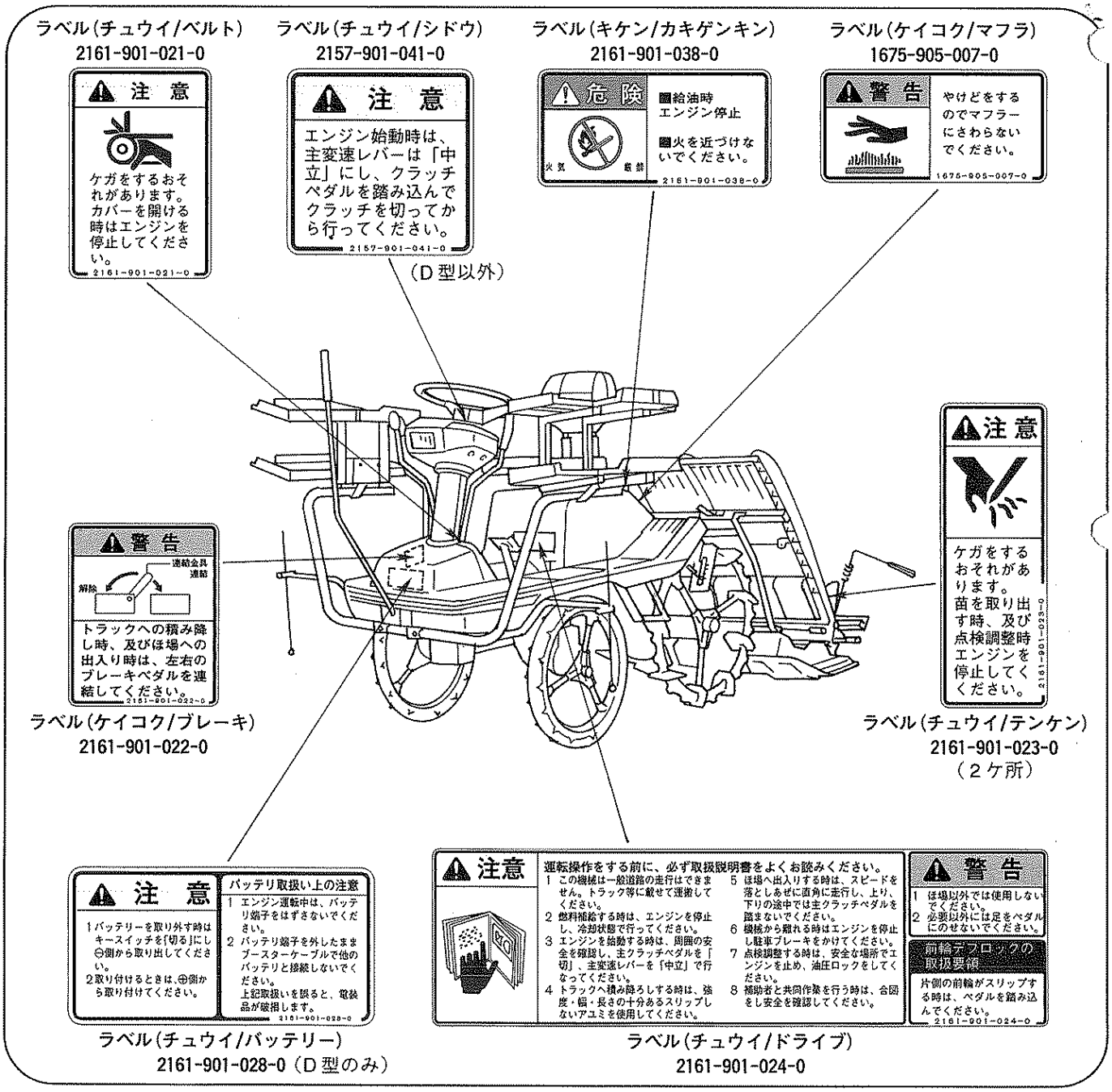
■本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。

■安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただいた販売店・農協へご注文ください。

■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルをお買いあげいただいた販売店・農協へご注文してください。

安全表示ラベル貼付位置



保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、キセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協へお気軽にご相談ください。

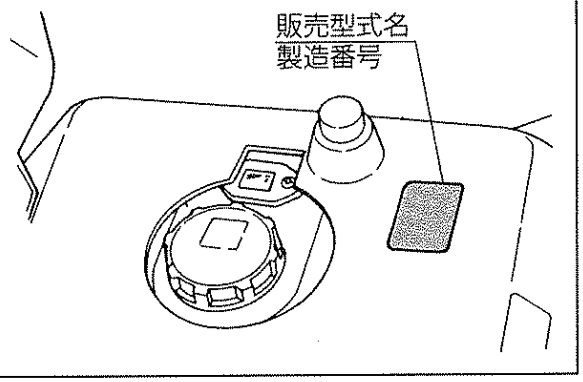
その際、

(1)販売型式名と製造番号

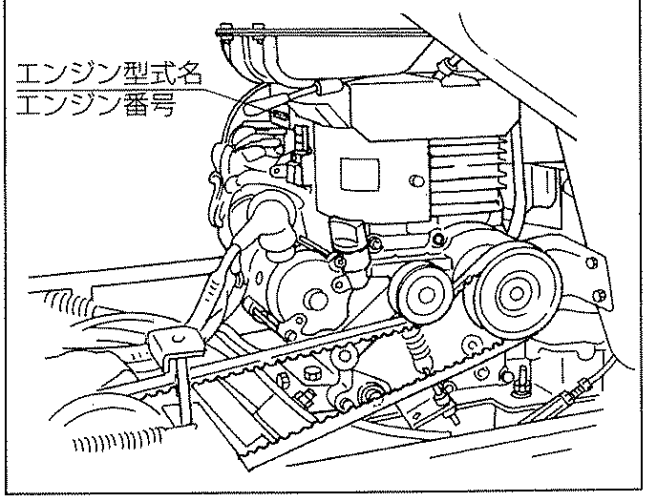
(2)エンジン型式名とエンジン番号

をあわせてご連絡ください。

販売型式名と製造番号



エンジン型式名とエンジン番号



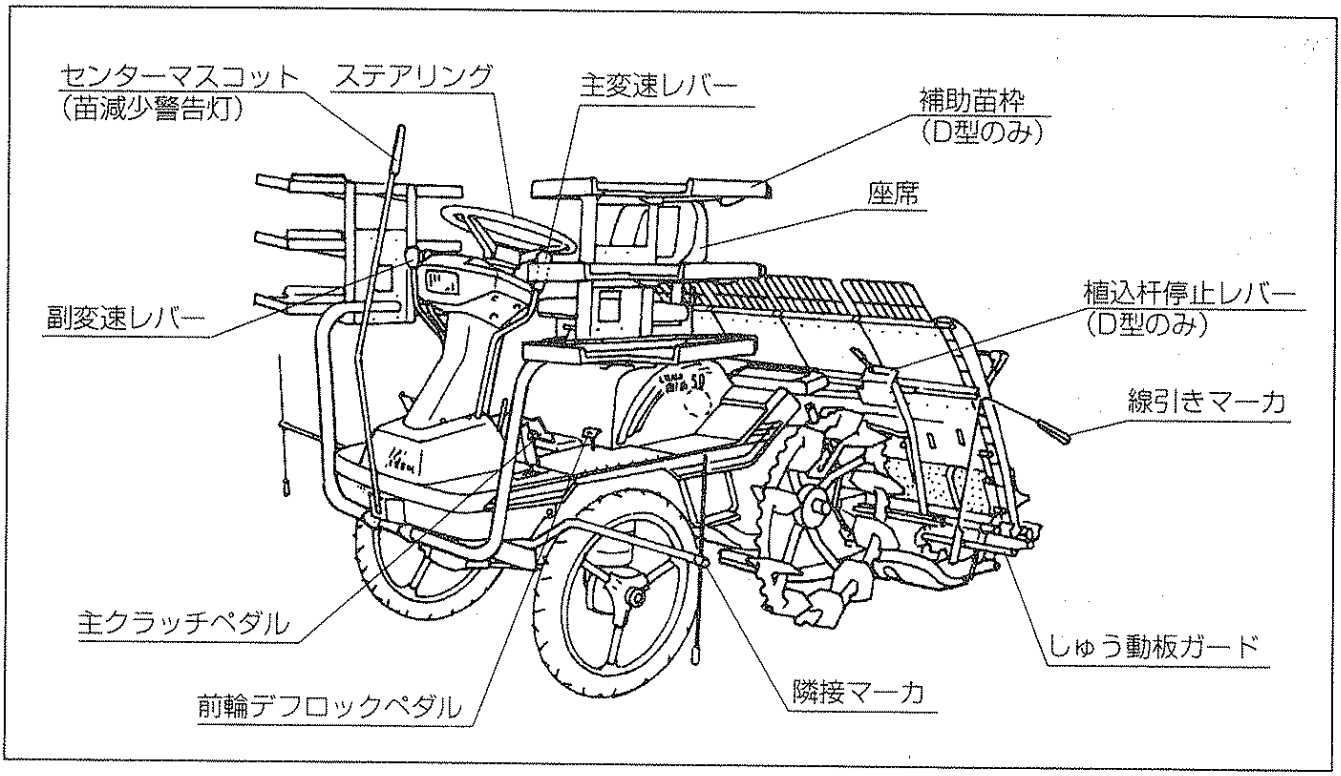
■補修用部品供給年限について

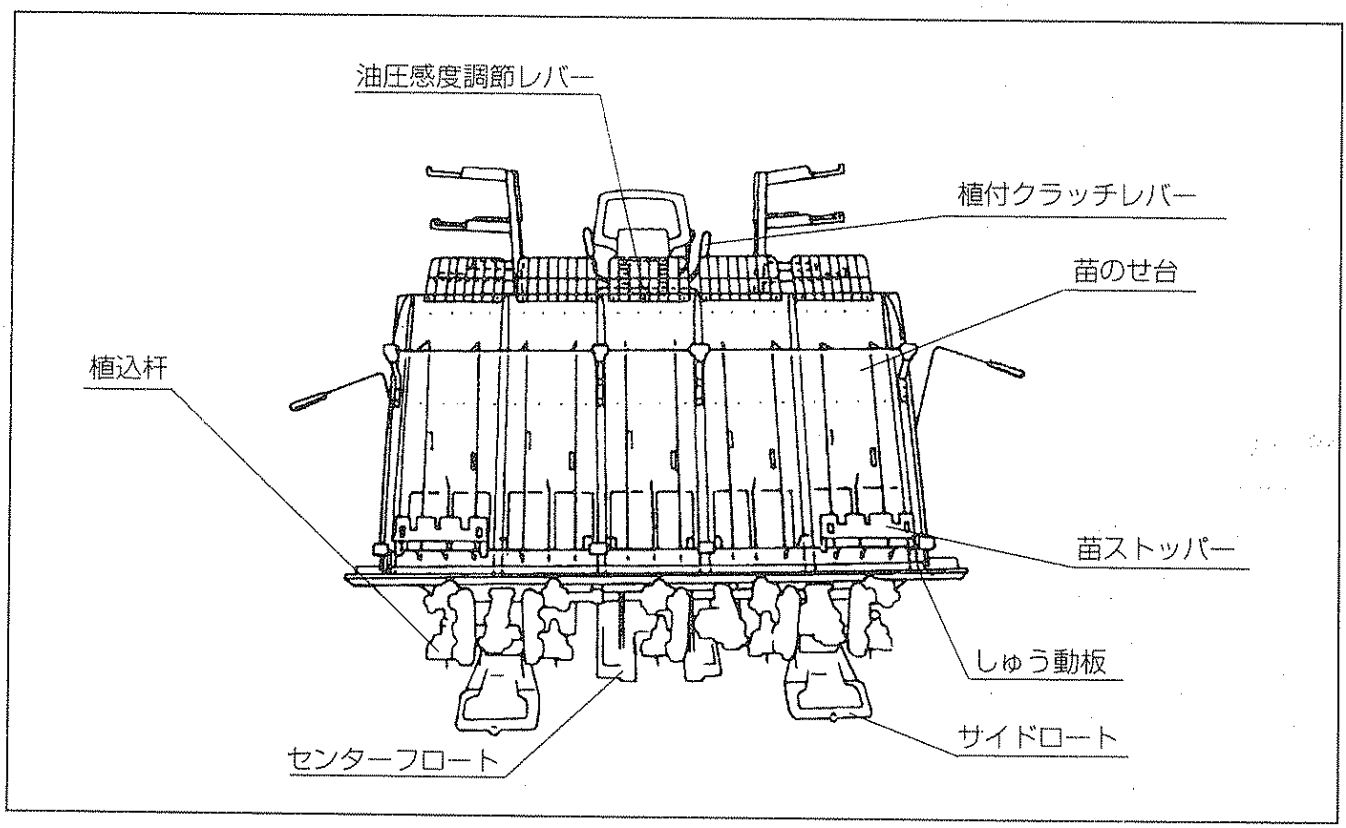
この商品の補修用部品の供給年限(期限)は、製造打ち切り後、9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

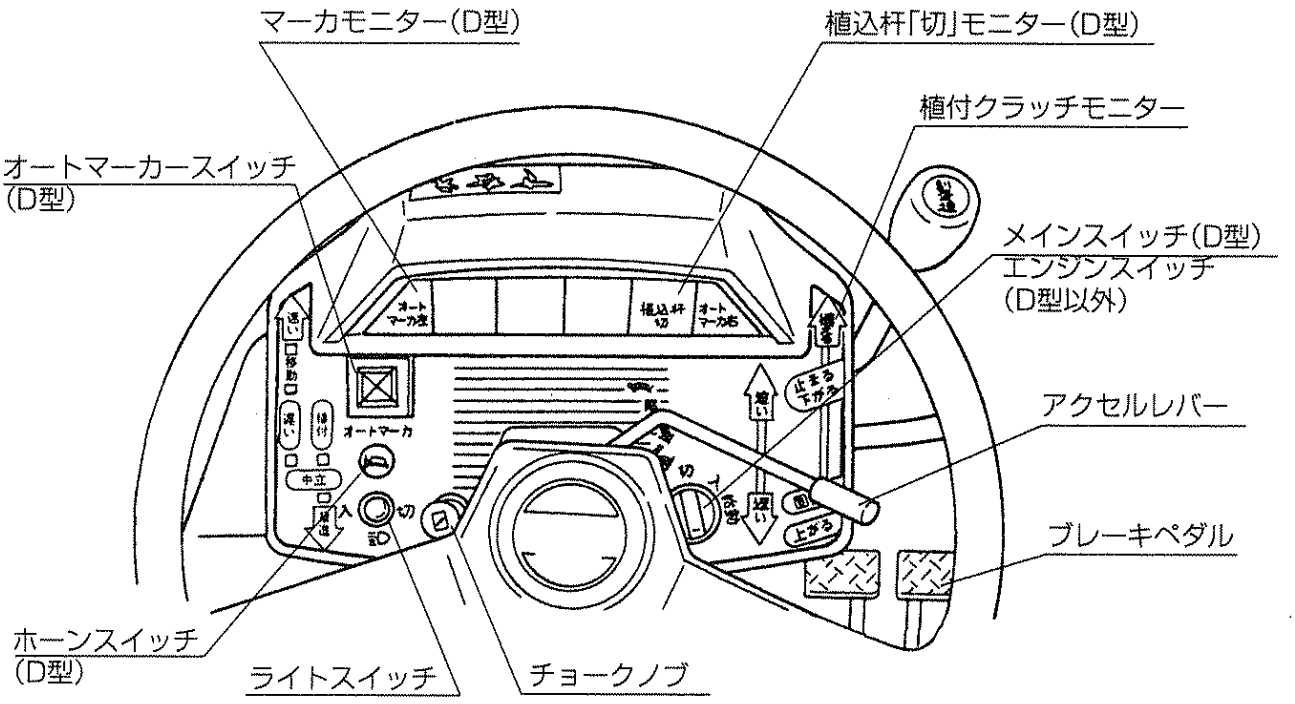
各部の名称とはたらき

各部の名称



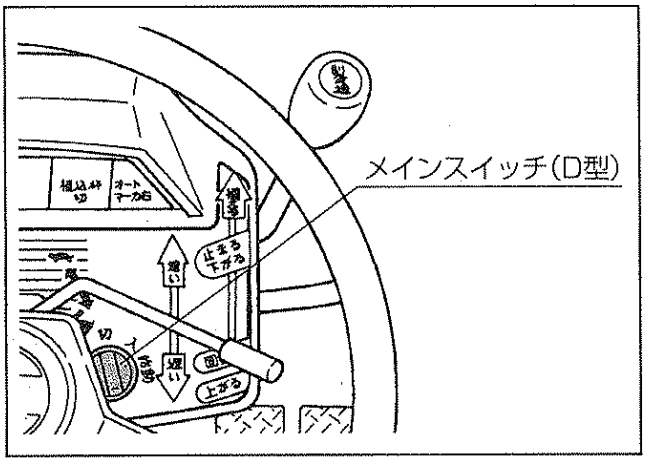


図はD型仕様です。


マーカモニター(D型)
植込杆「切」モニター(D型)
植付クラッチモニター
オートマーカースイッチ
(D型)
メインスイッチ(D型)
エンジンスイッチ
(D型以外)
アクセルレバー
ブレーキペダル
ホーンスイッチ
(D型)
ライトスイッチ
チョークノブ

計器およびスイッチのはたらき

■スイッチのはたらき



●メインスイッチ(D型)

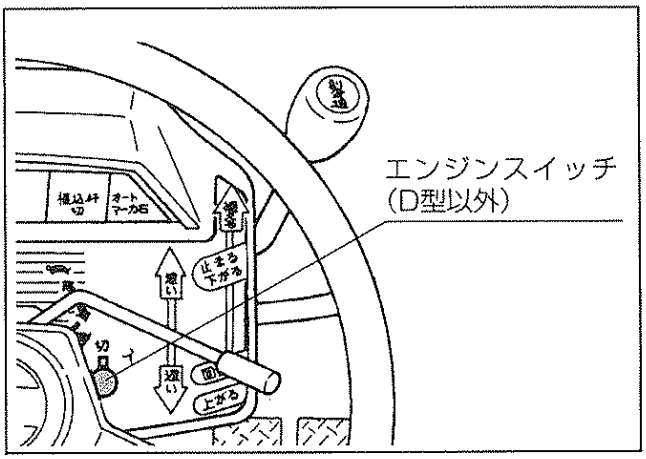
・切 ..... エンジンが停止します。

・入 ..... エンジンが回転中の位置です。

・始動 ..... クラッチペダルをいっぱい踏みこんでエンジン始動。
手をはなせば「入」にもどります。

重要

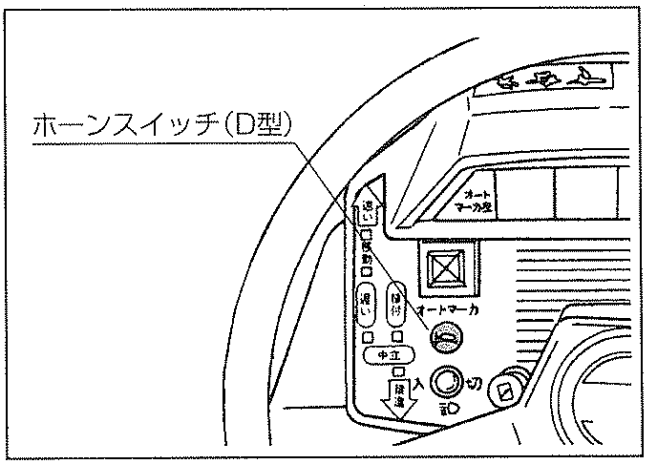
- エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。
- スタータの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから再び操作をくり返してください。



●エンジンスイッチ(D型以外)

・切 ..... エンジンが停止します。

・入 ..... エンジン始動および回転中の位置です。



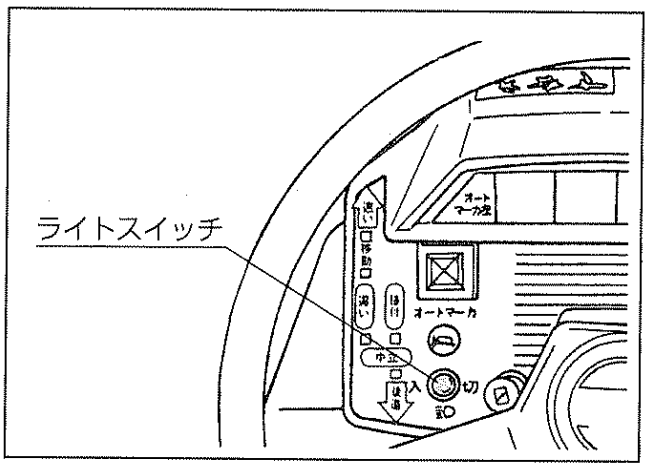
●ホーンスイッチ(D型)

・押すとホーンが鳴ります。

●ライトスイッチ

・≡O…ライトが点灯します。

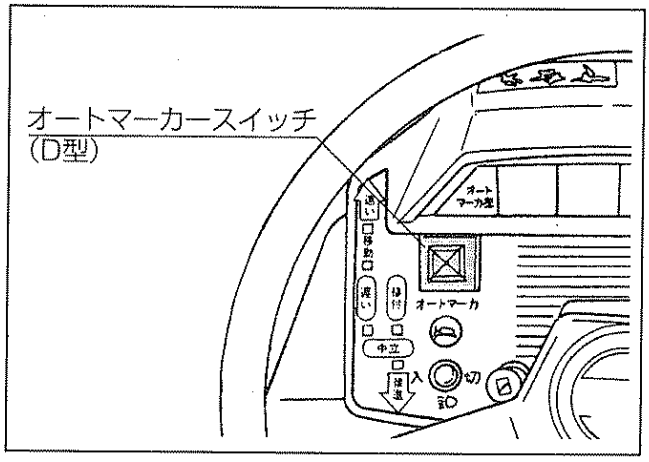
・切…ライトが消灯します。



●オートマーカスイッチ(D型)

・ スイッチを押す(ON)と、線引マーカが交互に出るようになります。(スイッチのランプが点灯します。)

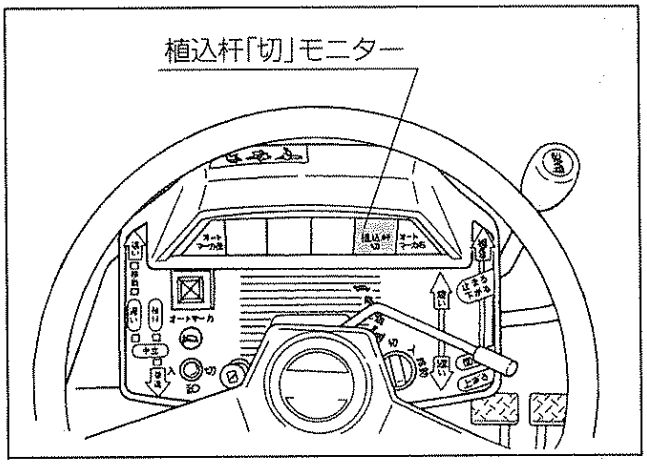
・ 再度スイッチを押す(OFF)と、線引マーカは出ません(スイッチランプが消灯します。)



■計器のはたらき

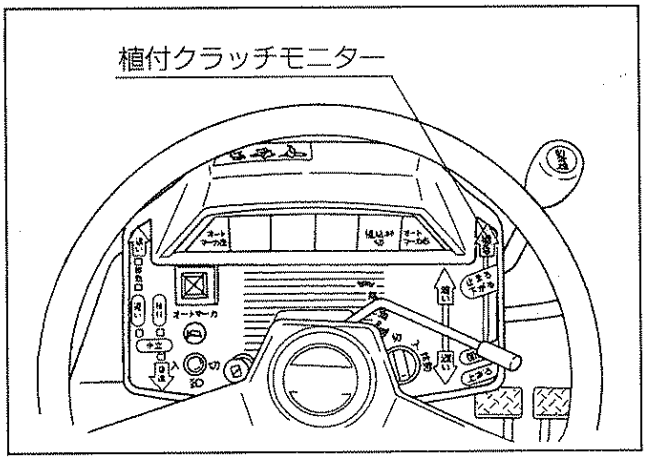
●植込杆「切」モニター(D型)

・ 植付クラッチレバー「植える」位置で、植込杆停止レバーが「切」位置の時に点灯します。



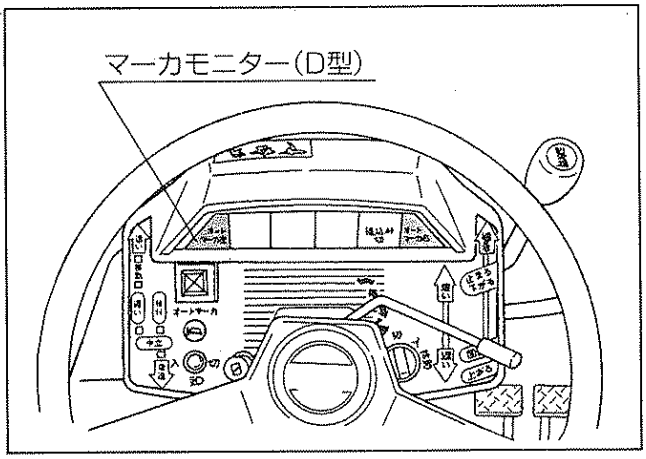
●植付クラッチモニター

・ 植付クラッチレバーが、「植える」位置の時に点灯します。



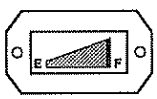
●オートマーカモニター(D型)

・ モニターランプが点灯している側の線引マーカが出ます。

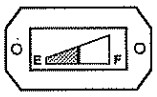


●燃料計

・ ガソリンの残り量を表示します。



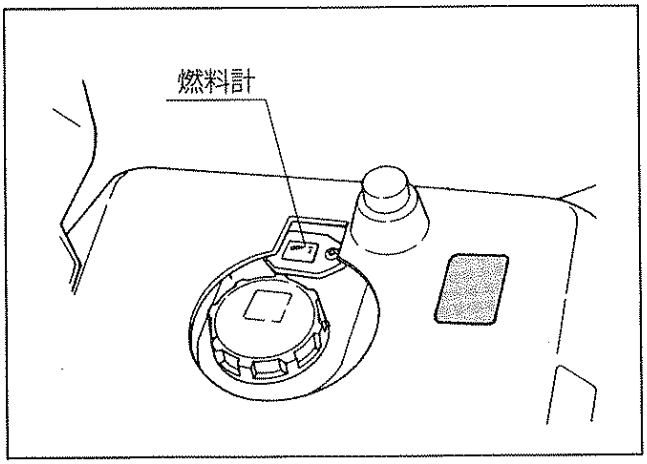
燃料満量



燃料1/2残量

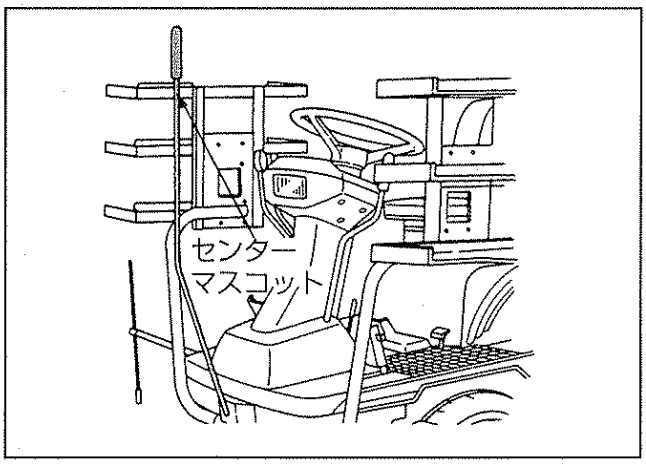
燃料空

(早めに補給してください。)



●センターマスコット

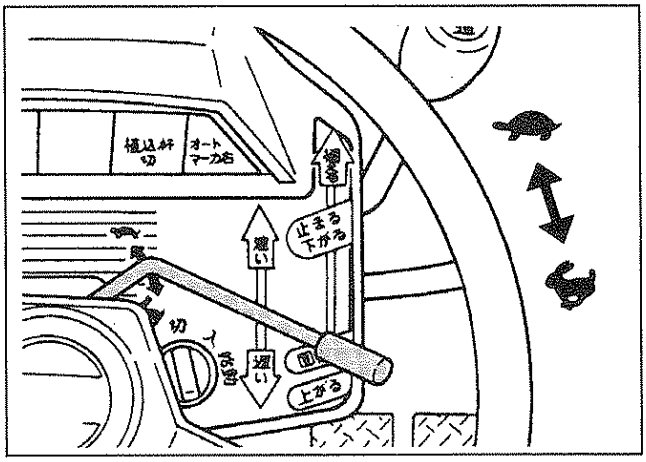
・ 苗タンクの苗が一定量まで無くなると点滅します。
・ 線引きマーカのひいた跡に合わせて、植付けると条間が合います。
・ 植付クラッチレバー「植える」の位置以外では点滅しません。



レバー、ペダル、シート関係の取扱い

■アクセルレバー

・ レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり、前方に押すと下がります。

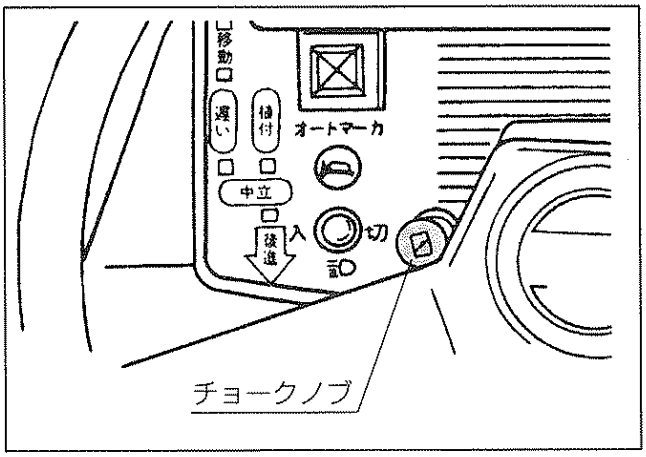


■チョークノブ

・ エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

重要

● 始動時以外は、使用しないでください。



■主クラッチペダル

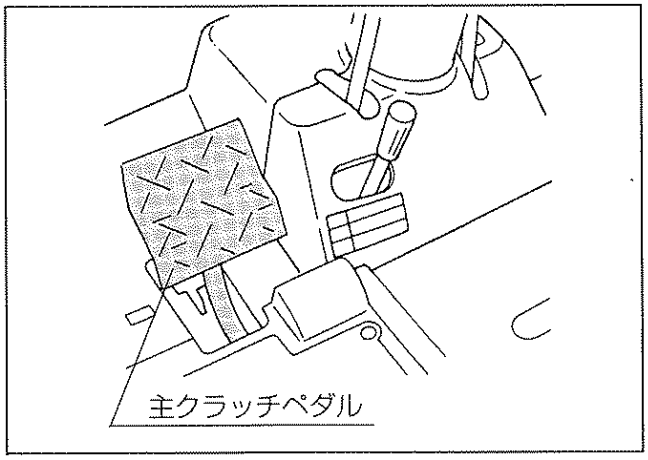
・ 主クラッチの断続を行なうペダルです。

・ ペダルの下側をいっぱい踏み込むとクラッチが切れた状態でロックされ、ペダル先端を踏み、足を離すとクラッチがつながります。

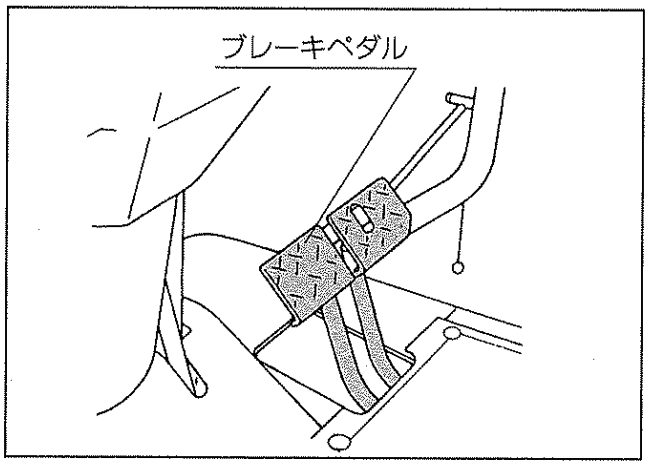
重要

● 主クラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。

● エンジン始動時は踏み込まないとエンジンが始動しません。



■ブレーキペダル

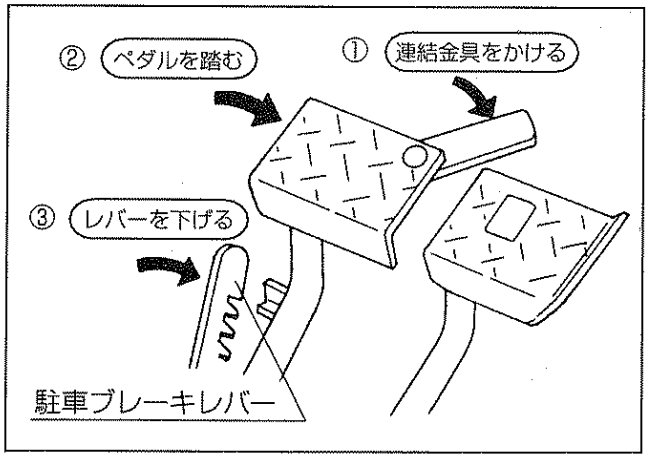


・左側のペダルを踏込むと左後輪に、右側のペダルを踏込むと右後輪にブレーキがかかります。

・旋回する側のペダルを踏込んでください。

> ⚠ 警告
>
> 田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時に効くよう定期的に点検してください。
> 連結を忘れると、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こす恐れがあります。

■駐車ブレーキレバー



・田植機を駐停止させておく為のレバーです。

・連結金具で左右のペダルを継いだ後操作してください。

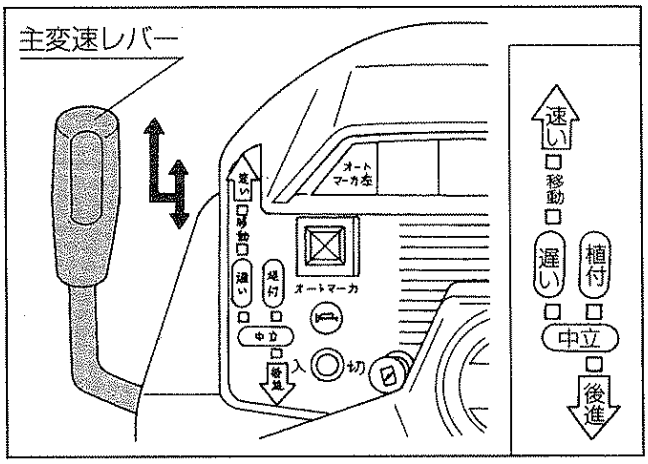
> ⚠ 注意
>
> 駐車時、停止時には必ず駐車ブレーキを確実にかけてください。
> これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

重要

- 駐車ブレーキレバーをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めます。

■主変速レバー

・車速を変更するレバーです。
・前進２段(植付、移動)後進１段と中立があります。



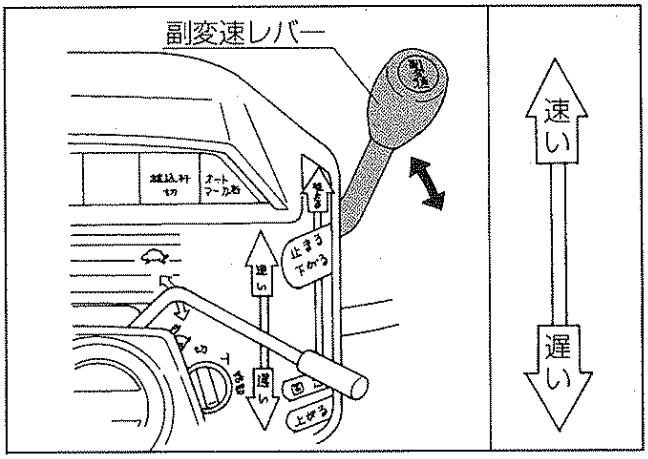
> ⚠ 注意
>
> 機械から離れる時は、主変速レバーを「中立」に切替えてください。
> これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

重要

● 主変速レバーは、主クラッチペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

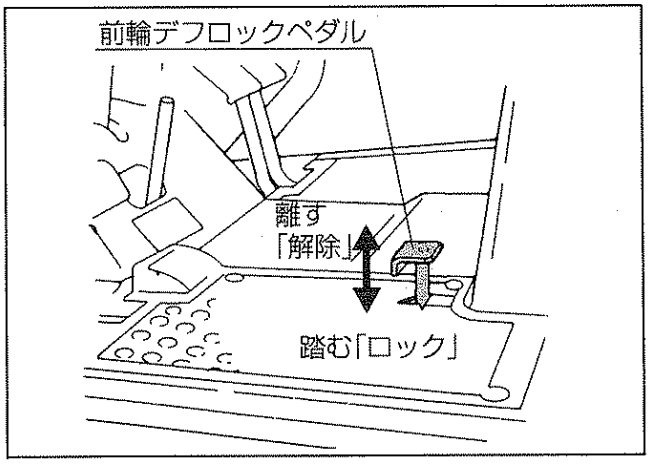
■副変速レバー(ダブルテンションレバー)

・主変速と組合わせて車速を変更するレバーです。
・レバーを前方にいっぱい押すと高速、手前にいっぱい引くと低速に切替わります。



■前輪デフロックペダル

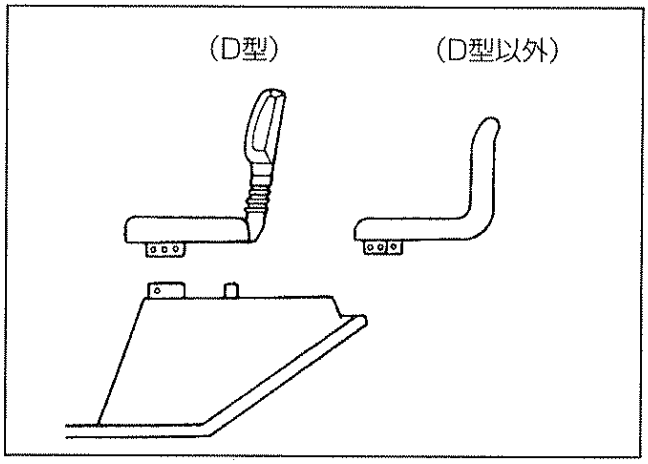
・ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。
・旋回時前輪がスリップする場合に使用します。

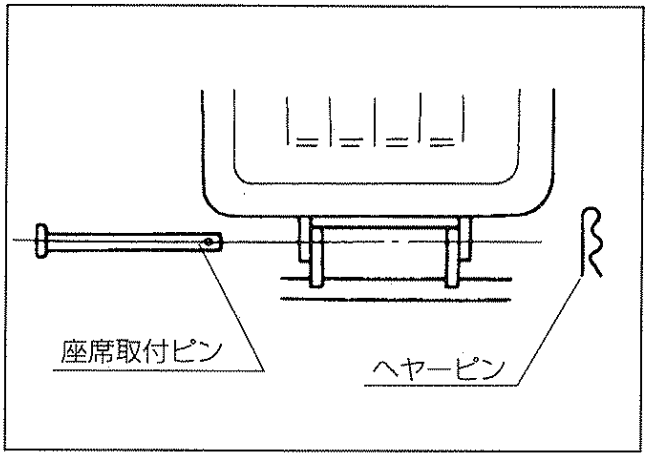


> ⚠ 警告
>
> 田植作業以外の時は、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。
> これを怠ると衝突・転落事故を引き起こす恐れがあります。

■座席の調節

・ 作業しやすい位置になるように、座席取付ピンで調節してください。

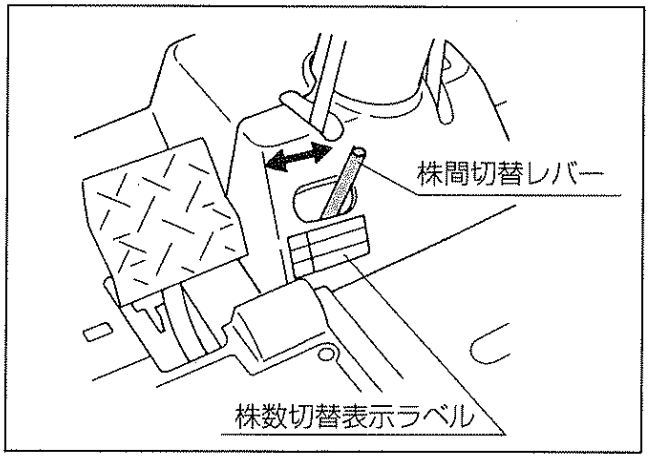




■株数切替レバー

・ 植付株数の切り替えをするレバーです。

・ レバーの左右操作により植付け株数が変わります。



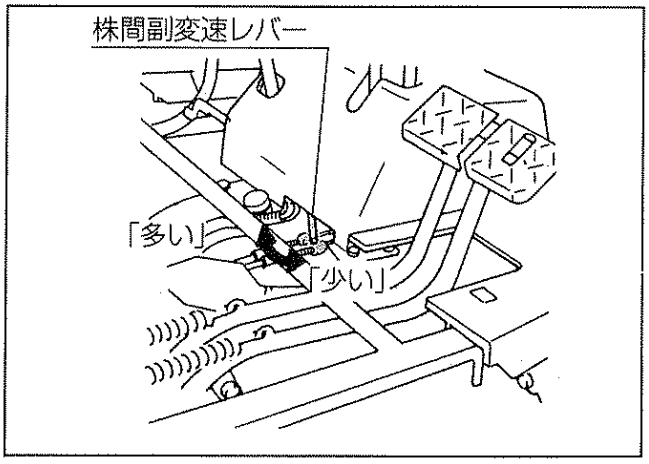
■株数副変速レバー

・ 植付け株数の切り替えをするレバーです。

・ レバーを回すことにより植付け株数が変わります。

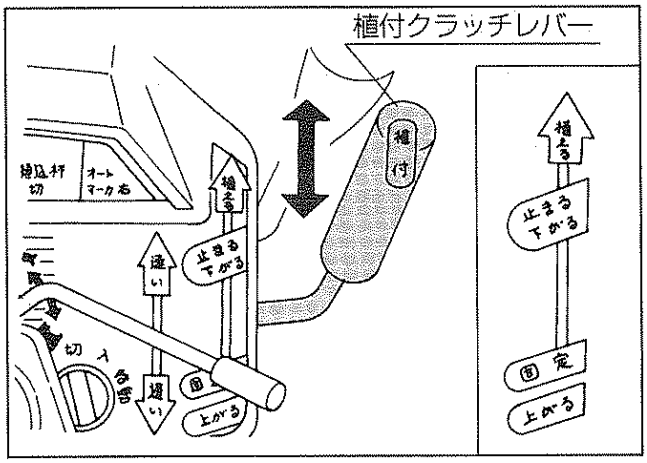
重要

● 株数切替レバー及び株数副変速レバーを、表示レベルの位置に合わせてください。



■植付クラッチレバー

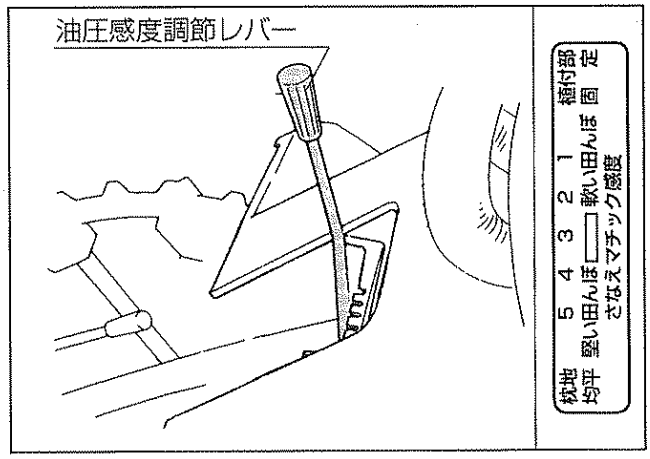
・このレバー１本で、植付部の上昇、下降と植付部への動力の伝達を断続できます。



■油圧感度調節レバー

・ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。

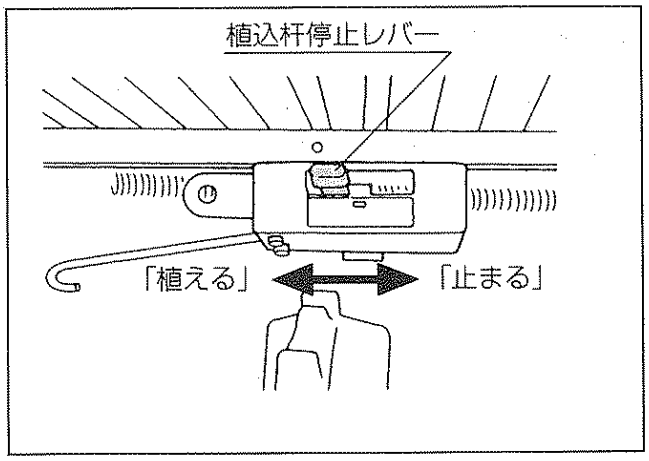
・また、このレバーを「植付部固定」位置にすると植付クラッチレバーを油圧「下」位置にしても植付部が降りないようにできます。



■植込杆停止レバー

・２条毎（５条植えの場合は中央は１条）の植付けを停止させるレバーです。

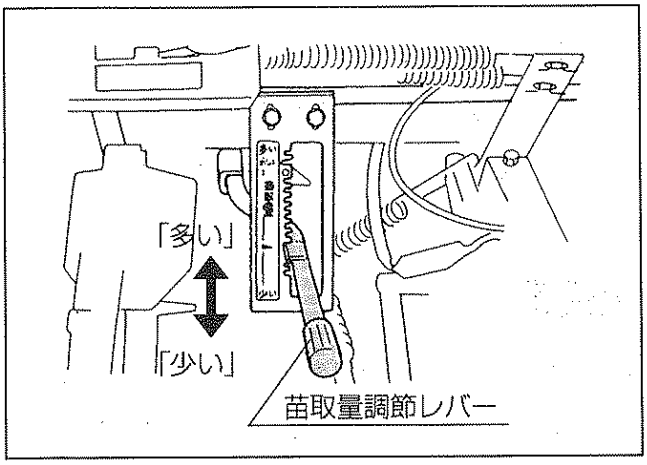
・植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。（D型）



■苗取量調節レバー

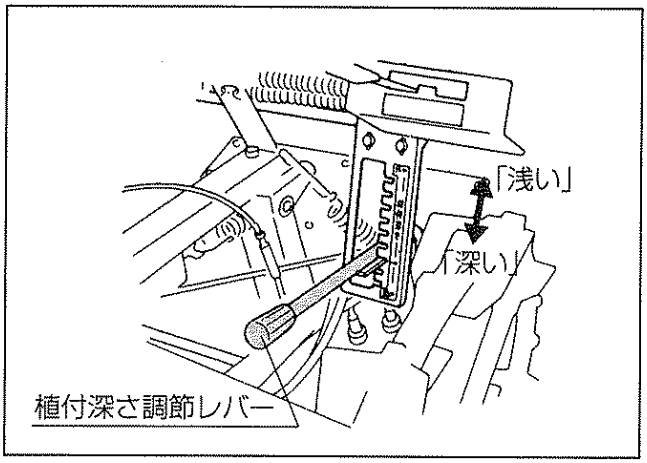
・全条の苗取量を一度に調節するレバーです。

・レバーを上の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少なくなります。



■植付深さ調節レバー

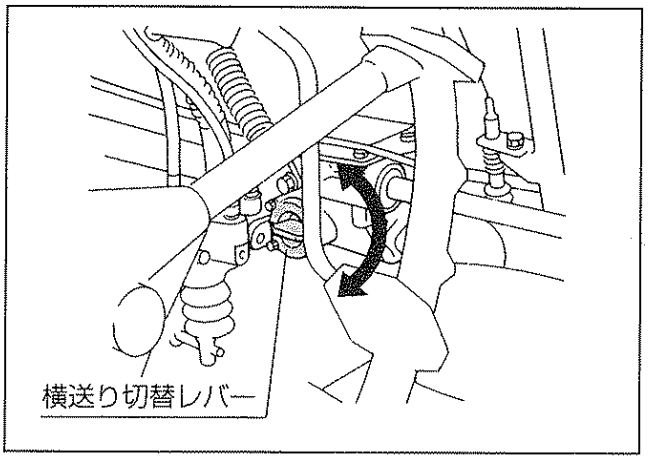
・植付深さを調節するレバーです。
・レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。



■横送り切替レバー

・横送り量の切替えを行なうレバーです。
・出荷位置は横送り回数24回で20回と18回に切替ができます。

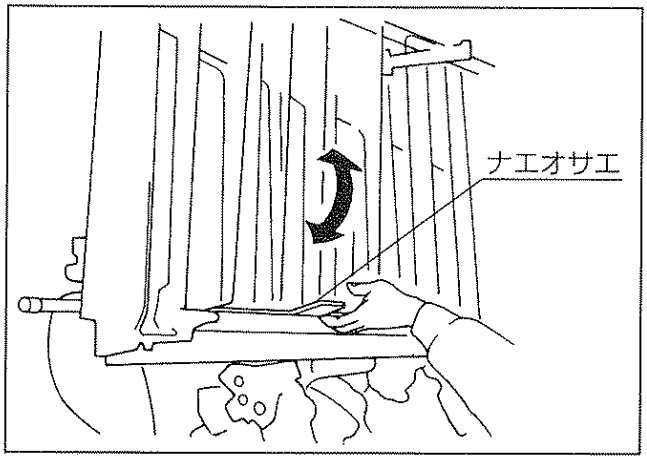
> ⚠ 注意
> 切替えはエンジンを停止して行なってください。これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因になります。



■ナエオサエ

・残り苗を取り出す時に、ナエオサエを上に引き抜き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。

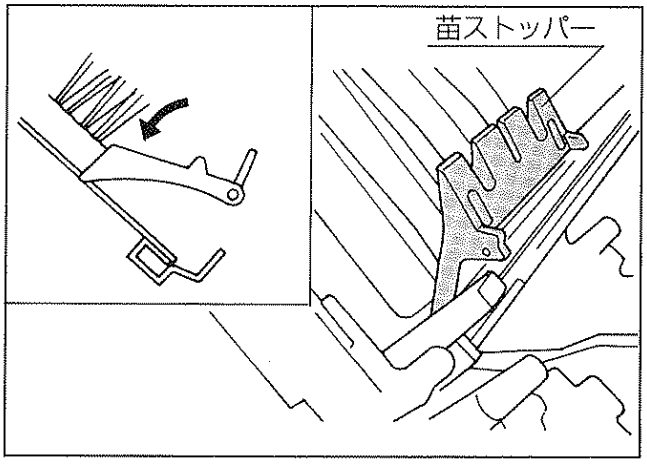
> ⚠ 注意
> 苗の取り出しは、エンジンを停止して行なってください。



■苗ストッパー

・１条毎に植付けを停止したい時に使用します。
・植込杆停止レバーと組合わせて使用してください。

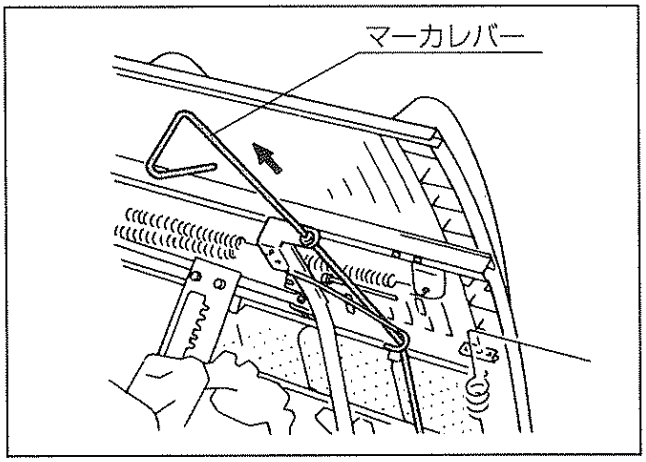
> ⚠ 注意
> 苗ストッパーの操作はエンジンを停止して行なってください。



■マーカレバー（D型以外）

・線引マーカを出すレバーです。

・植付部を下げてレバーを引くと、引いた側の線引きマーカが出ます。



作業前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

始業点検は毎日欠かさず行なってください。

⚠ 警告

給油、注油及び点検整備するときは、次のことを守ってください。

(1) 田植機を平たんな広い場所に置く。

(2) エンジンを停止する。

(3) 駐車ブレーキをかける。

(4) 植付部を降ろすか植付部の油圧を油圧感度調節レバーを『植付部固定』位置で固定する。

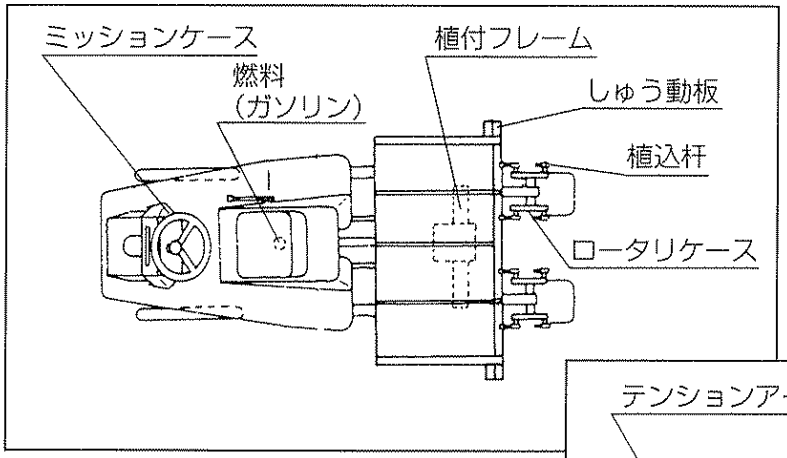
(5) エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。

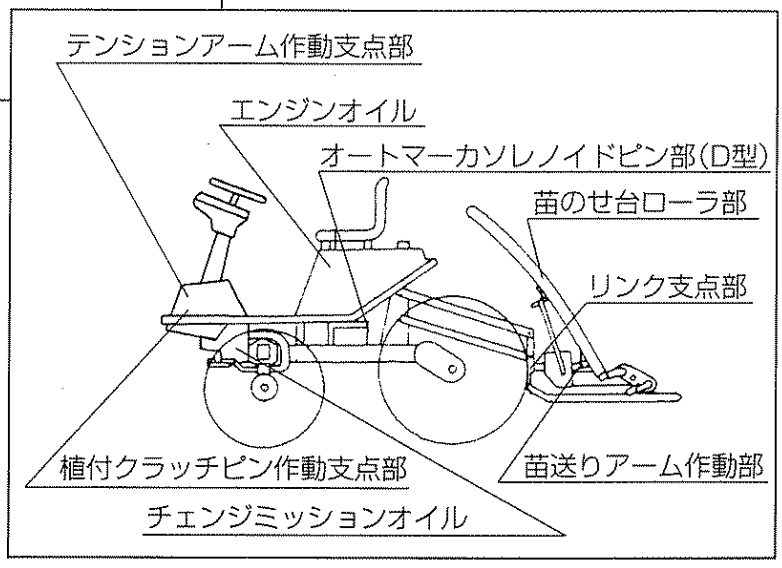
(6) くわえタバコなど火気厳禁。

以上の安全を確認して行なってください。

安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

給油、注油箇所の点検と補給

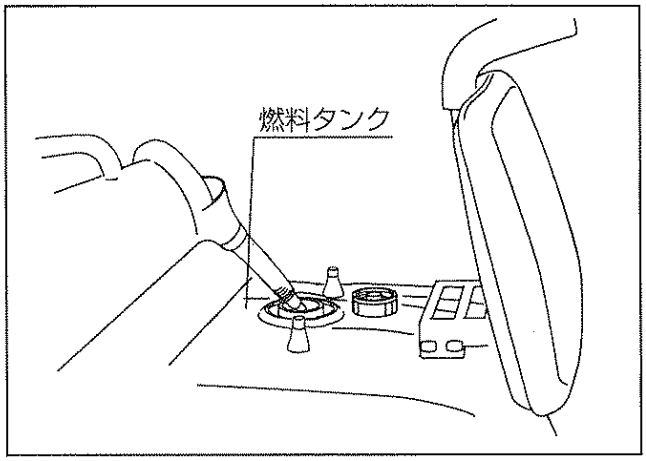




■燃料(無鉛ガソリン)

給油のしかた

座席を前に倒し給油口より、給油してください。



⚠ 危険

(1) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になり大変危険です。

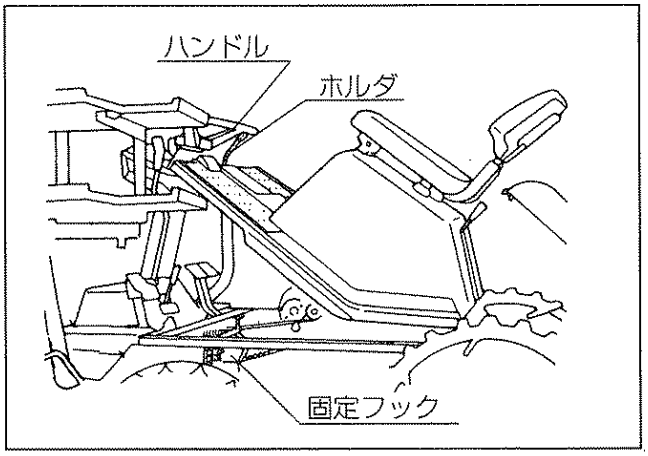
(2) 燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行なってください。燃料のつぎこぼしなどにより、火災の原因になり大変危険です。

(3) 燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。エンジン始動すると引火し、火災の原因になり大変危険です。

■エンジンオイル

点検のしかた

(1) エンジンオイル点検時には、植付部を下げステップの固定フック(2ヶ所)をはずしてステップを開け、ホルダをハンドルに引掛けて固定してください。

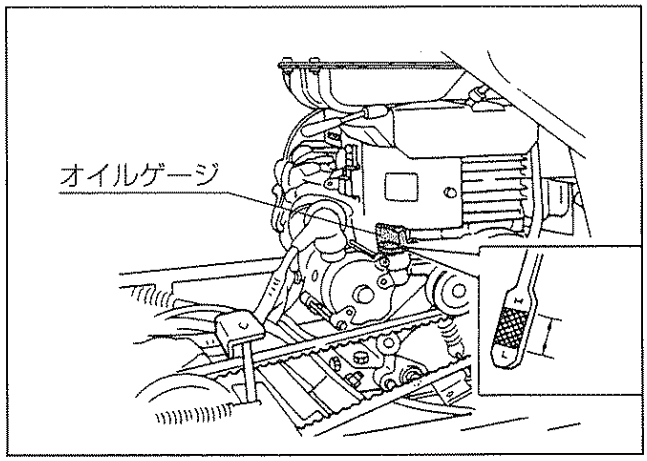


(2) オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。

「下限」以下の場合

補給してください。

(ヰセキガソリンエンジンオイル30#)



区分	搭載エンジン	オイル量
D型以外	FG200G	0.7 ℓ
D　型	FG230G	

⚠ 注意

エンジンオイルの点検・補給は、必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、十分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

■チェンジミッションオイル

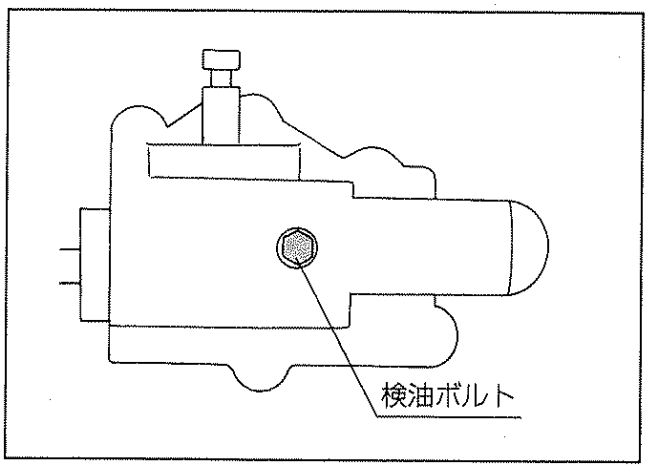
点検のしかた

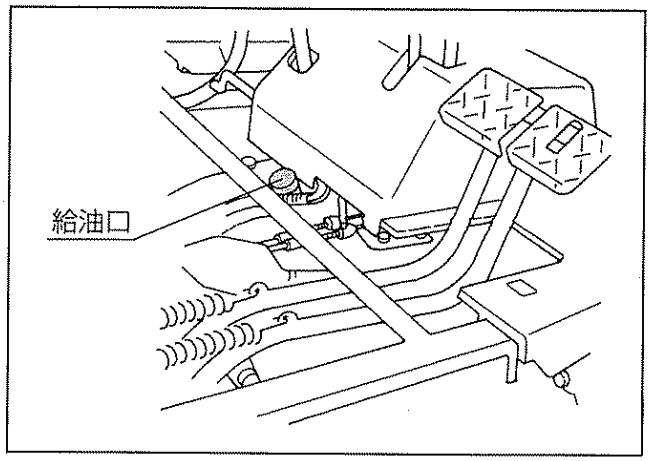
検油ボルトをはずして、検油口からオイルがでますか。

油量が少ない場合

検油口からオイルが流れ出すまで、給油口から補給してください。

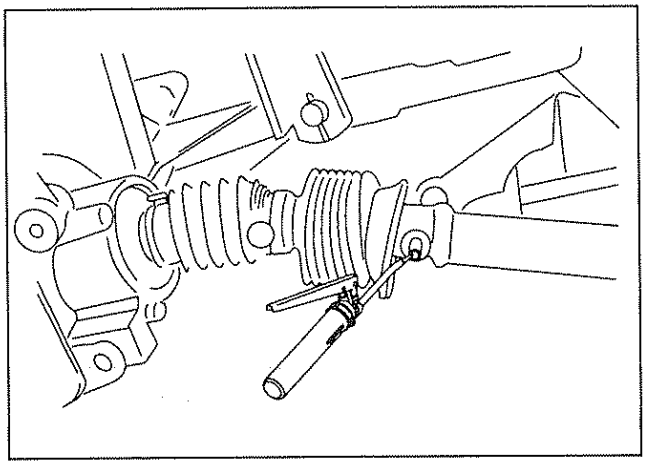
（ヰセキハイポイドギアーオイル80#）





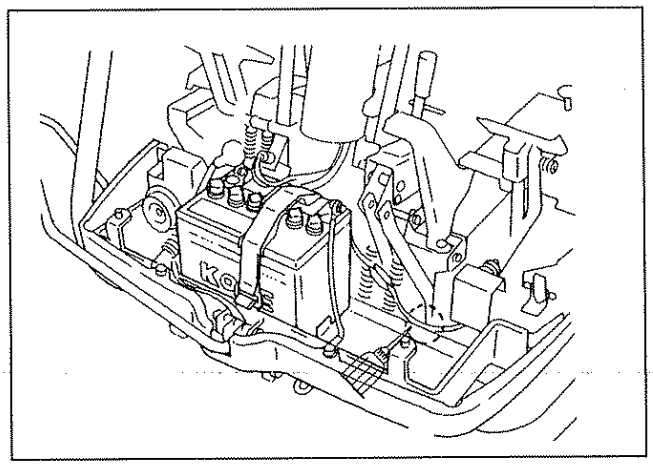
■グリース注入箇所(グリースニップル)

●植付伝導軸六角シャフト部

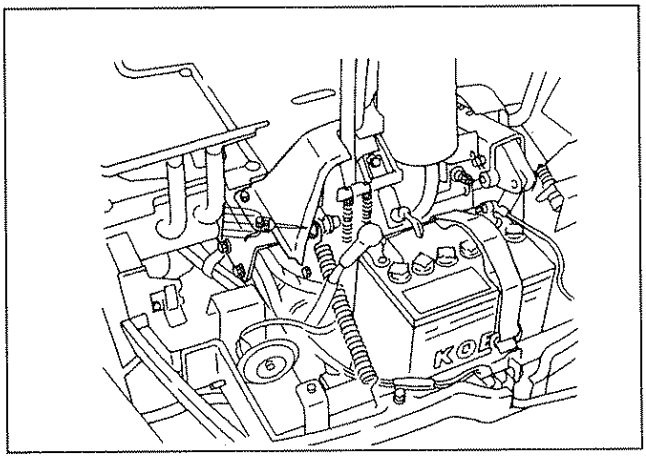


■オイル注油箇所

●テンションアーム作動支点部

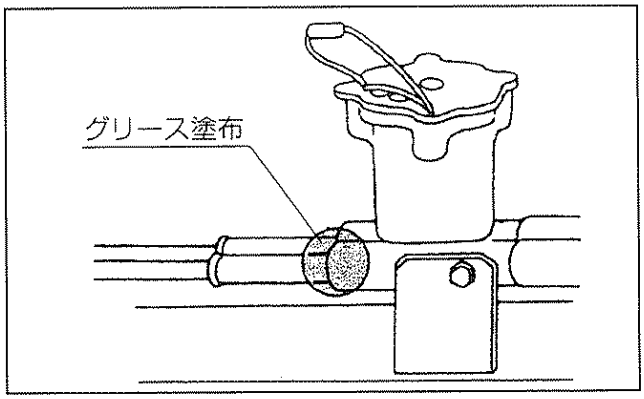


●植付クラッチピン作動支点部

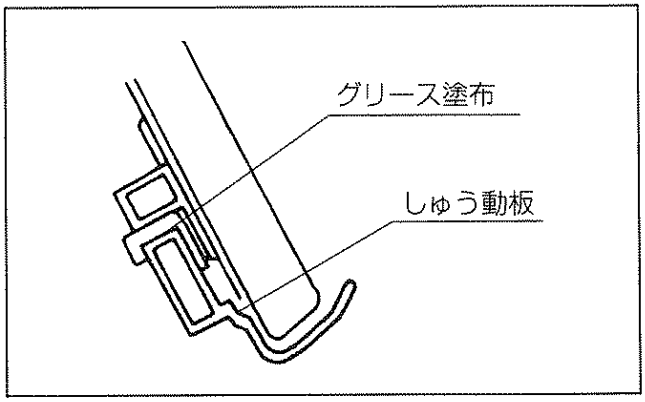


■グリース塗布箇所

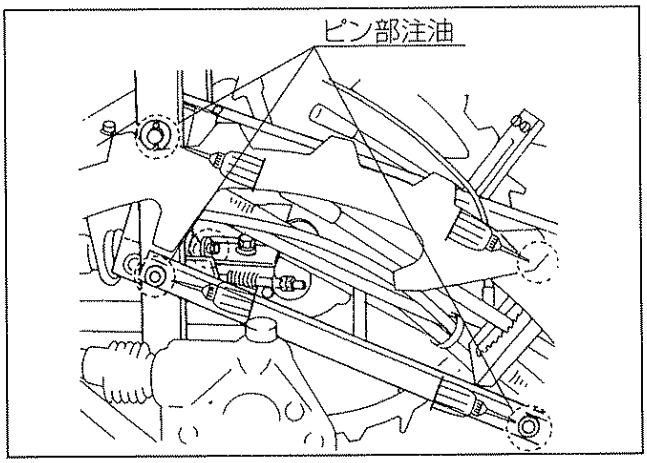
●オートマーカソレノイドピン部(D型)



●しゅう動板への塗布



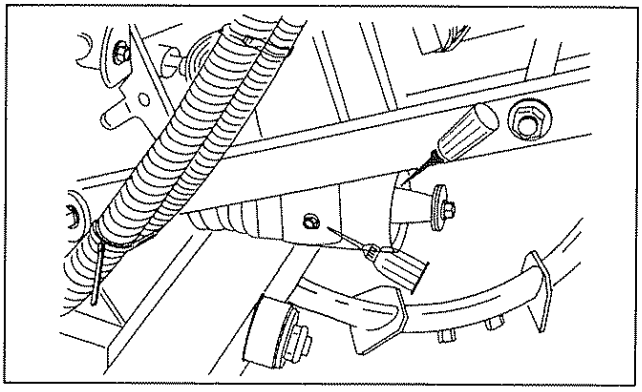
●リンク支点部



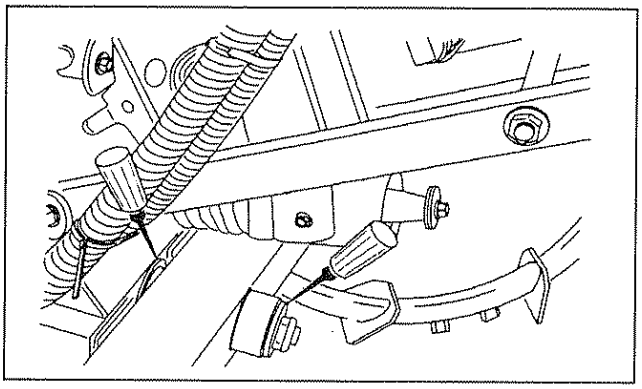
重要 下記箇所は特に毎日注油してください。

●スプリングケースピン部

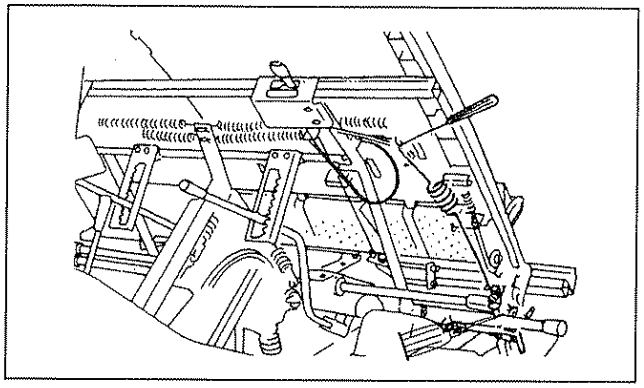
●スプリングケースピストンしゅう動部



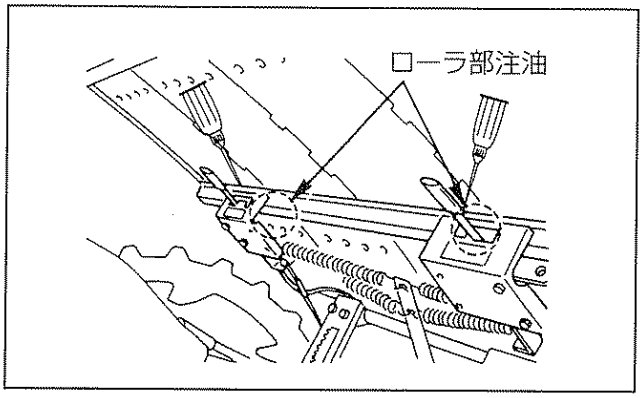
●後輪ローリングフレーム支点部



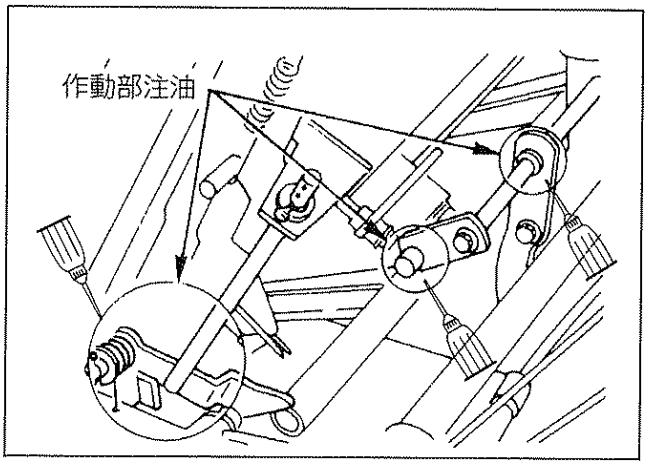
●線引マーカ作動支点部



●苗のせ台ローラ部



●苗送りアーム、カム関係



運転のしかた

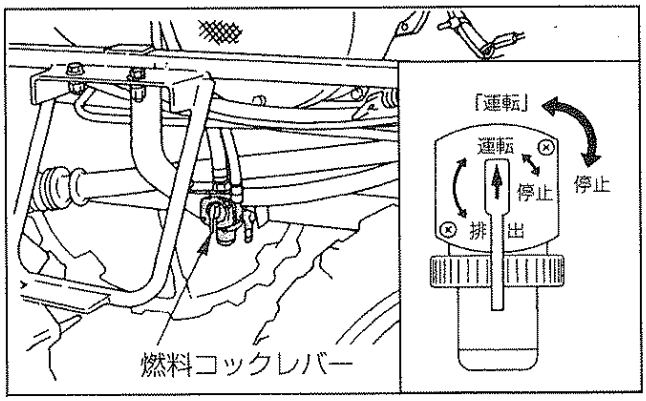
⚠ 警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取付けてあるか確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

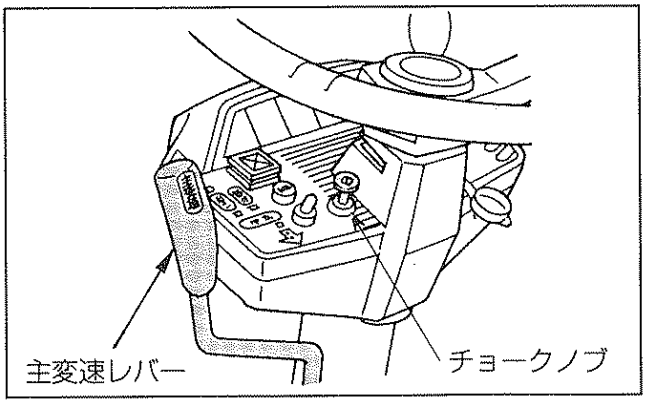
エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

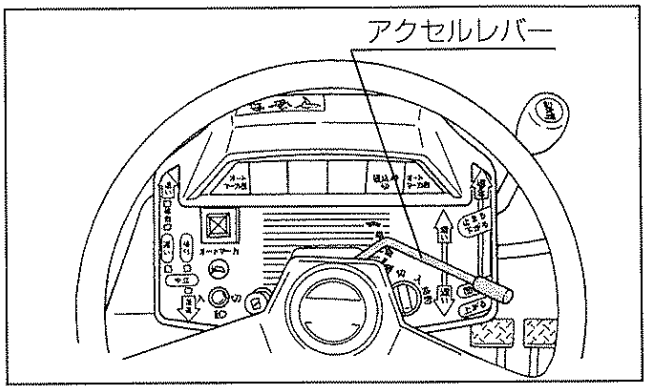
(1) 燃料コックを「運転」にします。



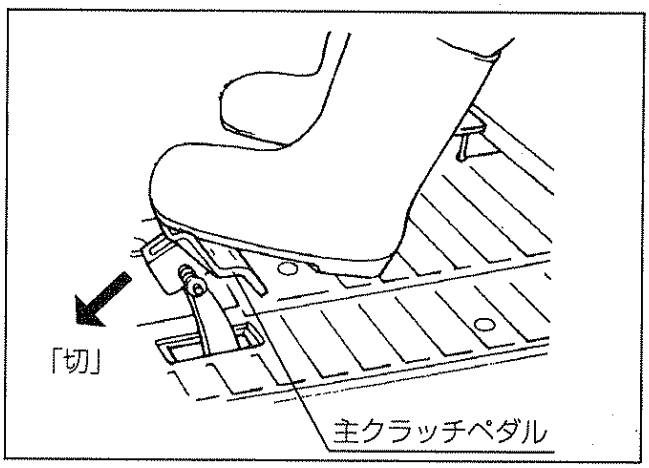
(2) 主変速レバーを「中立」位置にします。
(3) 植付クラッチレバーを油圧「固定」位置にします。



(4) アクセルレバーを「中程」にセットします。
(5) チョークノブを操作します。
(エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。)



(6) 主クラッチペダルを踏み込んでクラッチを「切」にしロック状態にしてください。



重要

- 主クラッチペダルを踏み込みクラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。(D型)

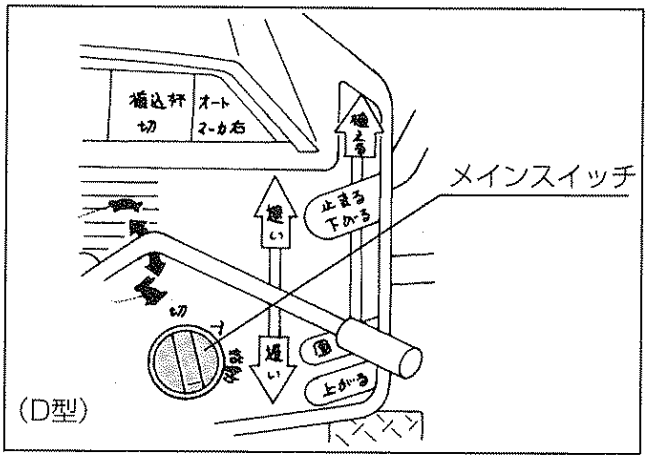
〈D型〉

(7) メインスイッチを「始動」の位置に回します。

(8) エンジンが始動したらただちにメインスイッチから手を離してください。

重要

- 10秒以内で始動しなかった場合は、メインスイッチをいったん「切」の位置に戻して、30秒程度休止してから再び同じ操作を繰り返してください。
- エンジンが始動しているにもかかわらずメインスイッチを回し続けたり運転中にメインスイッチを回さないようにしてください。



〈D型以外〉

(1) 燃料コックを「運転」にします。

(2) 主変速レバーを「中立」位置にします。

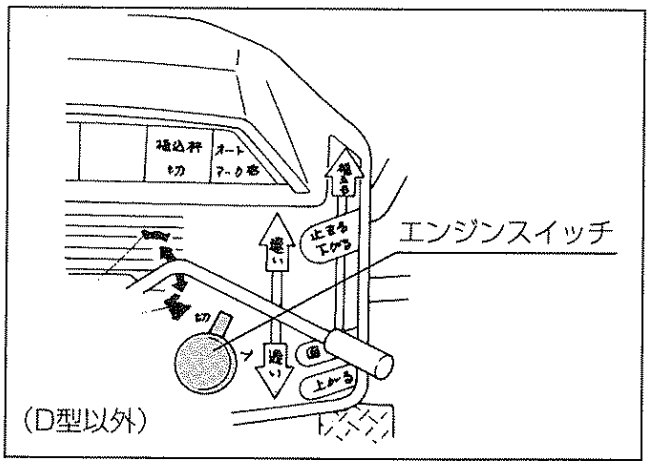
(3) 植付クラッチレバーを油圧「固定」位置にします。

(4) アクセルレバーを「中程」にセットします。

(5) チョークノブを操作します。

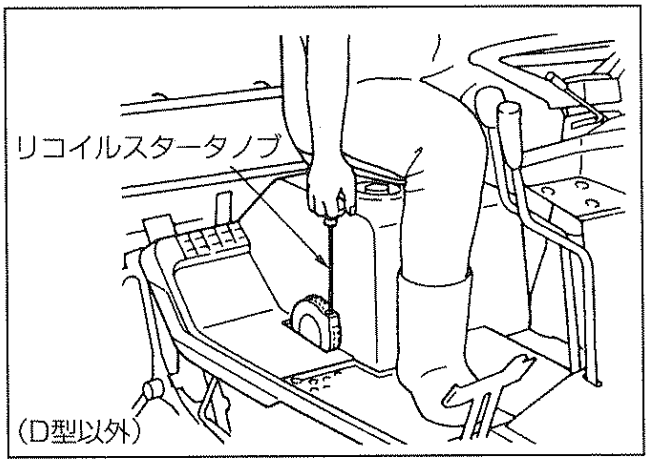
(6) 主クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ってロックしておきます。

(7) エンジンスイッチを「入」の位置にします。



(8) リコイルスタータノブをしっかりにぎって勢いよく引張ります。

(9) エンジンが始動したら、リコイルスタータノブを元にもどし、エンジンの調子を見ながらチョークノブを押込んでください。



重要

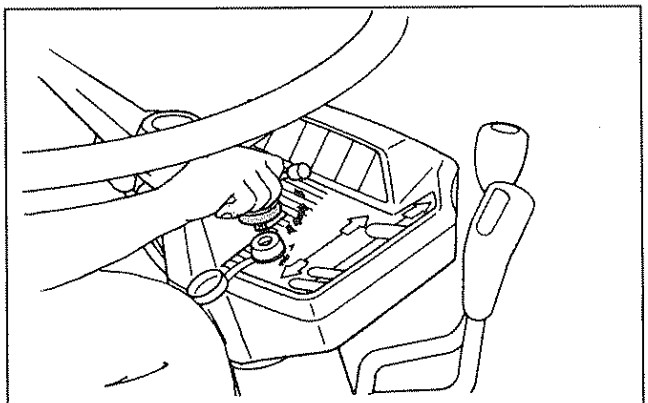
- 3～4回ロープを引張ってもエンジンが始動しない場合は、一度チョークノブを押込んでから、リコイルスタータノブを引張ってください。

■エンジンの停止

(1) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。

(2) メインスイッチを「切」の位置にするとエンジンは停止します(D型)

・ D型以外はエンジンスイッチを「切」にして停止させます。


メインスイッチをはずしてください。(D型)

重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- メインスイッチを「入」の位置のまま放置するとバッテリを放電させてしまいますので、エンジン停止後はメインスイッチをはずす習慣をつけてください。

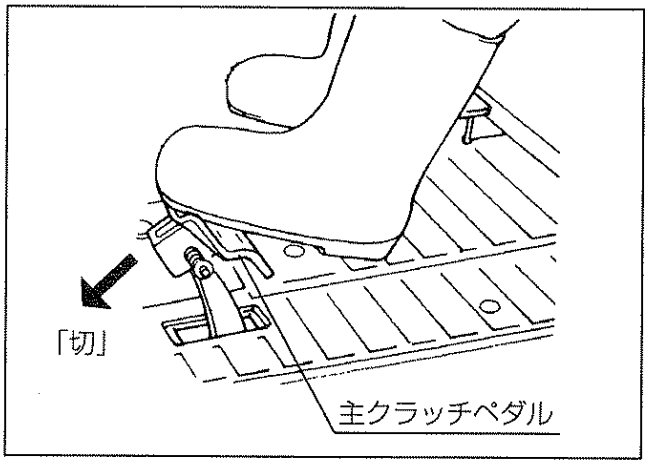
発進、停止、駐車のしかた

■発進のしかた

(1) 主クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ってください。

(2) 主変速レバーと副変速レバーを作業に合った位置にしてください。

(3) 主クラッチペダルを徐々に離して発進してください。

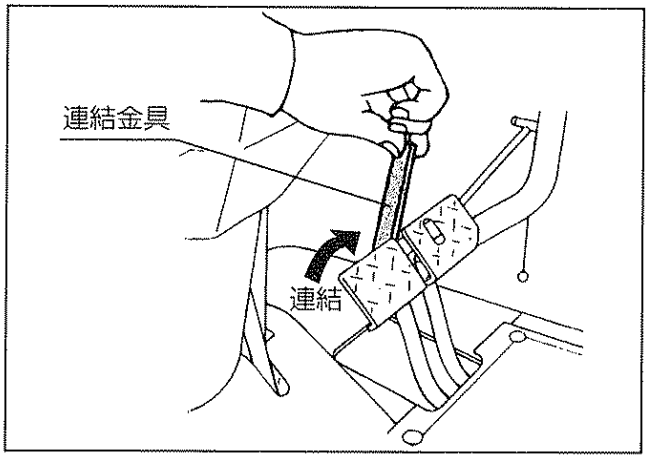


> ⚠ 注意
>
> 主クラッチペダルを急に離すと急発進して危険です。

■停止のしかた

(1) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。

(2) 主クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏込みます。



重要

- ほ場内で停止する場合は、主クラッチペダルを踏込めばとまります。

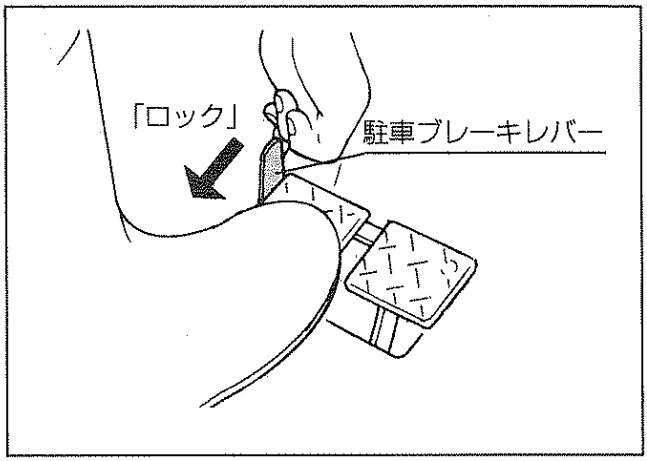
> ⚠ 警告
>
> (1) ほ場以外を走行する場合は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。
>
> (2) 急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。
>
> (3) 副変速レバーで急減速すると危険ですのでゆっくり減速してください。

■駐車のしかた

(1)エンジンを停止してください。

(2)主変速レバーは「中立」の位置にしてください。

(3)ブレーキペダルを踏込み駐車ブレーキレバーをかけてください。



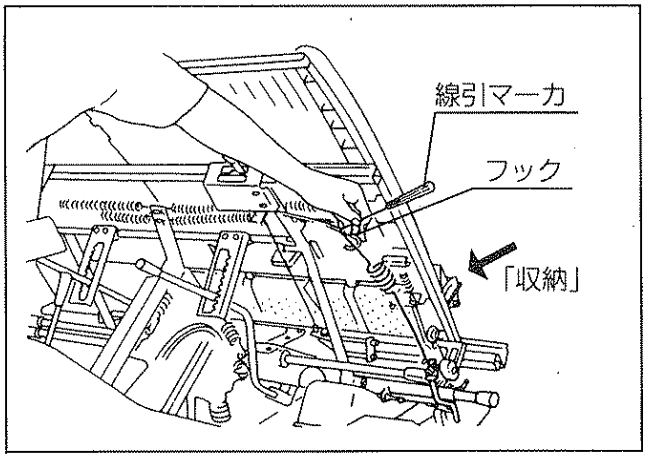
⚠ 警告

- 駐車時、植付部は下げておいてください。
- 坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。

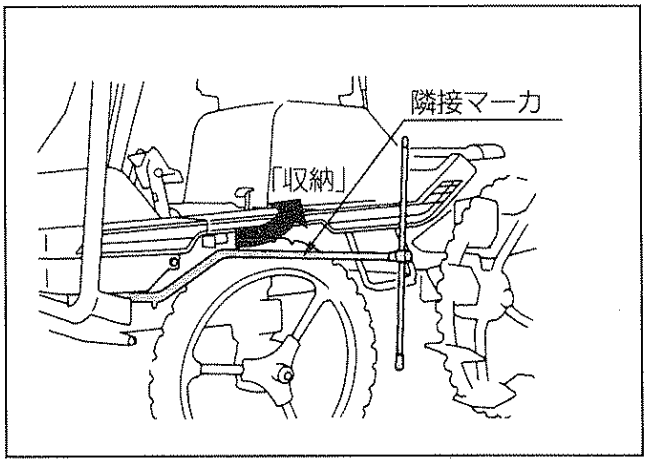
移動、運搬のしかた

■走行のしかた

(1) 線引マーカはフックに掛けて収納してください。



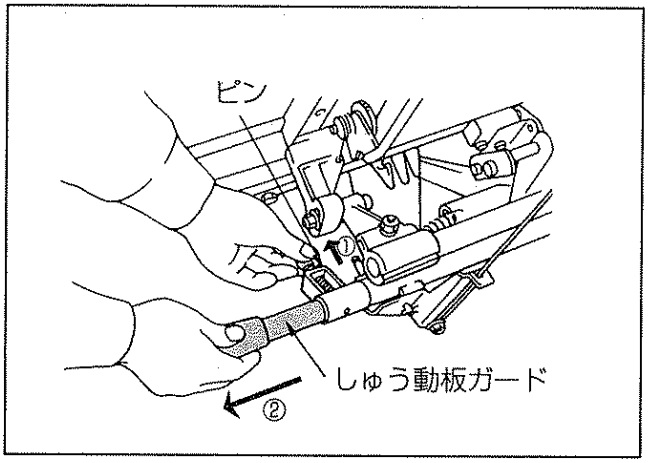
(2) 隣接マーカを収納してください。



(3) しゅう動板ガードを固定しているピンを引張り、最も押込んだ位置でしゅう動板ガードをヘアーピンで固定してください。

(4) 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

(5) 植付クラッチレバーを油圧「上がる」の位置にして植付部をいっぱい上げてください。

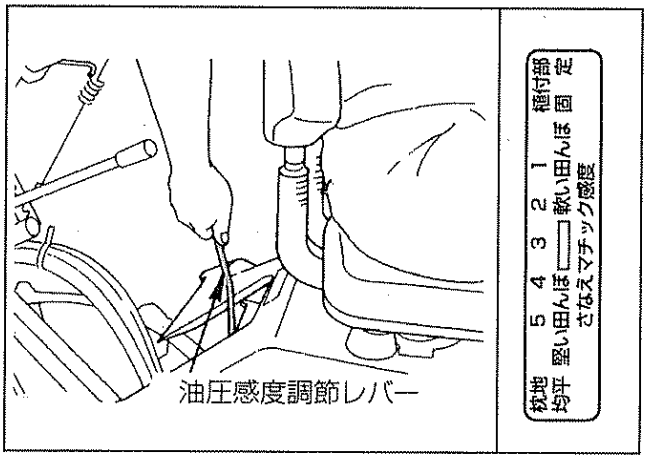


(6) 油圧感度調節レバーを「植付部固定」位置にしてください。

(7) 主変速レバーを「中立」の位置、植付クラッチレバーを「植える」位置にし、苗のせ台が機体中央にきたら、植付クラッチレバーを「止まる」の位置にしてください。

(8) 走行場所に合わせて、主変速レバーと副変速レバーをセットしてください。

(9) 走行の場合、主変速レバーは「速い」又は「遅い」を使用して下さい。



⚠ 注意

走行するときは、エンジン回転を落とし副変速は低速にしてください。

重要

- 走行中は主クラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。

■トラックへの積み・降ろしのしかた

(1) 線引マーカ、隣接マーカ、しゅう動板ガード、補助苗枠を収納してください。

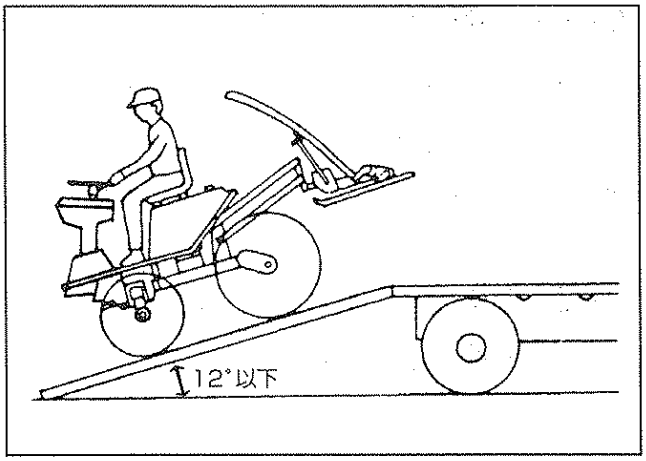
(2) 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

(3) 植付部をいっぱい上げ、感度調節レバーを「植付部固定」位置にしてください。

(4) 植付部を機体の中央にしてください。

(5) トラックに載せる時は、アクセルレバーを前方へいっぱい押し(エンジン回転は最低速にします。)主変速レバーを「後進」位置にして、副変速レバーを「遅い」位置にセットして行なってください。

又、トラックより降ろす時は、主変速レバーを「遅い」、副変速レバーを「遅い」で行なってください。



〈アユミ板の条件〉

- 長さ 車の荷台の高さの４.8倍以上
- 幅 30cm以上
- 数量 ２枚
- 強度 １枚の強度が500kg以上
- すべり止めのあるもの

⚠ 警告

(1) アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、又ずれないように確実に掛けてください。

(2) 周囲に危険のない平たんで、地面のかたい場所を選んでください。

(3) 積み込むトラックのエンジンを停止し、変速は「１速」または「R」の位に入れて、駐車ブレーキを引いてください。

(4) 万一積降ろしの途中でエンジンが止まった場合は、即時にブレーキペダルをふんで、その後徐々にブレーキをゆるめて道路まで降ろしてください。

(5) 積降ろしの途中では絶対に主クラッチペダルをブレーキペダルより先に踏まないでください。ブレーキがきいていない状態でクラッチを切ると、田植機が下へ走り出し、非常に危険です。

■運搬中の固定方法

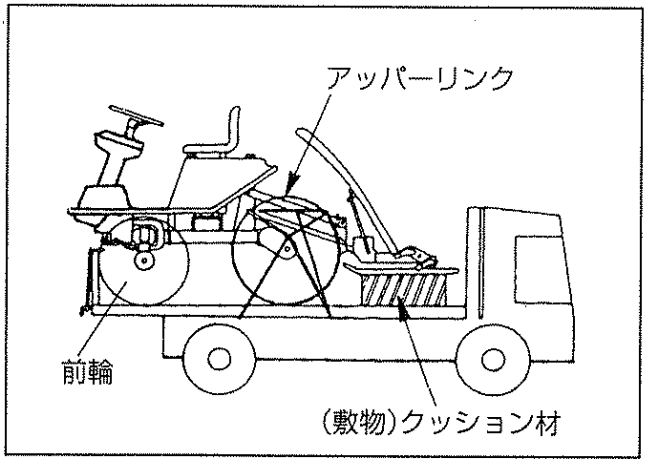
(1) 前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定してください。

(2) 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

(3) フロートの下に敷物を置いて、植付部を降ろし、アッパリンクをロープで軽く押さえてください。

(4) 主変速レバーを「遅い」か「後進」位置にしてください。

(5) 左右のブレーキペダルを連結し、ブレーキペダルを踏込み駐車ブレーキレバーをかけてください。(21ページ参照)



ほ場への出入のしかた

⚠ 警告

(1) ブレーキペダルは、左右連結してください。

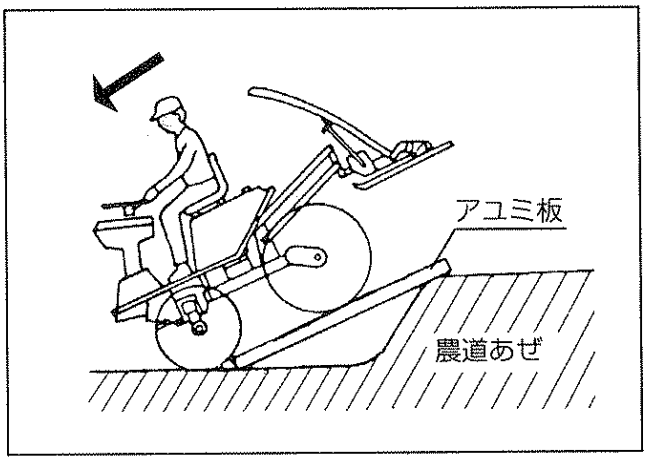
(2) ほ場との高低差が大きい時は、アユミ板を使用してください。

(3) 補助苗枠および苗のせ台には、苗を乗せないでください。又田植機に荷物を積まないでください。

■ほ場への入りかた

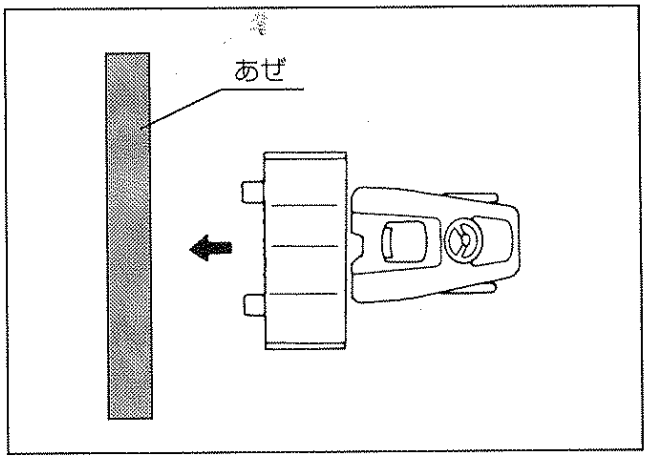
(1) 植付部をいっぱい上げてください。

(2) 主変速レバーを「遅い」、副変速レバーを「遅い」の位置にして、ゆっくりとほ場に入ってください。



⚠ 注意

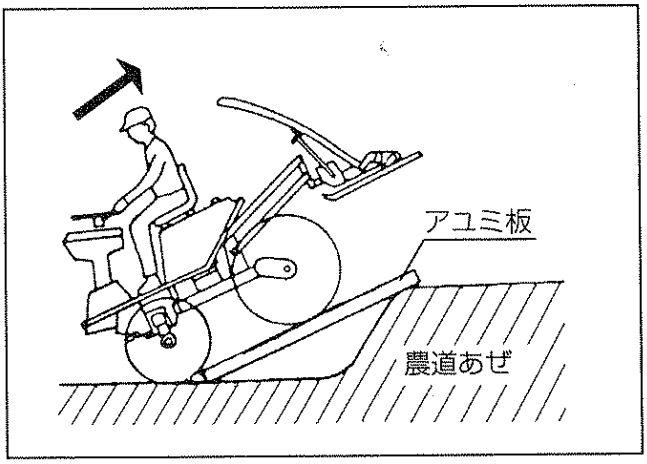
ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角に進んでください。



■ほ場からの出かた

(1) 植付部をいっぱい上げてください。

(2) 主変速レバーを「後進」、副変速レバーを「遅い」の位置にして、ゆっくりとほ場から出てください。



植付作業のしかた

ほ場と苗の準備

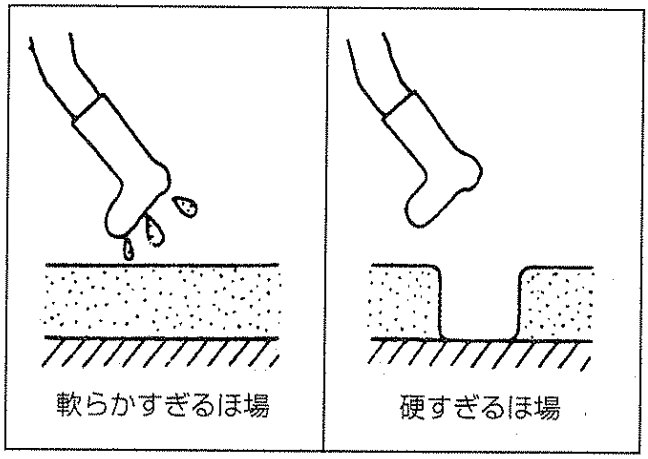
■ほ場の準備

●代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすように、ていねいにしてください。

重要

- 代かき日は、土質などによっても異なりますので、当地に合った代かき日をきめてください。
- ほ場の硬さは、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。



●水深

水深は１～２cm程度の全面浅水が最適です。

重要

- 水深が２cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。

●きょう雑物

刈り株・排ワラなどのきょう雑物はできるだけ取り除いてください。

■苗の準備

●マット苗

マット苗の育苗方法については、田植機の付属品として「播種育苗説明書」が同梱されておりますので、これに基づき健苗を育ててください。

●ポット苗

ポット苗の育苗方法については、田植機の付属品として「ヰセキポット育苗説明書」が同梱されておりますので、これに基づき健苗を育ててください。

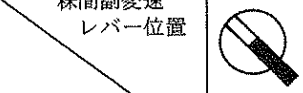
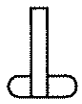
植付作業前の準備

■植付株数(株間)の決めかた

植付株数は、株間切替レバーと株間副変速レバーの切替えで変更できます。
当地に合った植付株数にセットしてください。
(切替えのしかたは43ページ参照)

重要

- 出荷時の植付株数は70株(H型：65株)(株間副変速レバーは「多いの位置)です。
- 植付株数と苗取り量により使用箱数が変わります。(P46参照)
  植付株数に合った箱数を準備してください。なお、実際には10a当たり２箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 植付株数や苗取り量を途中で変更すると所要箱数が変わります。

株間副変速レバー位置 / 株間切換レバー位置		H型以外		H型	
		 少ない	多い	少ない	多い
	株数	60	90	55	85
	株間(cm)	18 (17)	12 (11)	20	13
	株数	50	80	50	75
	株間(cm)	22 (20)	14 (13)	22	15
	株数	45	70	43	65
	株間(cm)	25 (22)	16 (14)	26	17

・(　)内はA型仕様機
・この株数は車輪スリップ率10%のときのものです。

■株数副変速レバーと株数切替レバーの切替

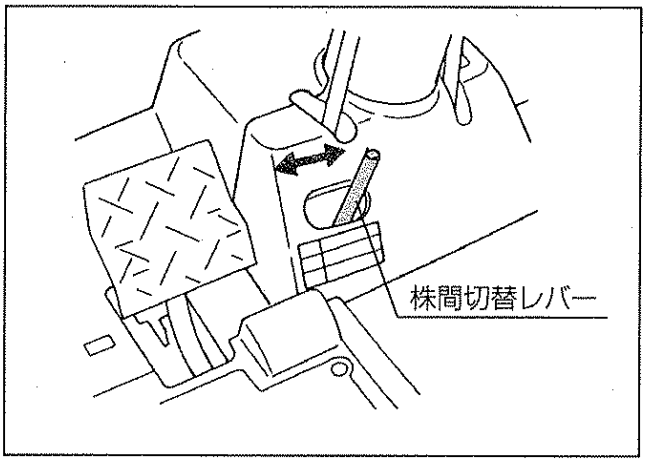
●株間切替レバー

(1) 植付部をいっぱい上げ、油圧感度調節レバーを「植付部固定」位置にします。
(ほ場内の時は、植付部は下がったままでもかまいません。)

(2) エンジンを低速回転にし、主変速レバーを「中立」の位置にします。

(3) 植付クラッチレバーを「植える」の位置にし、植込杆を回します。

(4) 株間切替レバーを左右に動かし、希望の位置にセットします。



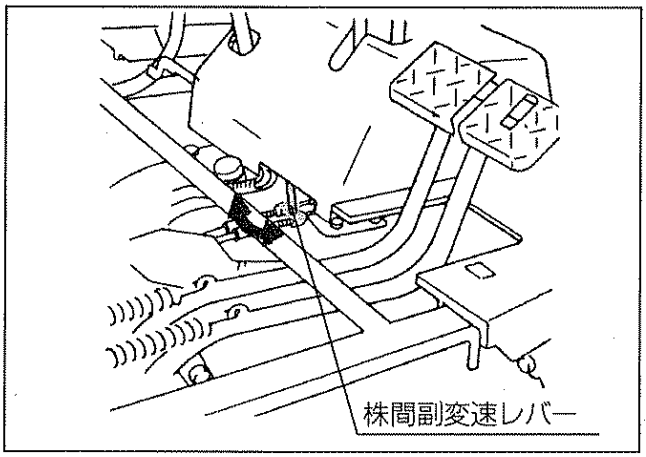
重要

- レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。

●株間副変速レバー

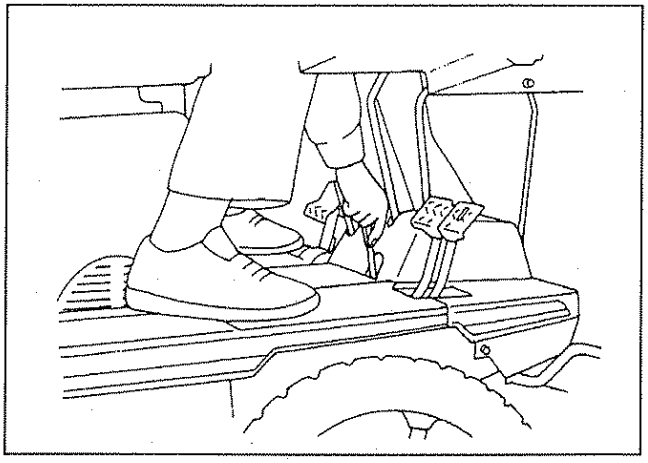
(1) エンジンを停止し、主変速レバーを「中立」にします。

(2) ベルトを手で動かしながら、レバーを移動させてください。



重要

- レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。
- ステップを開放しなくても株間副変速レバーの溝部にマイナスドライバーを差し込み切替えることも出来ます。



⚠ 注意

切替えはエンジンを停止して行なってください。これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因になります。

■横送り量の調節のしかた

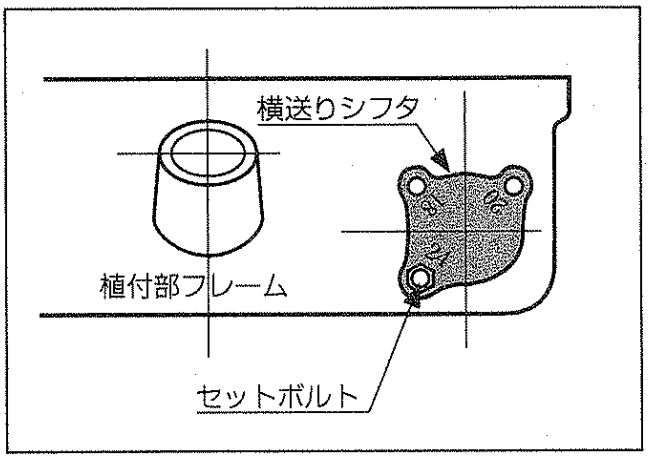
苗の種類によって、横送り量の切替えを行なってください。

横取回数	苗　の　種　類
24　回	稚　苗
20　回	中　苗
18　回	中苗、ヰセキ中苗箱18条ポット

(1) 横送りシフタの苗の種類に合わせた位置に回してください。

(2) 横送りシフタのセットボルトをはずし、横送りシフタを苗の種類に合わせた横取回数の位置に回してください。

(3) セットボルトで横送りシフタを確実に締め付けてください。



> ⚠ 注意
>
> 切替えはエンジンを停止して行なってください。
> これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因となります。

重要

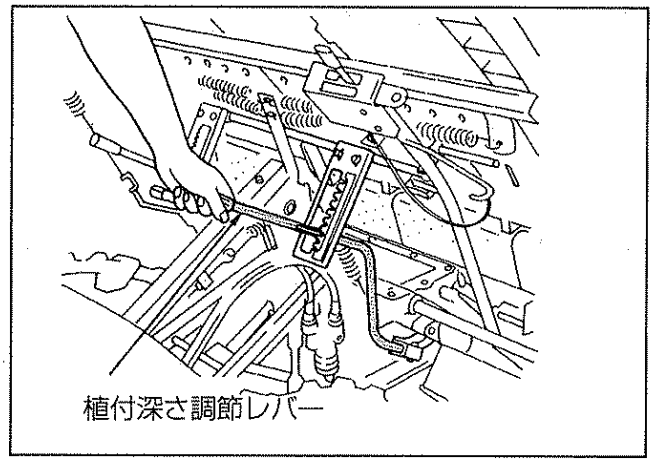
(1) シフタの切替え以外の調節は不要です。

(2) 切り替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。

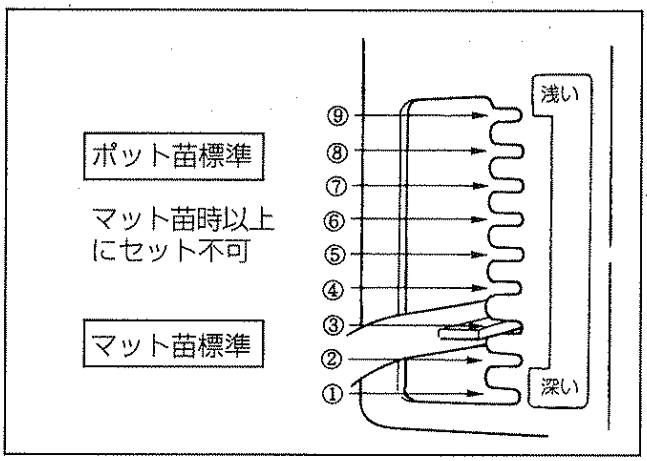
(3) 横送り回数を変更したときは、適正な植付爪と取口ガイドに交換してください。
(植付爪と取口ガイドは、お買いあげいただいた販売店、農協へ注文してください。)

■植付深さの調節のしかた

●植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは９段階に選べます。

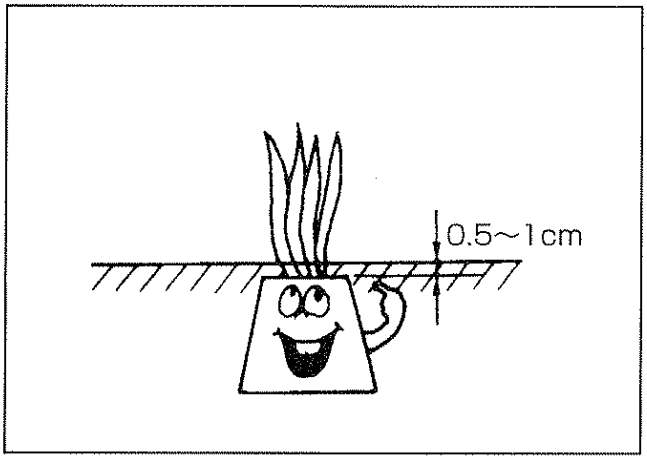


●植付深さの標準は、マット苗がガイド溝③の位置、ポット苗が⑧の位置です。
植付深さを深くしたい時は①の方向へ、浅くしたい時は⑨の方向へ植付深さ調節レバーを移動させてください。
マット苗植付時は⑦～⑨は使用しないでください。浅植えとなり苗がころぶことがあります。



重要

- 植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- ポット苗の植付深さは、0.5～1cmが適正です。

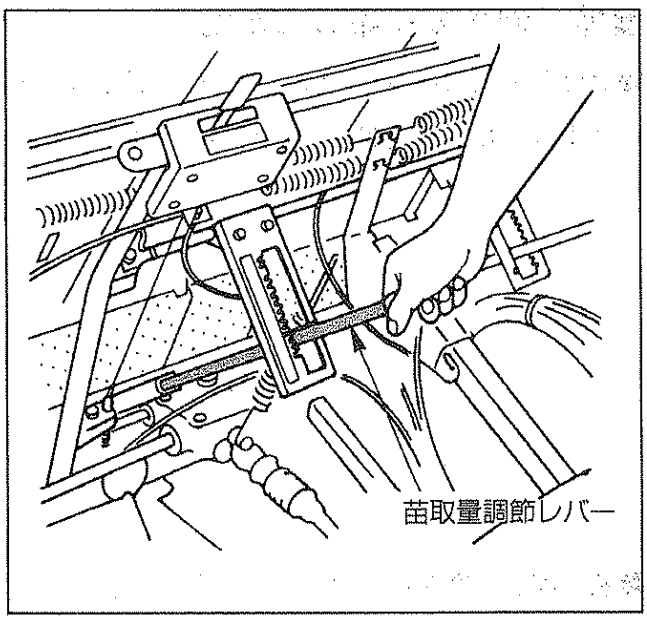


■苗取り量の調整のしかた

●苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。

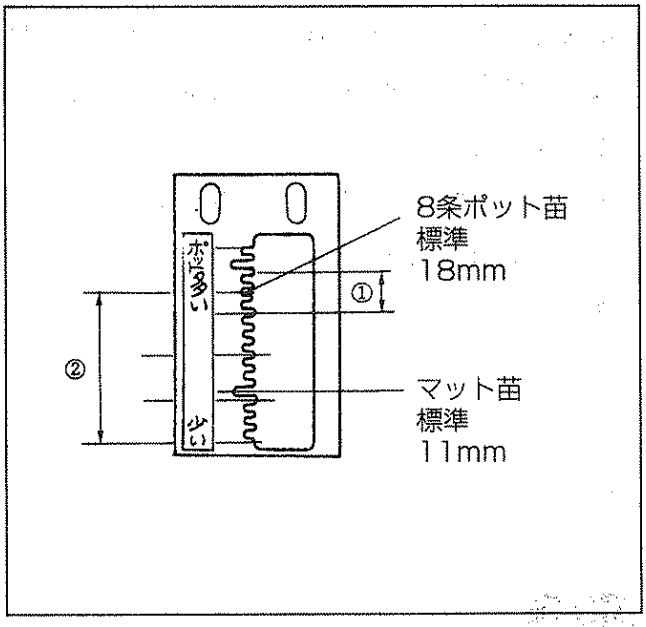
●苗取量の標準は、マット苗が11mm、18条ポット苗が18mmです。

●ガイド溝１段で苗取量は約１mm変わります。



重要

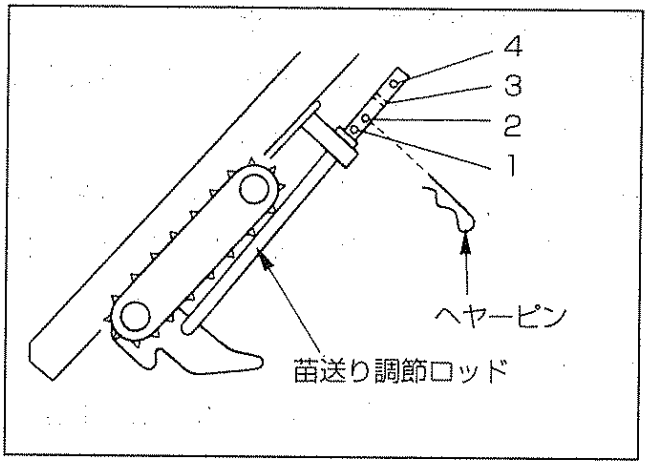
● ガイド溝①の範囲は18条ポットを植える時に使用し、ガイド溝②の範囲はマット苗を植える時に使用してください。



■苗送り量の調節のしかた

●苗送り量は、ヘヤーピンの差し替えで調節が行なえます。

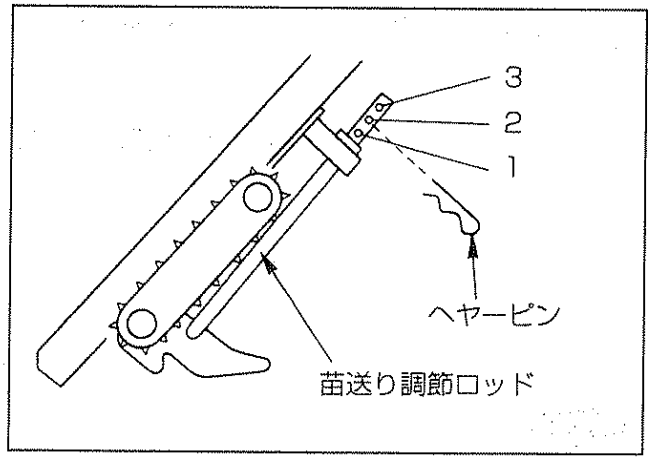
苗取り量に応じて、ヘヤーピンの位置を変えてください。



●〈N18型〉

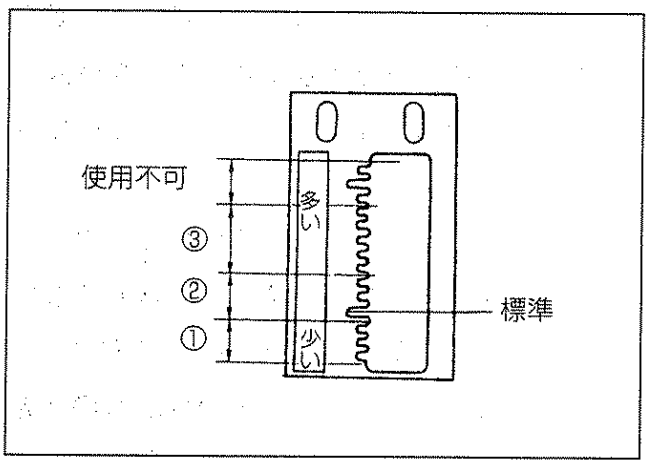
苗　取　量		ヘアーピンの位置
マット苗	①の間	1
	②の間	2
	③の間	3
ポット苗	④の間	4

（18条ポット苗は③④をポット苗の状態に応じて使い分けてください。）



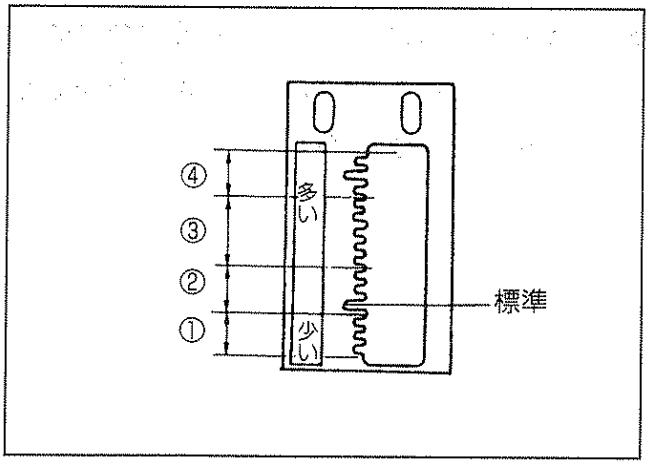
●〈N18型以外〉

苗　取　量		ヘアーピンの位置
マット苗	①の間	1
	②の間	2
	③の間	3



重要

● N18型以外では右図の「使用不可」の範囲で使用しないでください。



> ⚠ 注意
>
> 位置の変更はエンジンを停止して行なってください。これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

■油圧感度調節のしかた

●油圧感度は、油圧感度調節レバーを左右にずらすことにより５段階に選べます。

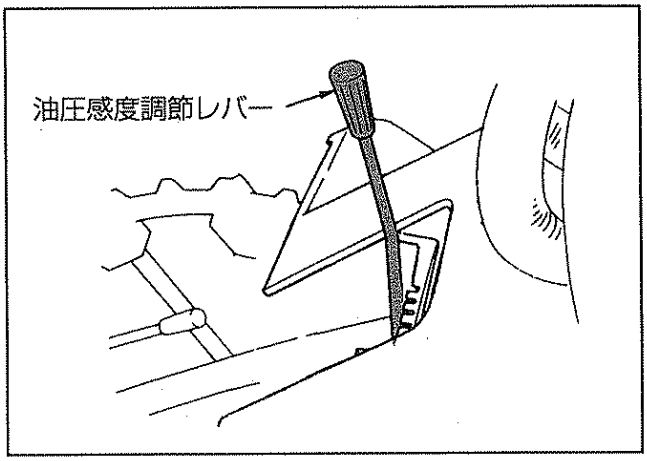
●枕地などで、土くれがもり上がっている場合には、レバーを「枕地均平」位置に手で固定し、植付けてください。

●フロートで泥を押す場合

レバーを一段づつ「軟らかい田んぼ」側へ移動させてください。

●植付部がバタック場合やフロート後部が浮く場合

レバーを一段づつ「硬い田んぼ」側へ移動させてください。



重要

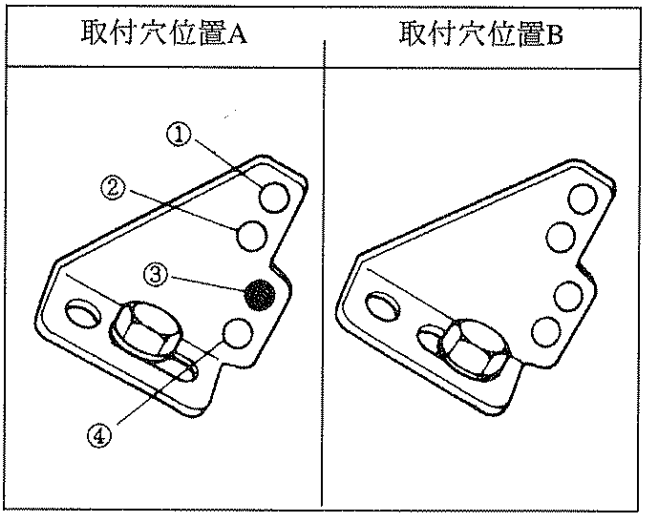
- 油圧感度調節レバーの調節を行なった場合は、植付深さが変わりますので、植付深さの確認と調節を合わせて行なってください。
- 水深が深い場合には、水の浮力で、フロートが浮きやすくなりますので、水深の浅い所よりも一段「硬」側にセットしてください。
- 水深が深い場合や、レバーが「軟」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。
- 隣接条を、植付「切」で走行する場合には、最も「軟」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しません。

感度調節レバーの移動方向	植付深さ
「軟」 → 「硬」	深くなる
「硬」 → 「軟」	浅くなる

■抵抗棒の調整のしかた

●抵抗棒の位置は、ヘヤーピンを抜いて抵抗棒を差し替えることにより、４段階に選べ、プレートの取付位置をボルトをゆるめて替えることにより、さらに多くの場所を選ぶことができます。

●出荷位置および標準位置は、プレートがⒶの位で、③の位置になっております。



標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領にて調節してください。

不調な場合の現象	低攻棒の位置	
	抵抗棒の差し込み位置	プレートの取付位置
植付けた苗が前だおれになる	①、②	Ⓐ の位置
植えつけた苗が後だおれになる	④	Ⓑ の位置
植えつけた苗がおおぎ状になる	④	Ⓑ の位置
苗が植付爪より離れない	①、②	Ⓐ の位置
苗が１、２本だけ離れ植付がみだれる	④	Ⓑ の位置

重要

- 抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に抵抗棒のプレートの差し込み位置を替えて調整し、それでも直らない場合にプレートの取付位置を変更してください。
- プレートの取付位置を変更時は、苗乗せ台の左右両端および中央のプレートの取付位置も合わせて変更してください。

⚠ 注意

位置の変更はエンジンを停止して行なってください。これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

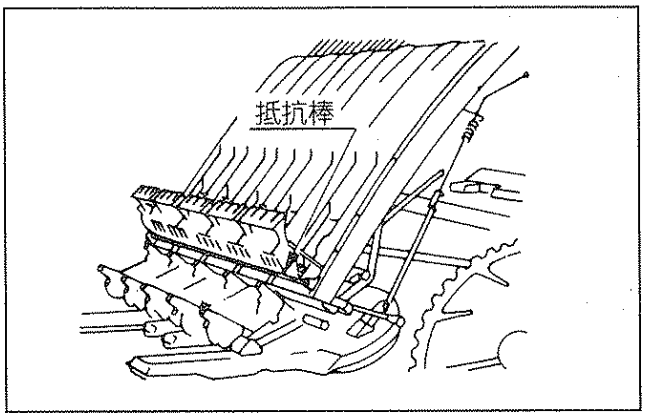
●N型仕様機(ポット苗)

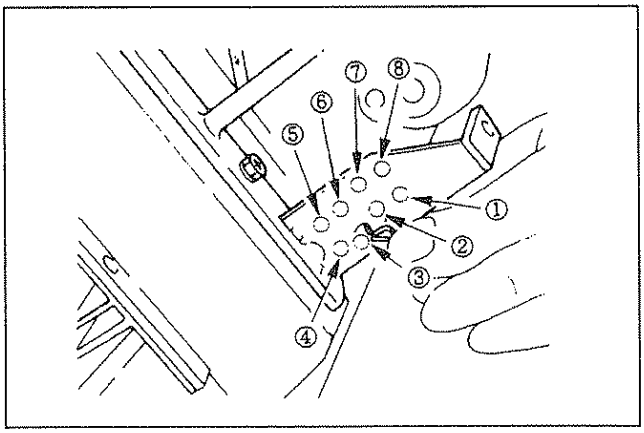
・抵抗棒の位置は、ヘヤーピンを抜いて抵抗棒を差し変えることにより、８段階に調節できます。

・出荷位置は、③の位置になっております。

・抵抗棒の標準位置は
マット苗の場合 ..... ③の位置
ポット苗の場合 ..... ⑥の位置です。

・標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領にて調節してください。





不調な場合の現象	低攻棒の位置 マット苗の場合	ポット苗の場合
植付けた苗が前だおれになる	①、②	⑦、⑧
植えつけた苗が後だおれになる	④	⑤
植えつけた苗がおおぎ状になる	④	—
苗が植付爪より離れない	①、②	⑦、⑧
苗が１、２本だけ離れ植付がみだれる	④、⑤、⑥	—

重要

- 抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に抵抗棒のプレートの差し込み位置を変えて調整し、それでも直らない場合にプレートの取付位置を変更してください。
- プレートの取付位置を変更時は、苗乗せ台の左右両端および中央のプレートの取付位置も合わせて変更してください。

⚠ 注意

位置の変更はエンジンを停止して行なってください。これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

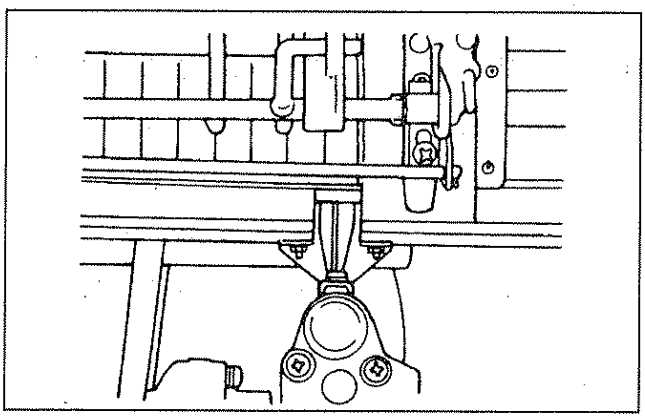
植付作業の手順

(1) ほ場に入り主変速レバーを「中立」にします。

(2) 左右のブレーキペダルを連結している連結金具をはずします。

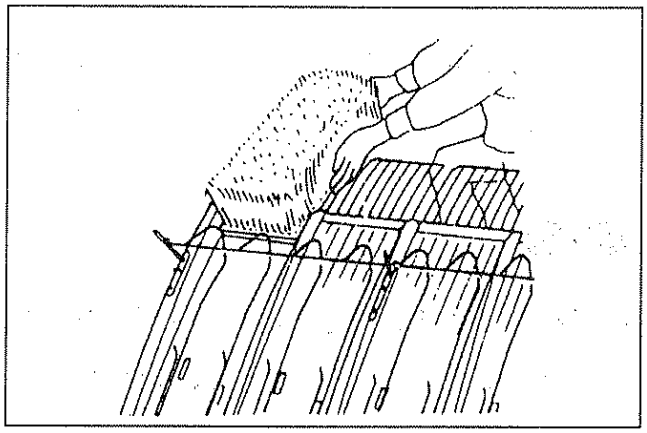
(3) 線引マーカを収納位置から作業位置にしてください。

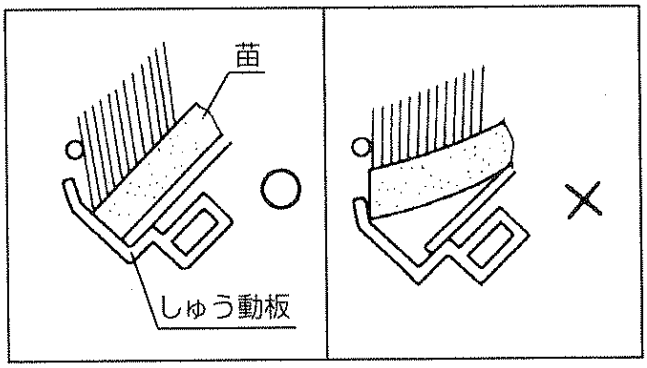
(4) 隣接マーカを作業位置にセットしてください。



(5) 植付クラッチレバーを「植える」の位置にして苗のせ台を左又は右端に寄せて植付クラッチレバーを「止まる」の位置にしてください。
〈N18型〉
苗のせ台を必ず右端に寄せて(ブザーがなった時)植付クラッチレバーを植付「止まる」の位置にしてください。

(6) 苗取板で取った苗を、苗のせ台にていねいにのせてください。
〈N18型〉
ポット苗がしゅう動板の所まで落ちなくて、途中で止まっている場合があります。
この場合はポット苗がしゅう動板にあたるまで苗を下げてください。





重要

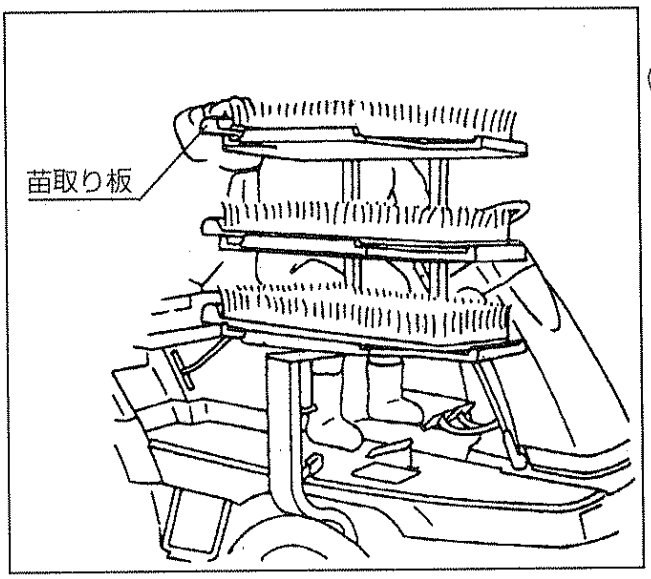
- 苗が、しゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。
- 苗のせ台を左又は右端に寄せてください。

〈D型〉

補助苗枠に苗(育苗箱に入ったままの状態)をのせてください。

重要

- 補助苗枠の苗に、苗取板を１枚さし込んでおくと便利です。



(7) 主変速レバーを「植付」、副変速レバーを「遅い」の位置にして、ほ場の端に移動してください。

(8) 線引マーカを次の行程で植える側に出してください。(17ページ、54ページ参照)

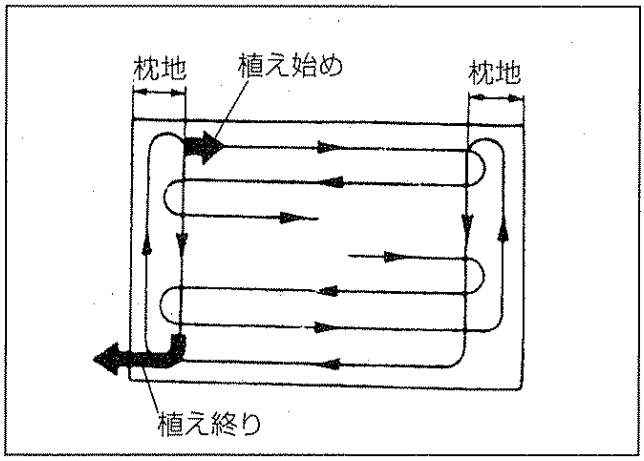
(9) 植付クラッチレバーを「植える」の位置にしてください。

(10) エンジン回転数を中速にして、クラッチペダルをゆっくり離し植付をはじめてください。

重要

- 植付作業を開始して、各調節が希望通りになっているか確認してから、連続作業を行ってください。
- ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。

■枕地のとりかた



● 枕地はあらかじめ１往復分残して植付れば、能率的に枕地植えが行なえます。

重要

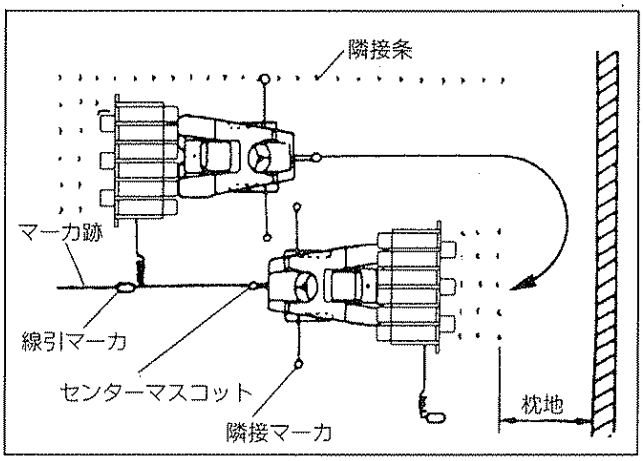
● ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付けができます。

■旋回のしかた

(1) あぜに近づいたら、副変速レバーを「低速」の位置にし、あぜから枕地分手前で、植付クラッチレバーを「上がる」の位置にしてください。

(2) ステアリングを回し旋回する側のブレーキペダルを踏んでください。

(3) センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合わせ機体を進行方向にまっすぐ向けてください。



重要

● センターマスコットは、１行程前に線引マーカでつけたマーカ跡に合わすと隣接との条間が合います。

● 隣接マーカは、１行程前に植えつけられた隣接条に合わせると条間が合います。

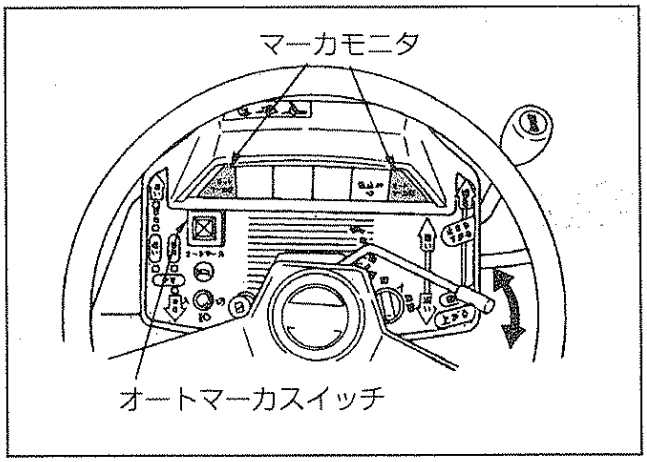
(4) 植付クラッチレバーを「下がる」位置にし、植付部を下げて、次の植付行程側の線引マーカを出します。

(5) 枕地分をすぎた所で、植付クラッチレバーを「植える」にして、モニターランプの「植える」の点灯を確認して植え進んでください。
線引マーカは、植付部を上下することにより自動的に左右交互に倒れます。

■オートマーカの使いかた

(1) オートマーカスイッチを「ON」にするとオートマーカスイッチのランプが点灯すると同時に、線引マーカの倒れる側のマーカ表示モニタが点灯します。

(2) 線引マーカの倒れる方向を切替える時には、植付クラッチレバーを「上がる」位置にし、植付部をいっぱい上げてから、マーカモニタランプが切替わったことを確認して、植付部を下げてください。



重要

- 植付部をいっぱい上げて、オートマーカスイッチを「OFF」にすれば、両側の線引マーカとも倒れません。

オートマーカスイッチの操作のしかた

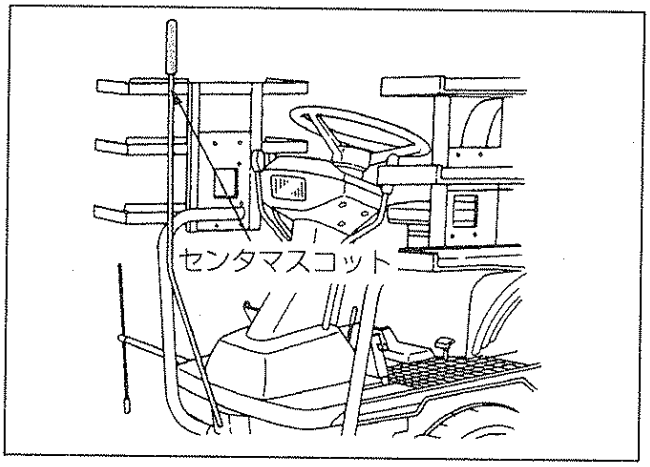
■苗の補給のしかた

(1) 苗が一定量まで減少すると、センタマスコットが点滅します。

(2) クラッチペダルを踏込み、ペダルを固定してクラッチを「切」にします。

(3) 補助苗を苗取板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台に苗をすべりこませてください。

(4) 苗補給が終ったら、クラッチペダルの上側を踏込みペダルの固定を解除してから、クラッチペダルを徐々に離し植え進んでください。

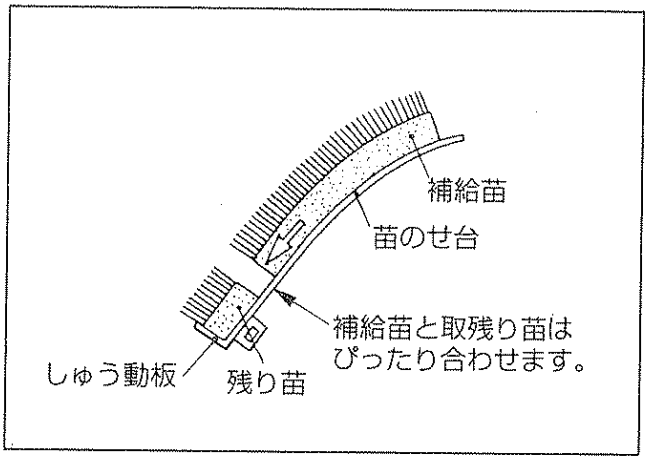


重要

- 苗補給する時には、残り苗と補給苗がぴったり合うように注意してください。

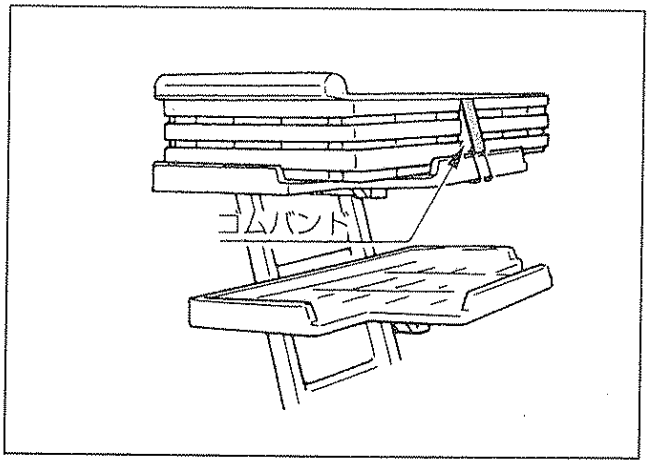
〈N18型〉

- 途中でポット苗を補給するとき、つぶれる場合がありますので、静かに苗を補給してください。



〈D型〉

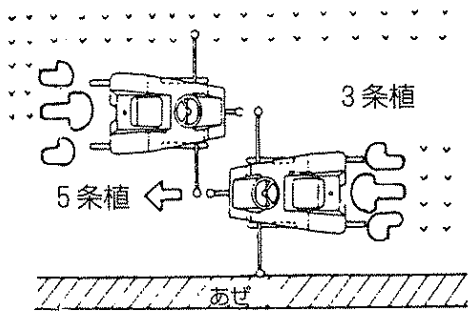
- 風が強くて、苗補給後の苗箱(空箱)や苗取板が飛ぶような場合は、補助苗枠のゴムバンドで固定してください。



■植えじまいのしかた

植付けの最終行程(あぜぎわでの植付け)を条数に合わせるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。任意の条数を植えたいときは、苗ストッパを使って行なってください。

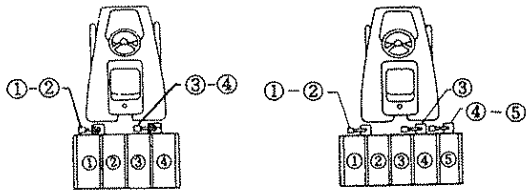
●PM50



5条植えで8条残った場合

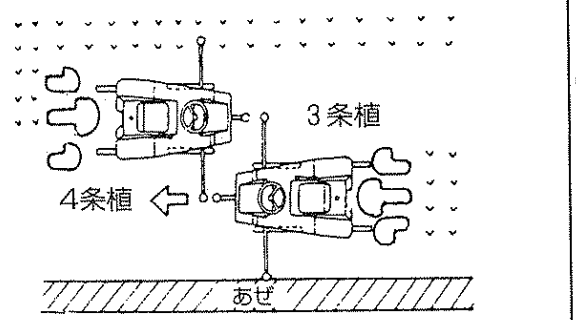
〈D型〉

●植込杆停止レバーを「止まる」の位置にすることにより、下図に示す2条(PM50の場合中央1条)単位の植付を停止することができます。

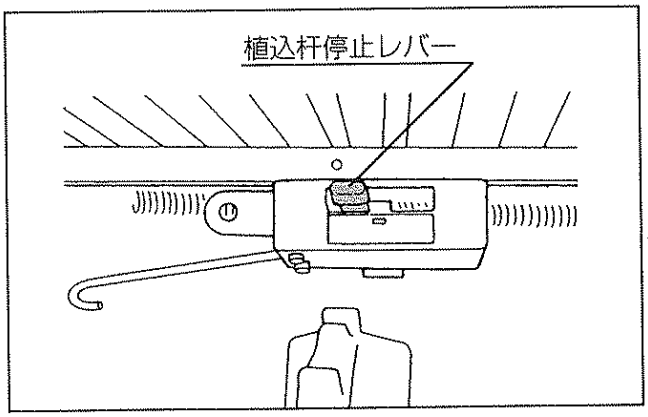


(PM40D)　(PM50D)

●PM40



7条残った場合

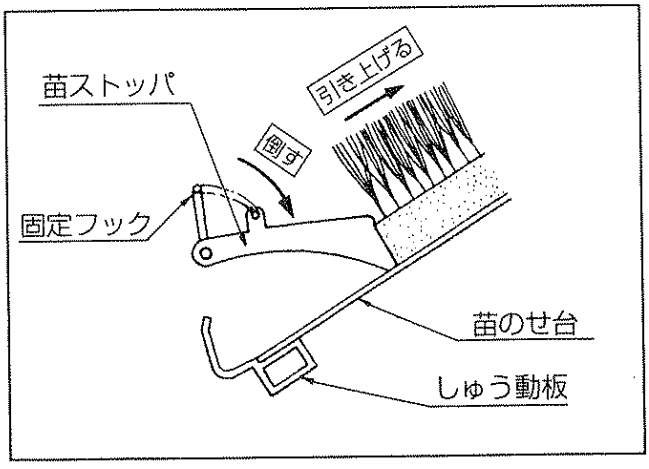


重要

〈D型〉

- 植込杆停止レバーを「止まる」の位置で使用した後は、必ず「植える」の位置に戻してください。

●1条単位で植付を停止したい時には、植付を止めたい条の苗を上に引き上げ、苗ストッパを固定フックよりはずし、苗のせ台側に倒してください。



重要

- 苗ストッパを使用した後は、必ず苗ストッパを固定フックに確実に入れてください。

重要

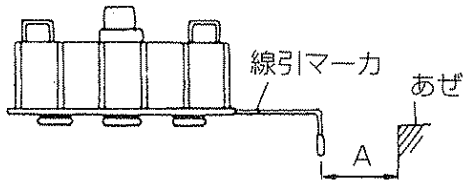
〈D型〉

- 苗の葉を両手でもつと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。（植込杆停止レバーを使用すると停止条の苗がくずれ、植付再開時欠株を生じる場合があります。）

●最終行程の前行程での植付条数のきめかた

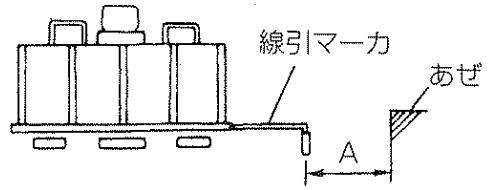
センタマスコットと隣接マーカで条合わせした後、線引マーカを出し植付条数を決めてください。

●PM50



Aの距離： 90cm程度の時 5条植え
60cm程度の時 4条植え
30cm程度の時 3条植え
0cm程度の時 2条植え
あぜへ30cm程度 1条植え
のり上げる時

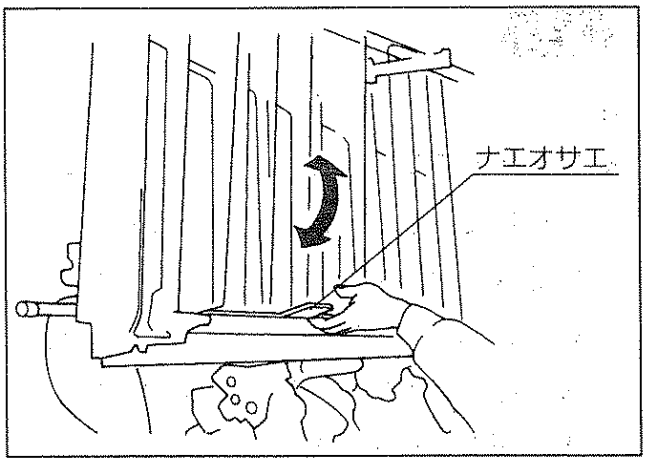
●PM40



Aの距離： 750cm程度の時 4条植え
45cm程度の時 3条植え
15cm程度の時 2条植え
あぜへ15cm程度 1条植え
のり上げる時

■残り苗の取り出し

●植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押え開放レバーを横に傾けて、下の切り欠き溝からはずし、上の切り欠き溝に入れてください。



重要

- 苗の取り出しが終ったら、苗押さえ開放レバーは、必ず作業位置(下の切り欠き溝)に戻してください。

■安全クラッチが作動したとき

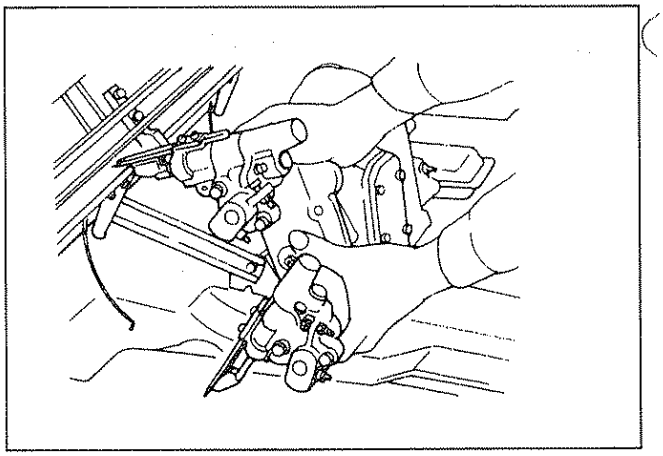
- 植付け作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いていますので次の処置をして下さい。

(1) ただちにクラッチペダルを踏込みクラッチを切り、クラッチペダルをロックします。

(2) 植付クラッチレバーを「止まる」の位置にし、エンジンを停止します。

(3) 苗取口と分離針の間、植込杆とフロートの間などに石等をかんでいないか確認し、取除いてください。

(4) 植込杆が軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、分離針は変形していないかを確認してから植付を再開してください。



手で軽く回るか確認してください。

重要

- 分離針が曲がったり、破損した時は、お買いあげいただいた販売店および農協にご連絡ください。

⚠ 注意

安全クラッチの確認時には、必ず、エンジンを停止して行ってください。
これを怠ると大変危険です。

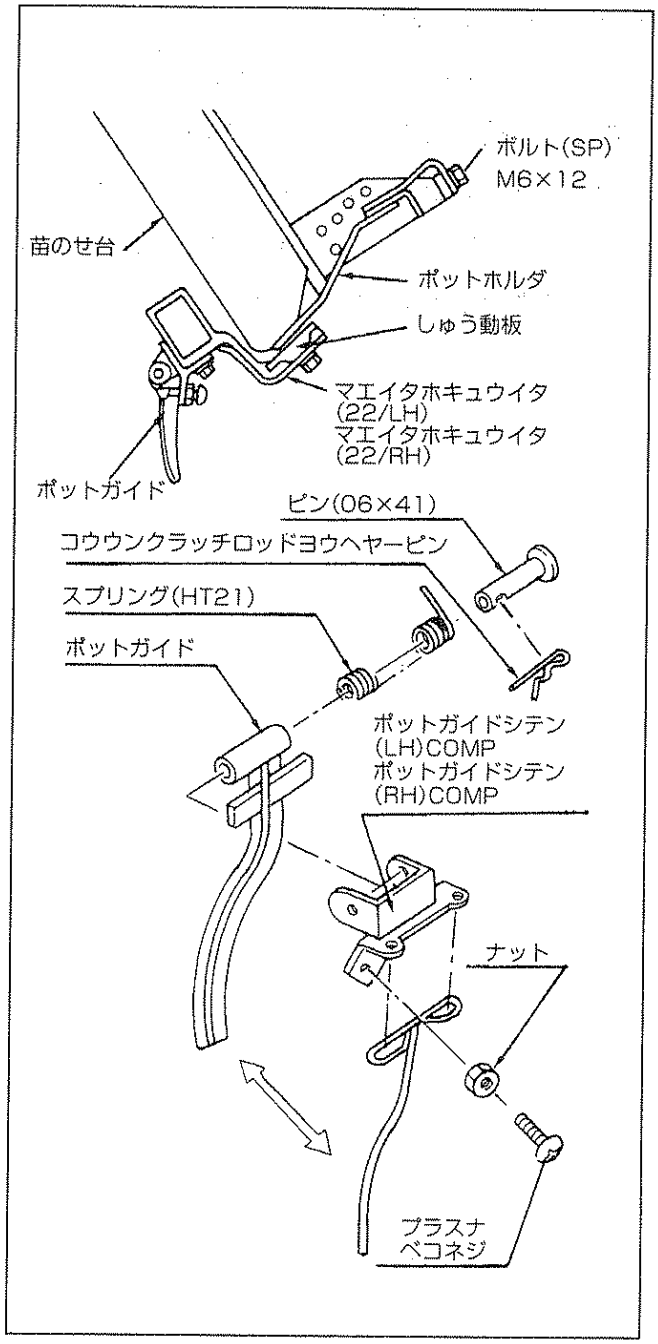
■ヰセキ成苗箱ポット苗を植える時

〈N18型〉

●ヰセキ成苗箱ポット苗を植える時には、次の箇所を変更してください。

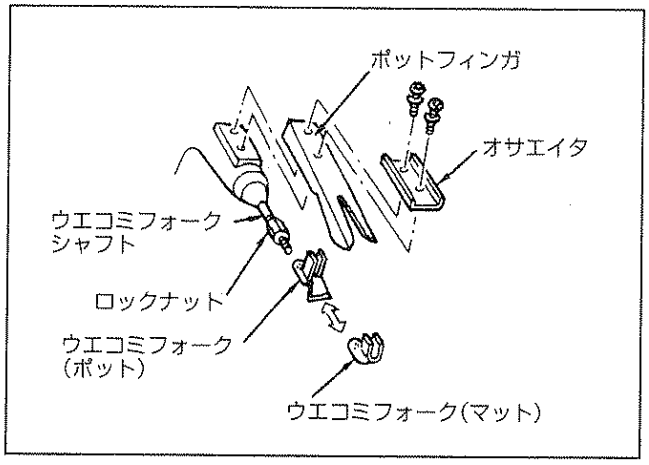
(1) 下に示す部品の追加および交換は、お買い上げいただいた販売店、又は農協に依頼してください。

・ポットホルダの追加
・ポットガイドの交換
・ポットガイドシテン(LH)、(RH)COMP
・ピン(06×41)、スプリング(HT21)
・コウウンクラッチロッドヨウヘヤーピン
・プラスナベコネジ、ナットの追加
・マエイタホキョウイタ(22/LH)(22/RH)の交換
・ポットフィンガの交換
・ウエコミフォーク(ポット)の交換



(2) 下に示す箇所の調節を行ってください。

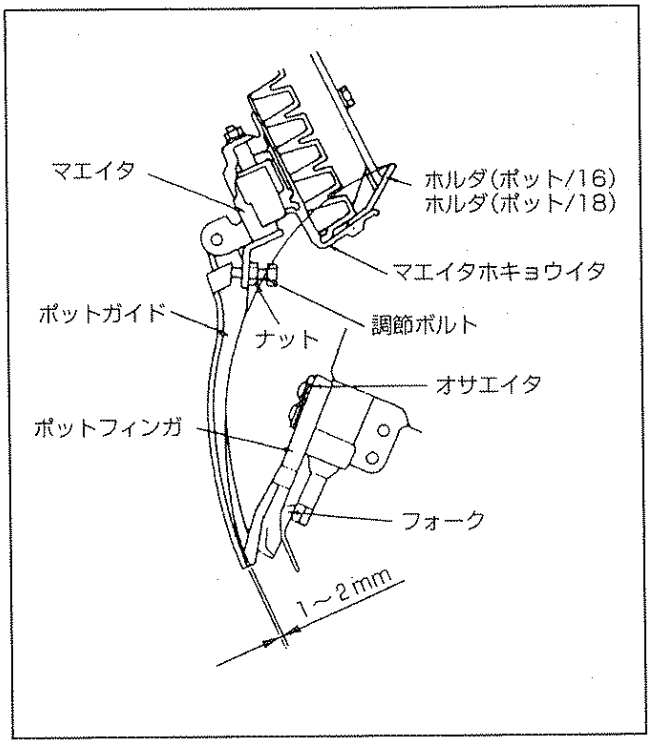
・植付深さ調節レバーの調節 ..45ページ参照
・苗取量調節レバーの調節 46ページ参照
・苗送り量の調節 47ページ参照
・横送りシフタの調節 44ページ参照
・抵抗棒位置の調節 49ページ参照

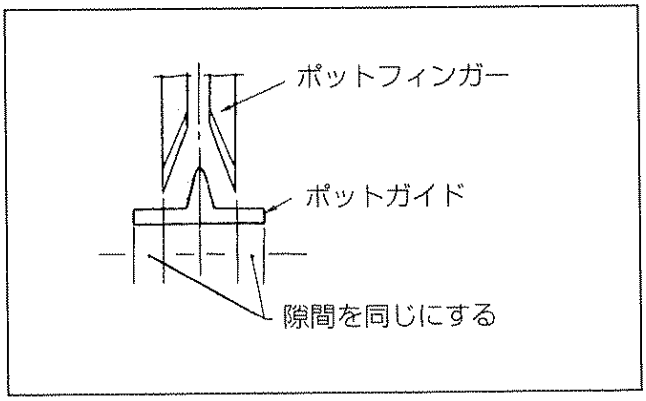


●ポットガイドの調節

ポットガイドがポットフィンガのほぼ中央にくる様に、前板に組付けてください。

ポットガイド最下端で、ポットガイドとポットフィンガの隙間が１～２mmになる様に調節ボルトで調節しナットにてロックしてください。





点 検 整 備

定期的な点検整備

⚠ 警告

(1)給油、排油、点検整備は必ずエンジンを停止して行なってください。
(2)機械は平たんな場所におき、植付部は下降ロックをし安全を確認してください。
(3)作業中は火気厳禁

■点検・給油・調整一覧表

○：点検　△：給油　×：交換

点検・給油・調整項目		点検時期			備考	参照ページ
		毎日	毎シーズン前	不調時のみ		
エンジン部	エンジンオイル	○	×	×	ヰセキガソリンオイル 30#、初期のみ10時間で交換　0.7ℓ	28 63
	エアークリーナエレメント洗浄		○	○		63
	燃料フィルター清掃		○	○		64
	スパークプラグの清掃		○	×		64
走行部	チェンジミッションオイル (油圧オイル兼用)			△	ヰセキハイポイドギヤーオイル80# 検油口まで約7ℓ	29
	リヤミッションオイル	分解時補給		△	ヰセキハイポイドギヤーオイル80#　0.8ℓ(2ケ所)	65
	油圧サクションフィルタ掃除			○	チェンジミッションオイル交換時	65

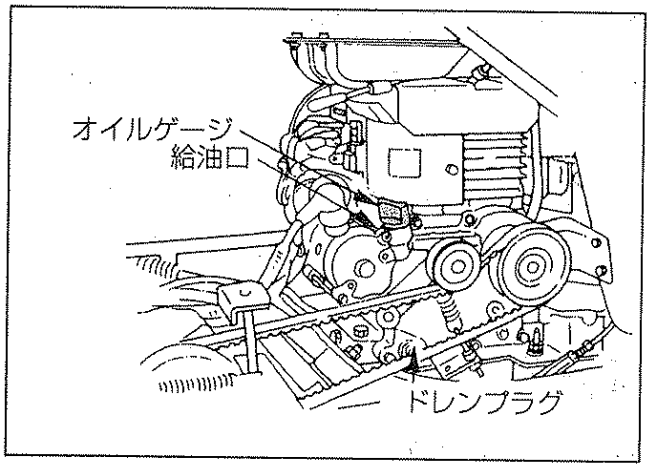
点検・給油・調整項目		点検時期			備考	参照ページ
		毎日	毎シーズン前	不調時のみ		
走行部	クラッチペダルの点検	○				66
	ブレーキの点検	○				66
	注油指定箇所	○			注油	30 31
	バッテリーの点検		○	×	毎シーズン始め	67
植付部	植付部フレーム	分離時補給		△	ヰセキハイポイドギヤーオイル80# 0.6ℓ	—
	サイドフレーム	分離時補給		△	ヰセキハイポイドギヤーオイル80# 各0.3ℓ	—
	植込杆	分離時補給		△	ワンルーバ MP1#	27
	分離針(植付爪)交換調整		○	×	摩耗、変形時 毎シーズン始め点検	69
	注油指定箇所	○			注油	30 31
その他	電気配線の接続部(カプラ)のゆるみ、損傷、ヒューズ等の点検		○	×	毎シーズン終了後	—
	各ワイヤの点検調整		○	×	毎シーズン始め	—

■エンジンオイルの交換

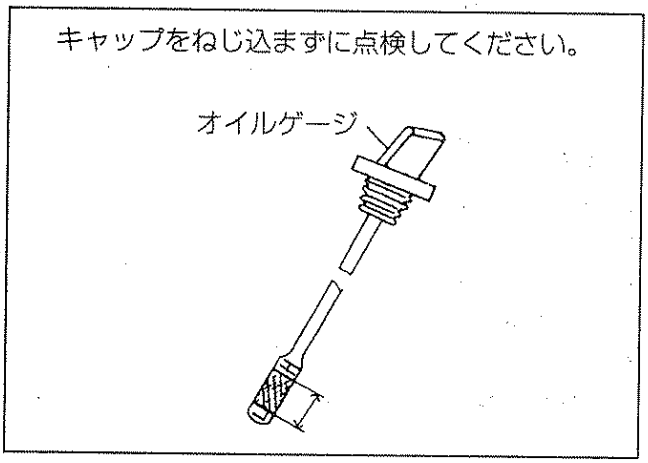
(1) エンジンを暖機運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。

(2) ドレンプラグを締付後、給油口からエンジンオイルを給油してください。(28ページ参照)
(ヰセキガソリンエンジンオイル30# 0.7ℓ)

(3) オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。
適量入っていれば給油栓を確実に締めてください。



キャップをねじ込まずに点検してください。

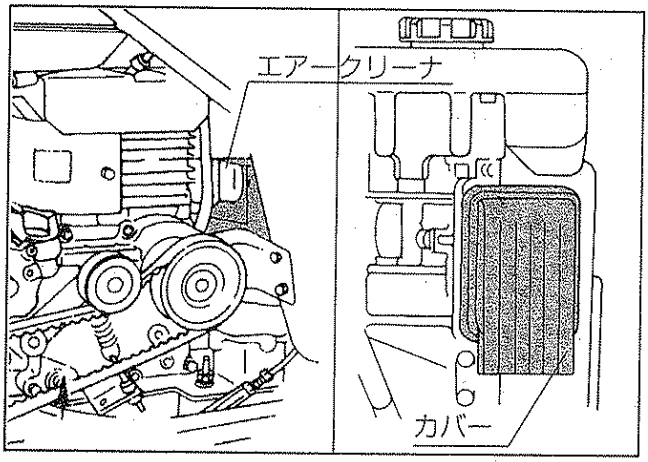


> ⚠ 注意
> (1) オイル交換時は、エンジンを停止して行ってください。
> (2) 作業中は火気厳禁

■エアークリーナエレメント洗浄

●スポンジエレメント

エアークリーナカバーを外し中のスポンジを取り出し、灯油で洗った後、エンジンオイルに浸しかたく絞って取り付けてください。

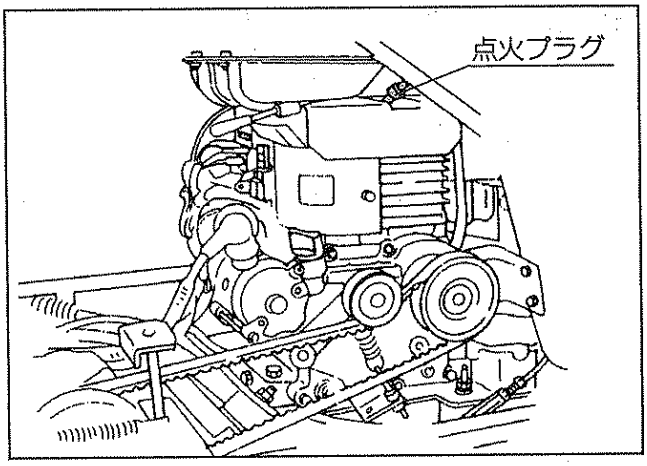


> ⚠ 注意
> 洗浄時は、エンジンを停止して行なってください。

■点火プラグの清掃

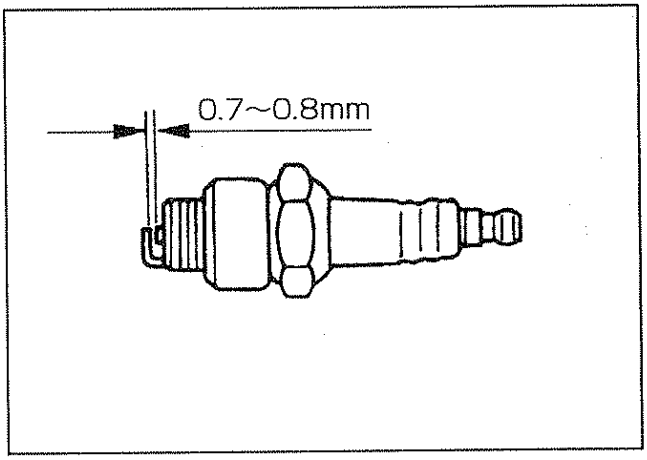
(1) 付属のボックスレンチで点火プラグを取り外してください。

(2) 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7~0.8mmに調整してください。



重要

- 使用点火プラグ
  NGK B-2H

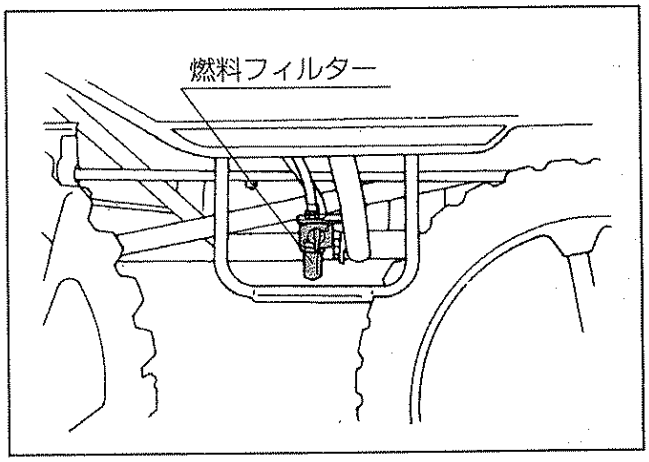


> ⚠ 注意
>
> 点火プラグの点検を行なうときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なってください。

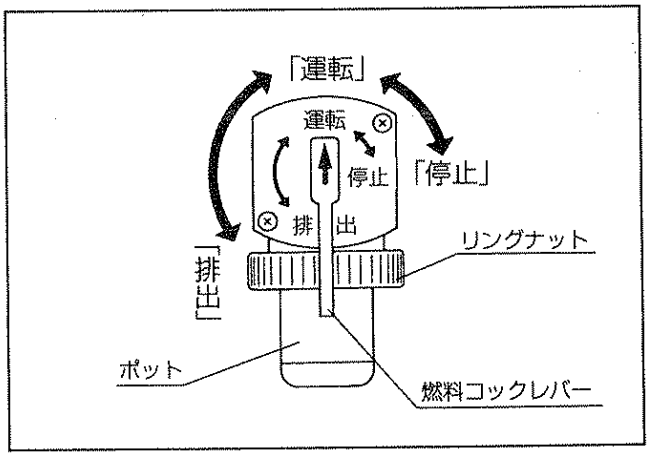
■燃料フィルターの清掃

(1) 燃料コックレバーを「停止」位置にしてください。

(2) リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油・ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。



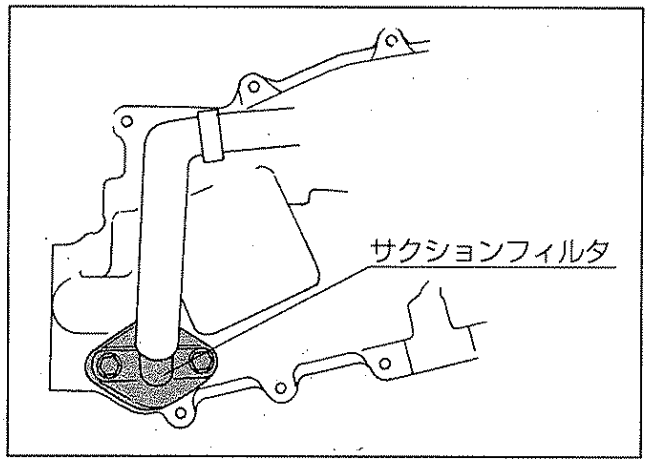
> ⚠ 危険
>
> (1) 清掃時は、エンジンを停止して行なってください。
>
> (2) 作業中は火気厳禁



■油圧サクションフィルタの掃除

●オイル交換時に、２本のボルトをはずして引き抜き、点検・掃除してください。

> ⚠ 注意
>
> オイル交換時は、エンジンを停止してください。



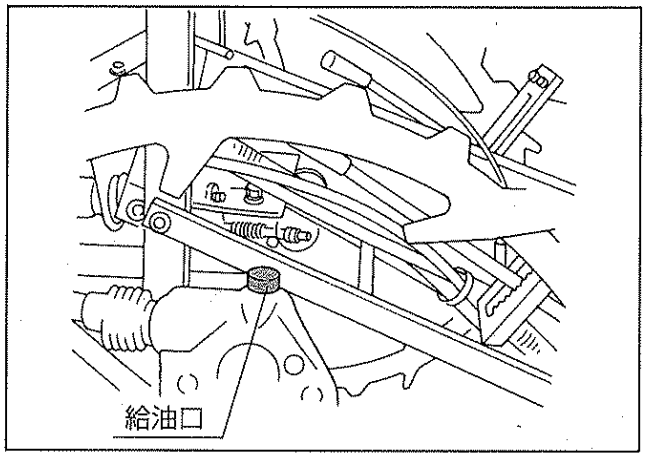
■リヤミッションオイルの給油

リヤミッション分解時には、キャップを外してオイルを給油してください。

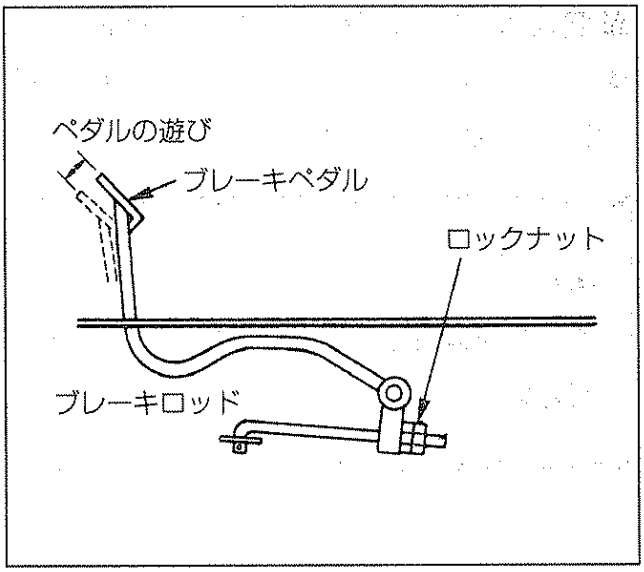
ヰセキハイポイドギヤーオイル80#

左右各0.8ℓ

> ⚠ 注意
>
> オイル交換時は、エンジンを停止してください。



■ブレーキペダルの点検と調整



点検のしかた

ブレーキペダルを軽く手で押し、左右のペダルの遊びが同じか確認してください。

遊び 1 ～ 5 mm

調整のしかた

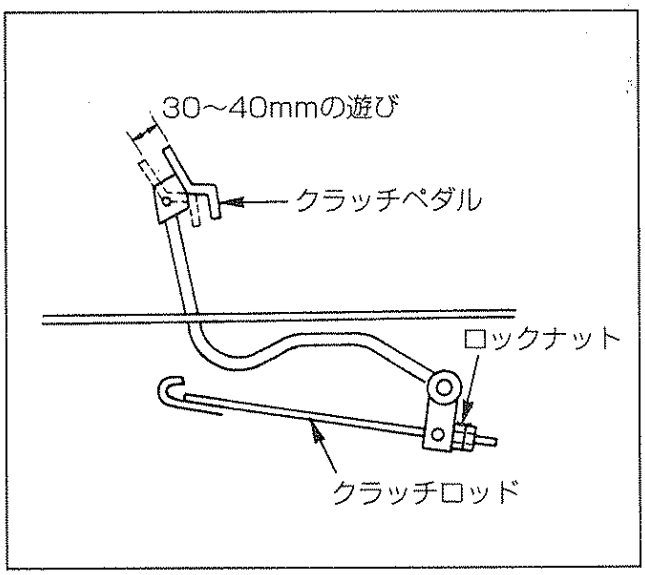
ブレーキロッドの左右のロックナットをゆるめ、ロックナットを回して調整してください。

重要

- 調整後は、ロックナットを確実にしめつけてください。

> ⚠ 警告
>
> 調整時左右のペダルの踏込み量を必ず合わせてください。合わせていないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■主クラッチペダルの点検と調整



点検のしかた

主クラッチペダルを軽く手で押し、ペダルの遊びが30～40mmになっているか確認してください。

調整のしかた

クラッチロッドのアジャスタのロックナットをゆるめ、ロックナットを回して調整してください。

重要

- 調整後は、ロックナットを確実にしめつけてください。

> ⚠ 警告
>
> 調整が合っていないと、クラッチが切れず、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■バッテリの点検と取扱い

●バッテリ液の点検

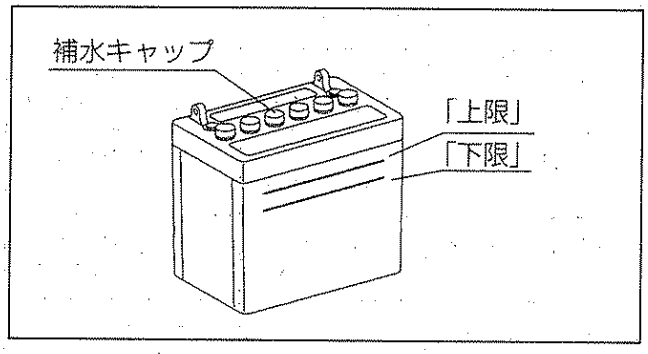
⚠ 危険

(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液(電解液)は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。
(11ページを参照してください。)

バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリの前面に2本の線(レベル)があり、その間に液面があればよく、少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。



重要

● バッテリ液が不足すると、バッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させます。

■バッテリの取扱い

(1) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。

(2) バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行なってください。
夏期..... 1ヵ月毎
冬期..... 2ヵ月毎

(3) 田植機を長期格納する場合は、バッテリを外し、日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。どうしても田植機に取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側(⊖側)を外してください。

(4) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式(32A19L)のバッテリを使用してください。

重要

●バッテリは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

●バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。

● 充電は、バッテリの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。

●バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、⊖のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

●バッテリコード(端子)を取り外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりします。

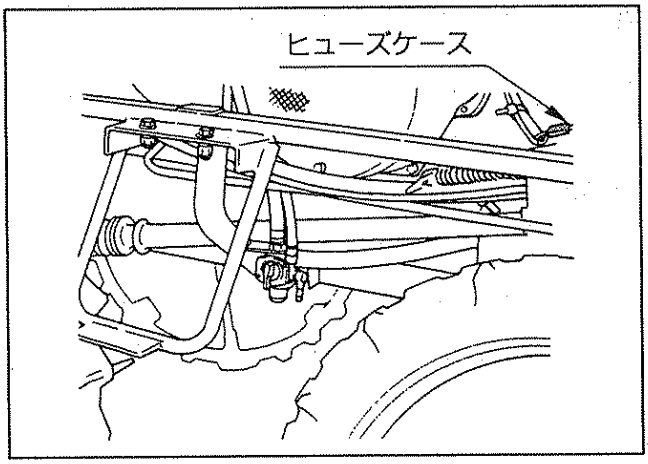
■ヒューズの交換

〈D型〉

(1) ステップを開き、ヒューズケース２個を開いてください。

(2) 中にヒューズが合計3本入っています。切れたヒューズを外します。(5A,30Aのヒューズ管)

(3) 同容量のヒューズと交換してください。



> ⚠ 注意
>
> 部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行なってください。これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

重要

- ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買いあげいただいた販売店、又は、農協へご相談ください。

■ランプの交換

●ランプを外し、同型のランプと交換してください。

重要

- ランプが切れた場合は、お買上いただいた販売店、または農協でご注文ください。

> ⚠ 注意
>
> 部品交換をするときは、エンジンを停止してください。

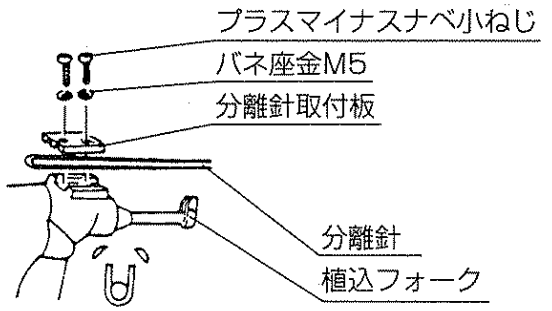
コード番号	品名	使用場所
1403-621-031-00	バルブ (12V、3.4W)	モニターランプ
2131-524-204-10	デンキュウ (12V、8W)	センター マスコットランプ
2157-532-201-00	バルブ (12V、21W)	ヘッドランプ
1403-621-031-00	バルブ (12V、3.4W)	オートマーカ スイッチランプ
1502-621-211-00	ヒューズ (32V　30A)	メインハーネス
1432-621-273-00	ヒューズカン (5A×30)	メインハーネス

■分離針の点検交換

・分離針が磨耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。この様な時は分離針を交換してください。

(1) プラスマイナスナベ小ネジ(M5×16)を外し、分離針を外す。

(2) 新しい分離針を取り付けてください。



分離針の取付方向

長期格納時の手入

⚠ 注意

(1)点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止してください。
(2)燃料抜取時は火気厳禁。
(3)燃料がこぼれた場合はきれいにふき取ってください。
　火災の原因になり大変危険です。

(1) エンジンを運転しながら各部の泥、ヨゴレをていねいに水洗いし、終っても２～３分エンジンを続けて運転してから止めてください。
(2) 水洗後水滴を十分ふき取ってください。
(3) グリースを注入・塗布およびオイル注油は、30、31ページを参照して作業を行ってください。

■長期格納

(1) 格納場所は直射日光の当たらない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けるようにしましょう。

⚠ 警告

作業が終了して、シートカバーなどを機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(2) 燃料は必ず抜き取ってください。
① 燃料タンク、気化器
　燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。
② ポット
　リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油、ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。

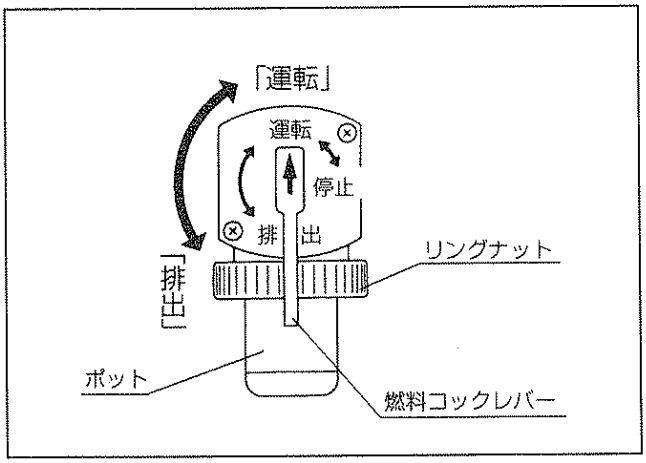
⚠ 危険

放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となる恐れがあり、大変危険です。

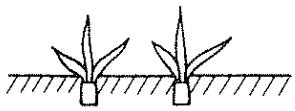
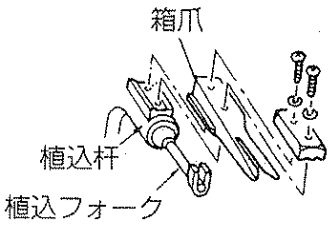
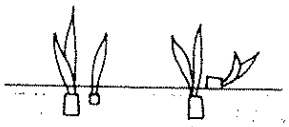
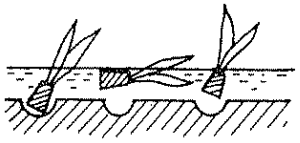
(3) 植付部は降ろしてください。
(4) クラッチペダルは踏込みロックしてください。
(5) バッテリーは取りはずし補充電を行い日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。

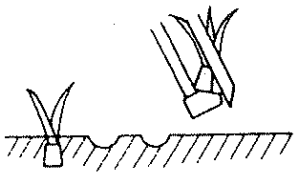
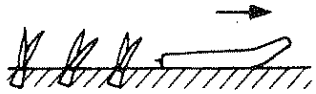
重要

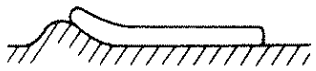
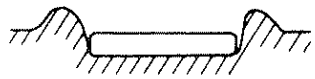
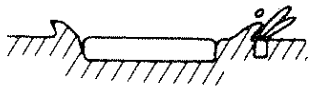
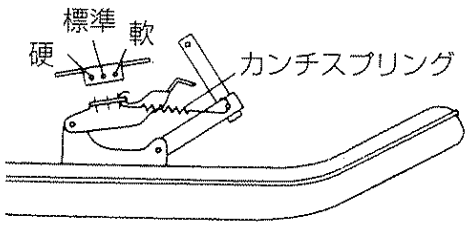
- 夏期には月１回、冬期には２ヵ月に１回補充電をするとバッテリーが長く使用できます。

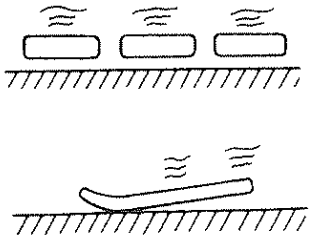
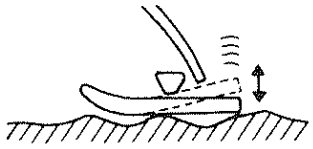


不調時の処置

No.	不調の内容	原因	処置方法
1	苗がバラけて植わる。 	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	●苗に水をかける。 ●箱爪を使用する。 24回取り フィンガ(13/T)(注文部品) ブロックフィンガ(注文部品) 20回取り フィンガ(14)SET(注文部品) フィンガ(14/T)SET(注文部品)  ●植付速度を遅くする。
		●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。
		●植付速度が早すぎる。	●植付速度を遅くする。
2	苗が一本、二本だけ離れ植付がみだれる。 	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	●抵抗棒のセット位置をかえる。(49ページ参照) ●苗に水をかける。 ●ブロックフィンガを使用する。(84ページ参照)
		●抵抗棒のセット位置が悪い。	●抵抗棒のセット位置をかえる。(49ページ参照)
		●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。
3	爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。 	●ほ場が硬い。 ●砂質系のほ場	●水を1～2cm入れほ場の表土を軟らかくして植える。 ●代かき直後に植える。

No.	不調の内容	原因	処置方法
4	苗が植付爪より離れず欠株または苗がコロブ。  	●苗床が粘土質で粘りが強い。 ●粘土質のほ場で水が少ない。 ●抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のかけすぎ) ●植込フォークの押し出しが遅い。	●苗床の十分水が含む様、水をかける。 ●ほ場に1～2cm程入れる。 ●抵抗棒のセット位置をかえる。(49ページ参照)
5	前進方向に傾き植わる。 	●抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のかけすぎ)	●抵抗棒のセット位置をかえる。(49ページ参照)
6	前進方向と反対側に傾き植わる。 	●抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のが弱い)	●抵抗棒のセット位置をかえる。(49ページ参照)

No.	不調の内容	原因	処置方法
7	フロートで泥を押す。 	●油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。 ●田んぼの表土がやわらかい。	●油圧感度調節レバーを「軟い」方向に泥を押さなくなるまで移動させる。
	フロートが沈み跡が深く付く、又は苗が内側に倒れ込む。  	●植付速度が早すぎる。 ●田んぼの表土がトロトロでやわらかい。	●植付速度を遅くする。 ●水を落し表土を硬くする。又は硬くなるまで植付を延期する。
	サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。 	●苗を多く乗せすぎている。	●苗のせ台に苗を多く（２枚）のせない。
			重要 上記でも直らない場合、カンチスプリングの引掛け位置を下図の様に機体前方の穴(軟の穴)に掛けかえてください。 

No.	不調の内容	原因	処置方法
8	フロートが浮き上がる。 	●油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。 ●油圧感度調節レバーが「植付部固定」の位置になっている。	●油圧感度調節レバーを「硬い」方向にフレートが浮き上がらなくなるまで移動させる。 ●油圧感度調節レバーを植付できる適正な位置に移動させる。
9	植付部全体がバタバタする。 	●油圧感度調節が「軟い」側によりすぎている。 ●エンジン回転数が高すぎる。 ●田んぼの耕盤が凸凹している。 ●土のかたまりの上にセンターフロートが乗っている。	●油圧感度調節レバーを「硬い」方向にバタつきがなくなるまで移動させる。 ●エンジン回転数をさげる。 ●植付速度を遅くする。 ●そのまま前進する。 ●植付レバーを油圧「固定」位置にする。
10	サイドフロートの片方だけが浮き上がる。 	●植付部の左右のバランスがとれていない。	●バランススプリングの張りをかえ左右のバランスを取る。（販売店、農協に御相談ください。）

農作業を安全に行なうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。

取扱説明書の内容と併せて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

第１　一般共通事項

1. 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行なう作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

2. 就業の条件

(1) 安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業(以下「機械作業」という。)に従事するものは、機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図るとともに、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

(2) 就業者の条件

ア、次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

(ア)精神病者

(イ)酒気をおびた者

(ウ)若年者

(エ)未熟練者

(オ)過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な運転操作ができない者

イ、はげしい作業が続く場合には特に健康に留意し、適当な休けいと睡眠をとること。また妊娠中の者は振動を伴う機械作業に従事しないこと。

(3) 特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

3. 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。

また、機械には、子供を近寄らせないよう注意すること。

4. 安全のための機械管理

(1) 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行ない、つねに機械を安全な状態に保つこと。

(2) 防護装置の点検

ア、機械作業に従事する事は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

イ、機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備又は修理等のために取りはずした場合は、必ず復元しておくこと。

(3) 揚げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

(4) 整備工具の管理

点検整備に必要な工具を適正に管理し、正しく利用すること。

5. 火災、爆発の防止

(1) 引火、爆発物の取り扱い

引火又は爆発のおそれのある物質の貯蔵、補給等に当たっては、その取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

(2) 火災予防の措置

火災のおそれがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等、火災防止の措置を講じること。

6. 服装及び防護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び防護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

(1) 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び落下物のおそれの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

(注) 田植機に乗ったままで道路を走行する事はできません。

(2) 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機又は駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭等が巻き込まれないように適正な帽子及び作業衣等を使用すること。

(3) 足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等のおそれのある場合は、これらの事故を防止するために適正なはきものを用いること。

(4) 粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあたっては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

(5) 農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具(保護衣を含む)を使用すること。

(6) はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音の伴う作業にあたっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

(7) 保護具の取り扱い

安全保護具を、常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

第2　移動機械共通事項

1. 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業する機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

2. 作業前の注意事項

(1) 機械の点検整備

ア、機械の点検整備を十分に行い、その使用にあたっては常に安全を確認すること。

イ、機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。

特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

ウ、装着する作業機の種類により前後左右のバランスが大きく変るおそれがある場合には、バランス・ウエイト等により適正なバランスを保つこと。

(2) 防護装置の保全

ア、機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。

イ、機械の点検整備等のために防護装置を取りはずした場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

(3) 悪条件下における作業

土地条件、気象条件等にようり機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等の注意すること。

3. 作業中の注意事項

(1) 乗車等の禁止

ア、機械作業の際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。

イ、非常の場合を除いて、運行又は作業中の機械に飛び乗り、又はこれから飛び降りないこと。

ウ、機械作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(2) 前方及び後方の安全確認

運行中又は作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

(3) 転倒落下の防止

ア、傾斜地における機械作業においては機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。

イ、ほ場への出入り、溝又は畦畔の横断、軟弱地の通過等の際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。

ウ、機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

(4) 傷害の防止

ア、動力伝導装置、回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

イ、刃又は鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

ウ、作業中に土塊・石等が飛散する作業においては、飛散物によって傷害が起こらないように注意すること。

(5) 夜間における安全

夜間作業においては、特に安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

(6) 作業中の点検調整等における安全

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行なうこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、更に車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

4. 終業後の点検整備

(1) 終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

(2) 作業機のとりはずし

作業機の取りはずしは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。特に夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行なうこと。

(3) 機械の安全管理

作業終了後は、作業機ははずし、又はおろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。

また、危険と思われる機械は、格納庫の保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

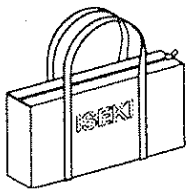
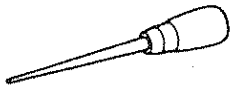
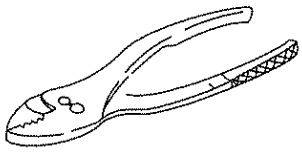
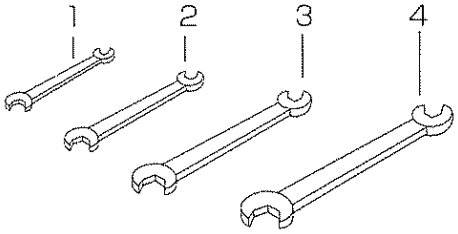
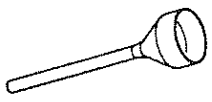
主要諸元

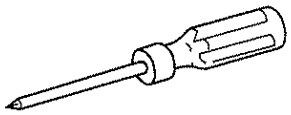
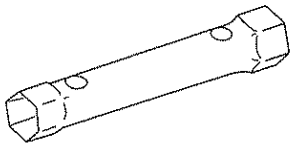
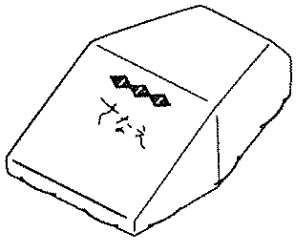
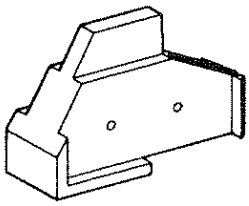
名称			PM50D	PM40HD	PM40D		PM40	
型式名			ヰセキPM50	ヰセキPM40				
区分			CW	C, CN18 CU, CB	CW, CN18W CUW	CAW	CW	CSW
駆動方式			4輪駆動					
機体寸法	全長	(mm)	2560		2450			
	全幅	(mm)	1750	1490		1610	1490	
	全高	(mm)	1500	1350	1320			
	最低地上高	(mm)	350		310			
重量		(kg)	405	360	335		300	
エンジン	型式名		FG230G-5SX				FG200G-17X	
	種類		空冷4サイクル1気筒立型ガソリンエンジン					
	総排気量	(cc)	0.232				0.201	
	出力/回転速度	(PS/rpm)	4.2/1800				3.6/1800	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン					
	タンク容量	(ℓ)	4.5					
	始動方式		セルモータ式				リコイル式	
走行部	かじ取り方式		センタヨーク式					
	車輪 種類	前輪	ノーパンクタイヤ×2					
	車輪 個数	後輪	太リムゴムラグ車輪×2		ゴムラグ車輪×2			
	車輪 外径 (mm)	前輪	600		550			
		後輪	750		700			
	変速段数	(段)	前進2、後進1					
植付部	植付部の位置		後部					
	植付部の昇降方式		油圧式					
	植付部の装着方式		4点リンク					
	植付方式		ロータリー					
	植付条数	(条)	5	4				
	植付条間	(cm)	30			33	30	
	植付株数	(株/3.3m²)	45・50・60・70・80・90				43・50・55・65・75・85	
	植付深さ	(cm)	0～4.6(9段)					
	株本数調節方法		横送り14～17.5mm/株、縦かき取り8～17mm/株(縦かき取り8～21mm/株　N18型)					
植付速度		(m/秒)	0.20～0.50(低速) 0.34～0.90(高速)	0.23～0.59(低速) 0.40～1.00(高速)				
作業能率		(分/10a)	19～35	22～36				
苗条件	苗の種類		マット苗(マット苗、ヰセキポット苗N18型)					
	草丈	(cm)	稚苗10～18、中苗15～25(ヰセキポット苗10～20　N18型)					
	葉令	(葉)	稚苗2～2.5、中苗2.4～4(ヰセキポット苗3.7以上　N18型)					
予備苗とう載数		(箱)	6	4			オプション	4
型式検査合格番号			18044	15045				

機能装備一覧表

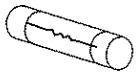
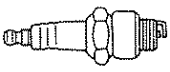
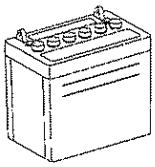
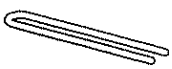
		PM50D	PM40HD		PM40D		PM40	
		C	CU	CB	C	CU	C	CS
エンジン	FG200G						○	○
	FG230G	○	○	○	○	○		
始動	リコイルスタータ式						○	○
	セルモーター式	○	○	○	○	○		
パワーステアリング			○			○		
ロングホイルベース		○	○	○				
補助苗枠		○	○	○	○	○		○
オートマーカ		○	○	○	○	○		
大株仕様				○				

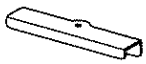
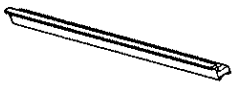
標準付属品一覧表

形　　状	型　式	品　　名	部品コード	個数
	全型式	マニュアル (オペレーション)	2157-970-001-40	1
	全型式	ナエトリイタ	2100-601-001-10	1
	全型式	ナエトリクチゲージ(N. H)	2144-930-002-10	1
	全型式	コウグブクロ	3560-702-001-10	1
	全型式	アブラサシ	3502-602-004-00	1
	全型式	プライヤG150	V922-150-015-00	1
	全型式	①リョウグチスパナ(7×8) ②リョウグチスパナ(10×13) ③リョウグチスパナ(12×14) ④リョウグチスパナ(17×19)	V922-150-700-80 V922-151-001-30 V922-151-201-40 V922-151-701-90	1 1 1 1
	全型式	PLジョウゴ　ASSY	2130-931-200-00	1

形　　状	型　式	品　　名	部品コード	個数
	全型式	サシカエドライバ ASSY	2130-931-210-00	1
	全型式	ツール(レンチ)14×21	5921-102-098-××	1
	全型式	タウエキカバー	2132-935-004-00	1
	PM50 Nを除く	フォークピース	2161-738-001-00	10
	PM40 Nを除く	フォークピース	2161-738-001-00	8

主な消耗部品一覧表

図番	形　状	型　式				品　名	部品コード	備　考
		C	DC	HDC	N			
1		○	○	○	○	Vベルト(SB034)	2157-131-005-00	亀裂時又は摩耗時交換
		○	○	○	○	Vベルト(SB031)	2157-131-006-00	
				○		ベルト(VB040)	2161-131-026-00	
		○	○		○	Vベルト(SB040)	2157-106-001-00	
2			○	○	○	ヒューズカン(5A×30)	1432-621-273-00	ヒューズ切れ時交換
						ヒューズカン(32V30A)	1502-621-211-00	
3		○	○	○	○	バルブ (ランプ、12V23W) (ヘッドランプ用)	1426-621-002-00	ランプ切れ時交換
4		○	○	○	○	バルブ(12V8W) (センターマスコットランプ用)	2132-524-204-10	
5		○	○	○	○	バルブ (ランプ、12V3.4W) (モニターランプ用)	1403-621-031-00	
6		○	○	○	○	プラグ(スパーク)B-2H	5920-702-086-××	
7			○	○	○	バッテリー (32A19L)ASSY	2145-541-200-00	
8		○	○	○	○	ブンリバリ	2142-736-247-00	摩耗又は変形時交換

図番	形　状	型　式				品　名	部品コード	備　考
		C	DC	HDC	N			
9		○	○	○	○	マエイタスライダ	2161-831-002-00	摩耗時交換
10		○	○	○	○	ナエタンクローラ	2142-801-005-20	
11						しゅう動板 マエイタ(4) マエイタ(4×A) マエイタ(4N) COMP	 2157-805-001-00 2157-805-002-00 2144-805-430-10	
12						しゅう動板 マエイタ(5)	2157-805-081-00	
13		○	○	○	○	各ケーブル		作動が重くなったら交換

注文部品一覧表

No.	SET品名	部品コード	対象型式	参考情報資料
1	ホジョシャリン(PM40)SET	8821-024-000-10	PM40HD以外	
2	ホジョシャリン(PM40-HD)SET	8821-024-700-00	PM40HD型	
3	ホジョシャリン(700)SET	8821-032-200-10	PM40HD型	
4	セヒキ(FTM40)SET	8835-000-001-20	PM40-A型以外	
5	セヒキ(FTM40-A)SET	8835-000-002-10	PM40-A型	
6	セヒキ(FTM50)SET	8835-000-003-00	PM50(A型以外)	
7	ポット(N18/4)SET	2144-808-600-00	PM40(N型以外)	
8	ヒロハバブンリバリSET	2144-809-200-00	PM40(N型以外)	
9	ワイドフィンガSET	2144-810-200-00	PM40(N型以外)	
10	ブロックフィンガ(15)	2144-812-001-00	N型	
11	ポットガイド(1ジョウ)SET	2144-806-200-00	PM40-B型	
12	ニュウビョウ(1ジョウ/N)SET	2144-818-200-00	全型式	
13	ニュウビョウ(1ジョウ/PA)SET	2144-818-220-00	全型式	
14	ストッパ(ナエトリ)SET	2144-818-210-00	全型式	
15	ポット(18/5P)SET	2145-808-600-10	PM50(N型以外)	
16	ナエスベリセン(1ジョウ)SET	2145-807-200-00	全型式	
17	ウコミカングリス(300G)ASSY	8849-001-200-00	全型式	
18	ウコミカングリス(150G)ASSY	8849-001-300-00	全型式	
19	ウエイト(5KG)	2157-161-100-00	全型式	
20	ウエイト(25)SET	2157-162-200-00	全型式	
21	ナエワクSET	2157-513-200-00	PM410(D型以外)	
22	ブロックフィンガ	2111-359-001-00	N型以外	
23	フロントホイルキャップSET	2157-316-200-00	PM40HD, PM50型	

索　引

	項　目	ページ
あ	アクセルレバー	20
	アユミ板	6
	安全クラッチが作動したとき	58
	安全のポイント	1
	安全表示ラベル	12
う	植えじまいのしかた	56
	植込杆「切」モニター	18
	植込杆停止レバー	24
	植付株数の決めかた	42
	植付クラッチモニター	18
	植付クラッチレバー	24
	植付深さ調節のしかた	45
	植付深さ調節レバー	25
	運搬中の固定方法	39
え	エアクリーナエレメントの洗浄	63
	エンジンオイル	28
	エンジンオイルの交換	63
	エンジンスイッチ	16
	エンジンの始動	32
	エンジンの停止	34
お	オイルの注油箇所	30
	オートマーカスイッチ	17
	オートマーカの使いかた	54
	主な消耗部品一覧表	82
か	株数切替レバー	23
	株数副変速レバー	23
き	機能装備一覧表	79
	きょう雑物	41
く	クラッチペダル	20
	グリスの塗布箇所	30
さ	座席の調節	23

	項　目	ページ
し	代かき	41
	しゅう動板ｶﾞｰﾄﾞ	37
	主変速レバー	22
	主要諸元	78
す	水深	41
せ	旋回のしかた	53
	前輪デフロックペダル	22
	センターマスコット	19
そ	走行のしかた	36
ち	駐車のしかた	36
	駐車ブレーキレバー	21
	注文部品一覧表	84
	長期格納	70
	チョークノブ	20
て	抵抗棒の調節のしかた	49
	停止のしかた	35
	点火プラグの清掃	64
	点検、給油調整一覧表	61
と	トラックへの積み降ろしのしかた	6、38
な	ナエオサエ	25
	苗送り量の調節のしかた	47
	苗ストッパー	25
	苗取量調節レバー	24
	苗取量の調節のしかた	46
	苗の準備	42
	苗のせ台	51
	苗補給のしかた	55
ね	燃料	28
	燃料コックレバー	32
	燃料フィルターの清掃	64
の	残り苗の取り出し	58

	項　　目	ページ
は	発進のしかた	35
	バッテリ	10、11
	バッテリの点検と取り扱い	67
ひ	標準付属品	80
	ヒューズの点検交換	68
ふ	副変速レバー(ダブルテンションレバー)	22
	ブレーキペダル	21
	分離針の点検交換	69
ほ	ほ場からの出かた	40
	ほ場の準備	41
	ほ場への入りかた	40
	ホーンスイッチ	16
ま	マーカモニター	18
	マーカレバー	26
	枕地のとりかた	35
め	メインスイッチ	16
ゆ	油圧感度調節レバー	24
	油圧感度調節のしかた	48
よ	横送り切替レバー	25
	横送りシフタ	25、44
	横送量の調節のしかた	44
ら	ランプの交換	68

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。

市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

井関農機株式会社

本社	〒799-26	松山市馬木町700	☎0899-78-1211
本社事務所営業本部	〒116	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号（FSビル）	☎03-5604-7625
営業北海道支店	〒060	札幌市中央区北一条西17丁目(北都ビル)	☎011-621-6277
〃	〒068	岩見沢市5条東12丁目5番地	☎0126-22-2666
営業東北支店	〒989-24	宮城県岩沼市下野郷新南長沼1-2	☎0223-24-1111
営業関東支店	〒300-23	茨城県筑波郡伊奈町青木560	☎0297-58-5131
営業関西支店	〒523	滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602	☎0748-37-3831
営業中四国支店	〒799-26	松山市馬木町700	☎0899-79-4111
営業九州支店	〒861-22	熊本県上益城郡益城町大字安永1400	☎096-286-5888

2157-970-001-4F